

今こそ行動を！

常識を変えていく

アジア太平洋地域における強制された早すぎる結婚が根強く残る社会規範・ジェンダー規範の弊害特定とジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチによる取り組みの地域研究

プラン・インターナショナル アジア太平洋地域統括事務所
2022年6月

今こそ 行動を！

表紙写真：© Plan International

詳しくはこちらまでお問い合わせください。
Quynh Tran Thu (Ms.)
Regional Communications and Campaigns Lead
Quynh.TranThu@plan-international.org

プラン・インターナショナル アジア太平洋地域統括事務所
14th floor, 253 Asoke Building
Sukhumvit soi 21, Klongtoey Nua – Wattana
Bangkok 10110, THAILAND
www.plan-international.org

プロジェクトマネージャー、スーパーバイザー
Raša Sekulović (Mr.)
子どもの保護とパートナーシップ地域責任者。アジア太平洋地域における強制された早すぎる結婚の撲滅に向けた取り組みの加速化を目指すTIME TO ACT!プロジェクト地域責任者
Rasa.Sekulovic@plan-international.org

デザイン: QUO Bangkok
プロデュース: QUO Bangkok

2022年6月、プラン・インターナショナルより初版発行
文・イラスト・デザイン © Plan International 20222

本報告書は、プラン・インターナショナル・ジャパンの資金援助により実現しました。

謝辞

社会規範およびジェンダー規範の把握、強調、特定、策定、変革（SHIFT）ツールは、プラン・インターナショナルアジア太平洋地域統括事務所の実践的な指導により、ResultsinHealth（RiH）がプラン・インターナショナル向けに開発したものである。RiHは、アジアにおいて社会規範、特にCEFM（CEFM＝Child, Early and Forced Marriage 早すぎる、強制された児童婚）が根強く残るジェンダー規範について広範な調査を実施し、ジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチ（GTA）を通じて、これらの規範の変革方法と変革測定に関する有望な施策に関するグローバルな知識とエビデンスを統合した。

ResultsinHealth
Evidence, Innovation and Practice

調査の設計と実施、SHIFT社会規範・ジェンダー規範ツールの開発において、全体的な戦略的・技術的役割を果たしたRiH最高責任者、ジェンダー専門家・コンサルタントKatherine Marie Belen、およびRiHチームの他のメンバーに謝意を表したい。Nur Hidayati（評価専門家）、Lingga Tri Utama（プロジェクトマネージャー）、Titing Martini（事務局支援者）に謝意を表する。

また、プラン・インターナショナルアジア太平洋地域統括事務所のRaša SekulovićとWilasinee Sittisomboon、そしてこの調査プロジェクトに関わったプラン・インターナショナルのCEFM Focal Points、Kashfia Feroz（バングラデシュ）、Sawada Chan Krisna（カンボジア）、Megawati（インドネシア）、Israt Baki（ラオス）、Shanti Upadhyaya（ネパール）、Etha Mota（東ティモール）に謝意を表する。

PLAN INTERNATIONAL

今こそ行動を！

常識を変えていく

アジア太平洋地域における強制された早すぎる結婚が根強く残る社会規範・ジェンダー規範の弊害特定とジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチによる取り組みの地域研究

プラン・インターナショナルアジア太平洋地域統括事務所
2022年6月



目次

略語一覧 v

要旨 vi

A. 概要 1

1. はじめに 2

1.1 背景・理由 2

1.2 研究目的と質問事項 4

2. 研究方法 5

2.1 研究デザイン 5

2.2 実用ツールパッケージの開発 7

2.3 制限事項 8

B. 研究結果 9

3. アジアにおいてCEFMを根付かせている社会規範・ジェンダー規範への対応 10

3.1 社会・ジェンダー規範の定義と概念化 11

3.2 CEFMを根付かせている社会規範・ジェンダー規範 16

4. アジア太平洋地域内でCEFMを根付かせている否定的で有害なジェンダーおよび社会規範をより悪化させている公式・非公式な権力構造とシステム 30

4.1 CEFMを根付かせている主要な権力者で、関与が必要な人びと 30

4.2 CEFMを根強く残す社会規範・ジェンダー規範を増幅・拡大させる構造・システム 34

5. 公式・非公式な構造においてCEFMを根強く残す社会規範・ジェンダー規範を変革する上で実施可能な対抗策と介入策に関する提言 39

C. CEFMを根強く残す社会規範・ジェンダー規範を変革するジェンダートランスフォーマティブ・アプローチの適用 43

6. CEFMを根強く残す社会規範・ジェンダー規範に対抗するための、ジェンダートランスフォーマティブアプローチによる効果的な実践例のまとめ 45

7. アジア太平洋地域におけるCEFMを根強く残すジェンダー・社会規範の変化を測定する指標の提案 50

CI. 研究における次なるステップと更なる領域のプログラム作成 53

CII. CEFMを根強く残す社会的規範とジェンダー規範の変化を分析・測定する実践的なツール 57

a. 本ツールパッケージについて 59

b. SHIFT社会規範・ジェンダー規範ツールの主な質問と要素 60

c. 活動内容・案内 62

S – CEFMを根強く残す規範の根底にある要因の把握 62

H – 社会規範・ジェンダー規範の強調 64

I – 規範の亀裂や例外の特定 68

F – 社会規範・ジェンダー規範の変革目標の策定 72

T – 有害な社会規範・ジェンダー規範の変革 74

付録1 キー・インフォーマント（情報提供者）インタビューの調査質問とガイド質問事項 77

付録2 同意書 82

付録3 キー・インフォーマントのリスト 84

参考文献 86

図

図1　ジェンダー規範に影響を与える社会構成の5つの領域　6
図2　CEFMの推進要因　10
図3　何がジェンダー規範の変化を促すのか　13
図4　早すぎる結婚の原因となるジェンダー規範と認識　34
図5　CARE SNAPのフレームワーク　49
図6　フィッシュボーンダイアグラム例　63
図7　フォースフィールド分析結果例：CEFM廃止の賛成・反対勢力　72

表

表1　ジェンダー規範変革の促進もしくは阻害条件　15
表2　CEFMを根強く残す社会規範・ジェンダー規範の主要指標　51
表3　VAWG防止介入における効果的な設計と実施要素　55
表4　SHIFTツールパッケージの主な要素と活動内容　61
表5　体系的なブレーンストーミングのテンプレートと主な質問事項　64
表6　フォーカス・グループ・ディスカッションまたは実施済み／ガイド付き調査の主要な質問事項　66
表7　社会規範・ジェンダー規範の変革目標を策定のための行動・参加者・抱負（3As）の活用　73
表8　社会規範・ジェンダー規範の変革のに向けたジェンダー・トランスフォーマティブ介入実施における機会と課題を特定のテンプレート　75

略語一覧

APAC	アジア太平洋地域統括事務所
CEFM	強制された早すぎる結婚
CEP	コミュニティ・エンパワーメント・プログラム
CSE	包括的性教育育
DRC	コンゴ民主共和国
EBI	エビデンスに基づく介入主共和国
ERIC	子どもを対象とした倫理研究介入
FGD	フォーカスグループ・ディスカッション倫理研究
FGM/C	女性性器切除
GTA	ジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチ
IGA	収益化活動
IPV	配偶者間暴力
KII	キー・インフォーマント・インタビュー（重要情報提供者に対するインタビュー）
LDG	試聴・討論会
MER	モニタリング・評価・調査
NPSV	パートナー間性暴力
RiH	ResultsinHealth （オランダに拠点を置く女性経営の国際開発企業　https://resultsinhealth.org/
SAA	社会的分析と行動際開発企業　https://resultsinhealth.org/
SDG	持続可能な開発目標発目標
SGBV	性とジェンダーに基づく暴力
SHIFT	把握、強調、識別、形成と変容
SNAP	社会規範分析プロット
SRHR	性と生殖に関する健康と権利
TESFA	思春期の女の子たちの経済的・性的リプロダクティブ・ヘルス（性と生殖に関する健康）の成果に向けた連合
UNFPA	国際連合人口基金
UNICEF	国際連合児童基金
VAWG	女性や女の子に対する暴力
VSLA	村落貯蓄貸付組合
VSO	海外ボランティア活動
WHO	世界保健機関



要旨

強制された早すぎる結婚（CEFM）は、有害な慣習であり、子どもの権利と女の子と女性の権利の侵害であることが広く認識されている、世界的な課題である。過去10年以上にわたって、世界的にはCEFMの実践例は減少しているものの、ことアジア・太平洋地域においては、2030年までの撤廃を目指す持続可能な開発目標（SDG）の目標5.3を達成する軌道から外れている。

世界では、現在約6億5千万人の女の子や女性が18歳未満で結婚しており、その数は南・東南アジアが最も多い。世界の既婚の女の子の3人に1人、または約1,600万人がインドに住んでいる。その他、アジアで件数が多いのは、バングラデシュの250万人、パキスタンとインドネシアがそれぞれ120万人である。

CEFMは、男の子よりも女の子に対してより重大かつ有害な悪影響を及ぼす。女の子に課せられる役割や行動に関する深く根付いた社会規範や・ジェンダー規範は、CEFMを助長するだけでなく、女の子の教育、健康、福祉、社会参加、エンパワーメントに悪影響を及ぼし、女の子の性と生殖に関する健康と権利（SRHR）を侵害するものである。したがって、規範、態度、行動の間の複雑な相互作用を通じて、社会規範やジェンダー規範がどのようにCEFMを永続させるのかについての知識とエビデンスを増強する必要がある。

プラン・インターナショナルのジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチ（GTA）に沿って、アジア太平洋地域統括事務所（APAC）は、この地域でCEFMを根強く残す社会ジェンダー規範に関する世界的な知識の強化に貢献するためにこの調査に乗り出した。規範とは、個人の姿勢とは異なり、コミュニティや社会集団における「行動を支配する非公式なルール」のことである。具体的には、社会規範とは準拠グループ（自分が属すると認識している集団）の人々の期待に基づき、「典型的」かつ「適切」な行動であると各個人が信じるものである。



一方、ジェンダー規範は、社会において男性と女性に許容できる適切な役割と行動を定義する社会規範全般の一部分である。

本調査は詳細な文献調査と情報提供者へのインタビューを基に、南・東南アジアにおいて、CEFMを根付かせる原因と既婚女性の状況を悪化させている負の社会的・ジェンダー的規範を明らかにしている。また、社会的規範やジェンダー規範が様々な構造やセクターでどのように増幅されているかを検証し、GTAを用いてこれらの有害な規範に対抗するための提言を展開している。加えて、社会的規範やジェンダー規範の変化の測定指標や測定基準、また有害な規範を転換するための有望な実践やアプローチも提示している。また、可能な限り、好ましい規範の例も示している。

今回の調査結果は、社会的・ジェンダー的規範が思春期の女の子の自由、資源へのアクセス、意思決定への参加を妨げているという主張を再認識させるものになっている一方、この調査はより詳細な情報収集の必要性にも言及しており、CEFMを根強く残す特定の社会規範・ジェンダー規範について、ターゲットを絞った情報を提供している。懸念される特定の社会規範・ジェンダー規範を以下に挙げる。

- 結婚および家族の名誉の重要性
- 家庭における妻や母親としての女性の役割の地位の低さ
- 女の子の移動における制約制約
- セクシュアリティやSRHR、女性らしさ、男性らしさの伝統的な思い込み
- 家族の名誉維持のために最優先事項と考えらえる結婚前の処女性と貞操
- 女の子や女性の資源の利用と資源からの利益制限
- 女の子の発言力や主体性を妨げるジェンダー規範を悪化させる年長者や親への服従と年齢による上下関係

さらに、家父長制社会では女の子の価値が低く見られるジェンダー規範のため、結婚した女の子の主体性、自律性、機会へのアクセスが制限されることから、性的およびジェンダーに基づく暴力のリスクにさらされる（SGBV）。

CEFMを継続させる社会規範・ジェンダー規範に対抗する提言として、次の戦略的行動が挙げられる

- 女の子をエンパワーメントする取り組みへの投資と実施
- ユース主導型活動のパートナーとしての若者の参画
- 有害な社会規範・ジェンダー規範変革へ向けた信仰に基づく指導者との活動
- 女の子の教育に影響を及ぼす社会規範・ジェンダー規範に関する各家庭およびコミュニティの啓発活動
- ジェンダーに配慮し、文脈に応じた包括的な性教育とSRHR情報およびサービスの提供
- 変革の主体としての男の子や男性の参画
- 有害な規範と行動の変容とジェンダー平等に関する法の最適化とその実施強化のための多角的な戦略

さらに本報告書では、プラン・インターナショナル（およびCEFM撲滅に関わる活動家）が調査研究から学び、GTAを使って社会規範・ジェンダー規範を変えるプログラミングを行うための次のステップに関する具体的な提言を示している。以下は、文献調査、キー・インフォーマント（情報提供者）インタビュー、オンラインワークショップから得られた知見に基づく5つの主要な提言である。

1. 当初から社会規範・ジェンダー規範の変革目標を提示した上で、プログラムを設計する

社会規範やジェンダー規範の変化に焦点を当てることは、一般の人びとの意識向上や、個人の態度を変えることに焦点を当てた、従来の行動変容介入を超える必要があることを意味する。なぜなら、個人は社会的規範に反対だとしても、社会的反発への恐れや、社会的帰属の希求から、規範を受容してしまうことがあるため、個人の意識を変えても必ずしもその行動が変わるとは限らないからだ。このため、変革戦略を策定するにあたって、社会的およびジェンダー規範の変革目標を先に特定した上で介入策を設計することがより重要になる。従って、プロジェクトの成果の枠組みが、個人レベルの変化を測定することにとどまらず、前項で提示された社会規範およびジェンダー規範の変化の指標が反映されたものでなければならない。さらに、プラン・インターナショナルのGTAは、変化を加速させ、ジェンダー不平等の根本原因に取り組む6つの要素が、CEFMの介入策のプログラム設計に確実に反映されるよう利用されなければならない。

1. ライフコース全体のジェンダー規範対策
2. 女の子とユース女性の主体性強化
3. 女の子、ユース女性、女性たちの状況および地位の向上
4. ジェンダー平等を理解し、ポジティブかつ多様な男性らしさを行使できるよう男の子ユース男性、男性たちの活動参加
5. あらゆる多様性を持つ女の子と男の子のニーズと関心への対応
6. ジェンダー平等と女の子の権利のための環境整備



2. 社会・ジェンダー規範を大きく変化させた、エビデンスに基づく介入から学びを得る

エビデンスに基づく介入（EBI）とは、モデルプログラムとも呼ばれ、意図する結果の達成に有効であることが科学的に検証された厳密な評価を示す効果的なプログラムである。プログラム開発者および実行者は、他の予防分野の評価済みプログラム（親密なパートナーからの暴力（IPV）、意図しない妊娠、HIVなど）から学ぶことも可能だ。これらは、ジェンダー平等とジェンダーに基づく有害な社会規範、特に禁止規範（すなわち規範的期待、周りの人々が「当たり前」と考えていると各個人が信じ込むこと）の削減において、測定可能な成果と数値化可能な進捗度の達成が過去に提示されている。評価済みの効果的なアプローチを社会規範・ジェンダー規範の変革に応用すれば、ゼロからの開発すよりも時間とリソースの節約になる。社会規範・ジェンダー規範変革に関するプログラム例は、本報告書のPromising Practices(有望な実践例)内に記載があるが、設計と実施が確認されているEBIの共通要素は、以下の通りである。

- 緻密な計画と強固な変革の理論とともに、現地事情の理解に根付いたものであること
- ジェンダーに基づく力（権力）関係の分析
- 女性のエンパワーメントの重視および批評的考察とコミュニケーション、紛争解決のスキルビルディングへの十分な時間の確保
- 年齢に応じたデザインと手法
- 慎重に選択されたスタッフとコミュニティは、適切なトレーニングとサポートを受け、社会規範・ジェンダー規範の変革介入を展開すること
- 生態学的枠組みを横断する戦略の選択–すなわち、主に個々の女の子への働きかけに焦点を当て、対人コミュニケーションや人間関係に取り組むものから、制度や政策レベルでの活動



3. 研究成果とデータの最大限に活用した社会規範・ジェンダー規範の変化に関するエビデンスに基づくプログラミングを行う

研究と実践の隙間を埋めるには、開発者と実行者の両方に役立つマニュアルの開発が必要だ。それはCEFMを根付かせている有害な社会規範・ジェンダー規範の変化を目的とした効果的なプログラム設計のためにCEFM研究を活用したものでなければならない。例えば、ある国では一般に男性は家事をしないが、コミュニティによっては若い父親が育児を手伝い始めている、といったある特定のジェンダー規範に例外が見られた場合、CEFMの撲滅に向けた前向きなメッセージと模範的行動として、特定した「ロールモデル」を普及させることが可能になる。また、地域事務所や国別事務所では、スタッフのデータ活用に関する能力開発を統合することができる。

4. 社会規範・ジェンダー規範の変化を促す介入の拡大と並行して、前向きな規範の強化を行う

社会規範がすべて悪で有害だ、と捉えないように指摘することが重要である。本研究が試みたように、社会規範はコミュニティや社会で役立つさまざまな機能を果たすことができ、女性や子どもの価値を促進するポジティブな社会規範も存在する。例えば、「親は子どもにとって最善となることを望んでいる」というポジティブな規範がある。ポジティブな社会規範・ジェンダー規範は、変化のための前向きな力として活用できることを考慮すべきだ。これは、例えば、「結婚を遅らせる」ことが、女の子にポジティブな利益をもたらすといった、ポジティブな規範が変更目的と実際に合致する例を提供すれば可能になる。よって一連のCEFM撲滅に含めることができる戦略のひとつが、有害な規範の転換に焦点を当てた対策の補足になり、ポジティブな規範を強化し、補強することになる。



5. 規範の変化が成功した原因について、さらなる研究を実施する

早すぎる結婚に関する調査研究は、大幅に拡大し、CEFM問題の理解に貢献してきた。CEFM撲滅を目的とした社会規範・ジェンダー規範の変革活動をより前進させていくためには、以下の点においてより多くのエビデンスの収集が必要とされる。

- CEFMを撲滅するという観点から、どのような介入が社会規範やジェンダー規範に変化をもたらすかを測定可能に示す評価研究研究
- 女の子と女性の関連機関の介入の影響に関する調査研究研究
- 単一介入対包括的介入の影響比較と実施を含む社会規範の変更活動の影響に関する知識
- プロジェクト対象コミュニティにおけるポジティブな社会規範・ジェンダー規範例を、さらなる強化だするけでなく、CEFM撲滅の介入の一部分となるエントリーポイントとして利用できるように、特定する形成的評価

最後に、社会規範の変化測定において、社会規範理論に追随する既存の調査研究が不足していることから、実用的なツールパッケージであるSHIFT (把握、強調、特定、策定、変容)パッケージが開発された。SHIFT社会規範・ジェンダー規範ツールパッケージは、CEFMを根付かせている社会規範・ジェンダー規範に関する量的・質的データ情報の収集と分析のほかに、プロジェクト実施期間中の各段階における規範の変化測定を可能にしている。このツールは、新たに開発されたツールの他に、プラン・インターナショナルAPACの優先事項と南・東南アジア地域のCEFM関連プログラムに連携するよう調整されたツールの組み合わせで構成されている。このツールでは、以下の項目に対する手順、活動内容、ガイダンスを提示している。

1. 女の子と男の子、女性と男性の典型的で適切な行動に対する人々の期待を測定する
2. 社会規範・ジェンダー規範を遵守しない場合に対する制裁と、社会・ジェンダー的規範が維持、増幅されて理由いる理由をより深く理解する

要旨

コミュニティやグループにある既存の社会規範・ジェンダー規範を分析し、その変化測定を行う上で、以下の7つの重要な質問への答えを見出すために、プログラム、調査および評価チームをサポートすることをSHIFTツールパッケージの目的としている。

1. CEFMに最も影響を与える社会規範・ジェンダー規範は何か
2. 人はなぜ社会規範に従うのか
3. CEFMを根付かせ社会規範・ジェンダー規範を強化する強力な影響力を持つ門番の役割をしているものは何なのか
4. 社会的相互作用における制度やパワー・ダイナミクスを通じて、社会規範やジェンダー規範はどのように再生産され増幅されるのか
5. 規範に背いた場合の制裁はどの程度厳しいあるいは弱いと認識されているか
6. 「許容される」および/または「受け入れられる」例外的な社会規範・ジェンダー規範はあるのか
7. プロジェクト対象コミュニティ内メンバーの個人的な意識と彼らのコミュニティやグループにおいて彼らが信じる社会的な考え方の間に不一致はないか

SHIFTツールパッケージで提示されたCEFMを永続させる社会的・ジェンダー的規範を分析するための主な要素は以下の通りである:

S 推進要因と社会規範・ジェンダー規範の詳細把握

H 社会規範・ジェンダー規範の強調

I 規範と例外の間にある隙間の特定

F 変革目標の策定

T 社会規範・ジェンダー規範の変革

A. 概要



1 はじめに

1.1 背景・理由

1.1.1 アジア太平洋地域における強制された早すぎる結婚（CEFM）の現状

CEFMは、世界的な課題であり、子どもの権利や女の子と女性の権利の明白な違反として認識されている有害な慣習である。世界では、現在約6億5千万人の女の子と女性が18歳未満で結婚している[1]。**早すぎる結婚の割合はサハラ以南アフリカで最も高い（35%）が、南・東アジアおよび太平洋地域が次いで多く、世界の早すぎる結婚による花嫁の3人に1人、約1600万人がインドに住んでいる**[2,3]。その他、件数の多い国はバングラデシュで250万人、パキスタンとインドネシアでそれぞれ120万人[4]にのぼる。過去10年間、早すぎる結婚の数は減少してきたが、世界的な規模での進展は地域や国によって異なり、特にアジアでは、2030年までにCEFMを含む有害な慣行を撤廃するという持続可能な開発目標（SDG）の目標5.3の達成には、減少のスピードが十分ではない。年を追うごとに、世界的に非常に多くの早すぎる結婚が増え、彼らはほとんど何の改善策もないまま、あらゆる形態の暴力に直面することになる。

CEFMは女の子の教育、社会参加、エンパワーメントに大きな影響を与えるだけでなく、性と生殖に関する健康と権利（SRHR）を侵害し、自立性の制限、性的・身体的暴力の危険性を高めるといったことから、男の子よりも女の子により重大な悪影響を及ぼす。何よりもCEFMによって、女の子は多くのリソースや社会的責任へのアクセスが制限されるため、義理の家族への依存のサイクルが生み出されることになる。

CEFMが根強く残る根本的要因は複雑かつ、相互に関連していることが証明されている。文脈に応じた要因がある一方で、共通のパターンも確認されている。

CEFMの最も大きな要因は、貧困、名誉に関わる娘の安全に対する両親の懸念、女の子の教育へのアクセスの欠如、結婚以外の女の子の選択肢の欠如、人道的危機、思春期の妊娠などである。アジアでは依然として、お見合い結婚が一般的だが、合意または非合意による性交渉に起因する意図しない妊娠に陥ったことを理由とする結婚も増加している。アジア太平洋地域の15～19歳の女の子の妊娠のうち、意図しない妊娠の割合が63%に上昇した[5]。

1.1.2 CEFMを 根強く残す社会規範とジェンダー規範

ジェンダーの不平等と有害な社会規範は、女の子や女性が意思決定することを軽んじ、制限する根本原因であり、CEFMが永続化する根本原因でもある[6]。CEFMに取り組む上で、社会規範とジェンダー規範の両方を理解することは非常に重要である。社会規範とは、自身が属する 準拠集団（人の価値観、信念、態度、行動などに強い影響を与える集団）にいる他の人々の考えや行動を信じること、または人々がとるべき典型的行動や行動への期待である。ジェンダー規範とは、社会規範の一部であり、「ある集団や社会における女性や男性の許容範囲や適切な行動を定義する社会規範」である。ジェンダー規範は、制度や社会的相互作用の中に組み込まれ、再生されるものであり、人々がそれを遵守することで利益を得る権力者が強制している[7]。

CEFM撲滅へ向けたプログラムの設計、実施、測定にGTAを導入し、長期的にはジェンダー平等を促進するという究極の成果に貢献することが、CEFMの予防と対応において重要である。このアプローチは、プラン・インターナショナルがCEFM関連のプログラミングや影響力行使に用いており、本調査の指針にもなっている。



つまり、収集された情報とデータは、「社会における女の子と女性の地位と価値を高めながら、彼らの社会における状況を改善し、女の子と女性が 情報に基づいて自ら選択と決定を行い、処罰の恐れや脅威から解放されて行動できるように支援する」意図で設定されているとを意味している[8] 。これは、プラン・インターナショナルの「*Getting it right: ジェンダー・トランスフォーマティブ・プログラミングと影響力のためのガイダンスノート (2018)*」と一致するものである。GTAは、「ジェンダー不平等の根本原因に取り組み、 女の子の権利とジェンダーに関わることなく、すべての人の平等を実現するために、不平等なジェンダーと力関係の再構築に焦点を当てる」と強調している[9]。

本調査では、アジア太平洋地域で根強く残るCEFMを永続させる社会規範の一部としてのジェンダー規範を特定することに特に焦点をあてた。性別による役割分担の社会的割り当てに関するジェンダーバイアスの異なる兆候の特定や人の性別に基づいて決められたリソースへのアクセスとコントロール、家庭内および自身の体と人生に関する女の子とユース女性の意思決定への参加がここに含まれる。

1.1.3 今こそ行動を! プラン・インターナショナルのアジア太平洋地域におけるCEFM撲滅に向けた取り組み

CEFMの撲滅は、10年以上にわたってアジア太平洋地域レベルを含むさまざまなレベルにおいて、プラン・インターナショナルの戦略的優先事項となっている。この地域におけるプラン・インターナショナルのCEFMの防止、削減、撲滅に関連する活動は、APAC地域ハブが主導している。これは、包括的な世界的枠組み「18+ Ending CEFM and related Theory of Change　18プラス　CEFM撲滅と関連する変革理論」の報告による地域イニシアチブ「Time to Act!（今こそ行動を！）」を通じて行われている。

この地域のイニシアティブは、ユース主導の啓発活動と行動に影響を与え、エビデンスに基づく行動と介入、パートナーシップへの強固なコミットメントを維持し、有害なジェンダーステレオタイプと文化規範に取り組むことによって、根本原因を提示することに重点をおいている。‘「Time to Act!（今こそ行動を！）」イニシアチブは、継続的な教育の確保、若者の経済的エンパワーメント、暴力からの保護、性と生殖に関する健康と権利に関する知識と教育、関連サービスの強化という4つの主要分野の介入から構築されている。この地域のイニシアティブの参加国は、バングラデシュ、カンボジア、インド、インドネシア、ラオス、ネパール、タイ、フィリピン、東ティモール、ベトナムの各国である。

2017年末、プラン・インターナショナルAPACは、アジア14カ国におけるCEFMの普及に関する広範な調査を完了し、報告書「*Time is Now アジアにおける早すぎる結婚の撤廃*」を完成させた。その報告書は、アジアにおけるCEFMの包括的な詳細情報を提供し、政府、大学、コミュニティ組織、プラン・インターナショナルが作成した証拠をさらに確実なものにしている。

また、CEFMの発生、原因、傾向、推進要因、影響に関する最近のエビデンスを分析し、この問題に取り組むために取るべき行動を概説している。2018年、「Time to Act!今こそ行動を！」報告書は、本地域におけるCEFMの予防と撲滅のために追求すべき効果的で有望な戦略や行動、そして異なる文脈で再現可能な高い可能性を持つものを概説している。2019年と2021年には、ユース主導の啓発活動と実際活動に焦点を当てたレポート「Their Time is Now - Time to Act!」と、アジア太平洋地域におけるCEFM撲滅のためのデジタルテクノロジーの活用に関するレポート「Time to Act - Let's Go Digital!」を追加出版した。

1.2 研究目的と質問事項

プラン・インターナショナルのアジア・太平洋地域統括事務所は、GTAに基づいて、アジア太平洋地域におけるCEFMを継続させる社会規範とジェンダー規範をより深く理解し、CEFMを予防・撲滅するためのGTAを運用する方法に関する世界的知見に貢献するためにこの調査に乗り出した。調査結果は、CEFMを根付かせているネガティブな社会・ジェンダー規範に対抗し、規範の変化を測定するための実用的なツールの開発を促進した。調査の枠組みとして、以下の質問を行った。

1) アジア太平洋地域でCEFMを根付かせている主な社会規範・ジェンダー規範は何か

1.1) CEFMを引き起こし、根付かせている 負の社会規範とその根源は何か

1.2) CEFMを引き起こし、根付かせている 負のジェンダー規範とその根源は何か

1.3) 負の社会規範と・ジェンダー規範はどこで交わり、この交わりによる影響はアジア太平洋地域におけるCEFMの発生と継続をどのようにさらに悪化させるのか

1.4) こうした社会・ジェンダー規範は、アジア太平洋地域のすでに早すぎる結婚をした女の子の状況に、どの程度、どのようにさらなる影響を与え、悪化させるのか

1.5) CEFMは、女の子やユース女性の保護メカニズムとしてどの程度認識されているか

2) アジア太平洋地域においてCEFMの悪化を招き、根強く残る否定的な社会・ジェンダー規範の結果として存続する公式・非公式な権力構造やシステムは何か

2.1) CEFMを継続させている主要な権力者や意思決定者は誰なのか

2.2) CEFMを継続させていると特定された社会規範・ジェンダー規範は、様々な構造、システム、セクターにおいてどのように認識され、拡大されているのか。

- 法律や政策（ジェンダー不平等またはジェンダーフリーの特定）において
- 教育（学校教育課程）において
- 雇用市場（ユース女性の適切な仕事へのアクセス）において
- 基本的なサービス（子どもの保護サービスを含む）において
- 保健分野（特にSRHRに重点を置いて）において
- アジア太平洋地域のメディアにおいて

2.3) アジア太平洋地域でCEFM撲滅に向けて巻き込むべき主要な権力者は誰か

3) アジア太平洋地域におけるCEFMの予防と撲滅のためのプログラムや介入の有効性と持続可能性を高めるには、どうGTAを適用することができるのか

3.1) 公式・非公式構造においてCEFMを根付かせている特定の社会規範・ジェンダー規範の変革に実施される可能性があるGTAに基づいた推奨される対策と介入は何か

3.2) アジア太平洋地域全体でCEFMの防止と撲滅に貢献するために推進すべきポジティブな社会規範・ジェンダー規範とは何か

3.3) アジア太平洋地域全体で、CEFMを永続させる社会規範・ジェンダー規範の変化を測定するための重要な指標やツールは何か

2 研究方法

2.1 研究デザイン

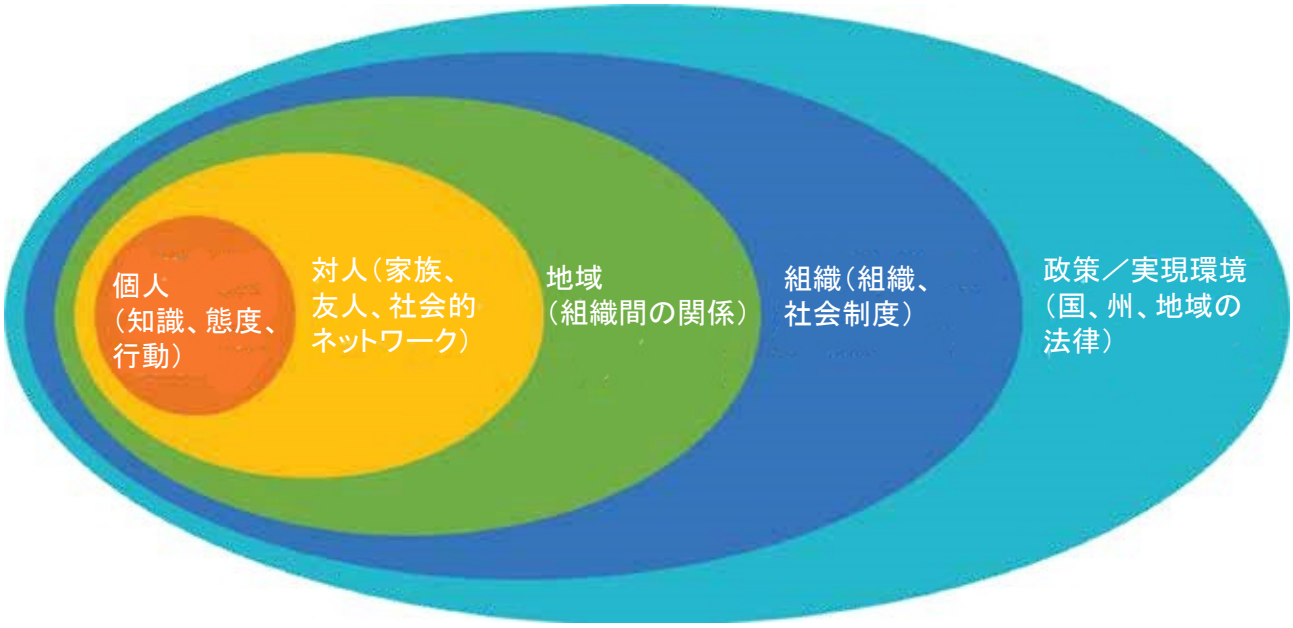
質的調査により、アジア太平洋諸国の幅広い領域において、CEFMを発生させ、永続させる負の社会規範・ジェンダー規範の根本的な誘因や原因に関する問題への洞察を得た(特に、バングラデシュ、カンボジア、インドネシア、ラオス、ネパール、東ティモール)。とりわけ、この研究は、既存の知見から構築され、既存の知見に見られるギャップを解決し、CEFMの予防と撲滅のペースを加速するために、プログラムと影響力のある対応の質を高める取り組みに情報を提供するための指針と提言を提供するものである。新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の拡大により、研究調査は遠隔で行われた。

2.1.1 理論的フレームワーク

研究の枠組みとして、社会生態モデルジェンダー規範に影響を与える社会構成の5つの領域(SEM)[10]を用い、個人、対人、コミュニティ、組織、社会・政策環境の5領域で、CEFMと関連する根本原因やリスク、保護要因を評価するための基礎となる概念を提供した。このフレームワークでは、CEFMをこれら5領域にある多くの要因の相互作用の結果として捉えている。図1では、ある領域の要因が他の領域の要因にどのように影響するかを、重なり合ったリングが示している。同モデルは、ある人々やグループがCEFMのリスクが高い一方で、他の人々がCEFMから守られている理由を単一の要因では説明できないという証拠に基づいたものである。



図1 ジェンダー規範に影響を与える社会構成の5つの領域



2.1.2 データ収集方法

CEFMの根底にある社会的・ジェンダー的規範を探るため、文献調査、遠隔・オンラインKII、オンラインワークショップを通じて、質的データを収集した。この研究で複数の方法を用いるのは、三角測量を行うためであり、またバイアスを減らすためでもある。また、様々な証拠を用いてデータをクロスチェックすることで、単一のデータソースの限界を減らし、結果の信頼性を高め、妥当性を確保するためである。

デスクマッピング

アジア地域、特にプラン・インターナショナルが活動している国々に関連する再評価とメタ分析が行われた。既存のプラン・インターナショナルの関連文書とは別に、CRANKトラッカー（児童婚の調査追跡）、Girls Not Brides（女の子たちは花嫁ではない））, Google Scholar、Ask Source、Academia.edu、ResearchGateなどのデータベースでの包括的なオンライン検索を含む、さまざまな種類の検索が行われた。論文に関しては、アジア太平洋地域に焦点を当て、2012年から2022年の間に出版され、英語で全文が入手可能なもののみを対象とした。

キー・インフォーマント（情報提供者）インタビュー

デスクマッピングの結果を受けて、遠隔/オンラインKIIを実施し、ステークホルダーのCEFMに対する理解、社会規範・ジェンダー規範に取り組むCEFM関連イニシアティブの実施経験（実現要因、制約要因、課題）、ネガティブな社会規範・ジェンダー規範への対策実践、GTA適用におけるギャップなどに関する情報を収集した。30人のキー・インフォーマント（女性20人、男性10人）にインタビューを行った。

- CEFM関連イニシアティブの調整を担当するプラン・インターナショナルのスタッフおよび/またはフォーカルポイント（情報提供者9名：プラン・インターナショナルAPACから1名、フォーカス国から8名）
- プラン・インターナショナルのパートナー組織団体とCEFM問題の専門家（21人のインフォーマント）。

KII の調査質問とガイド質問、同意書、主要な情報提供者のリストは、付属書 1、2、3 に記載されている。

バーチャルワークショップ

この研究では、2つのバーチャルワークショップを実施した。

1) CEFMを根強く残すネガティブな社会・ジェンダー規範に対抗するための実践的ツール、および規範の変化を測定するツールの開発に必要な情報を集めるためのワークショップが2022年4月18日に開催された。
2) 調査結果と社会・ジェンダー規範の変化を測定のための実用ツールを発表する検証ワークショップが2022年5月12日に開催された。

2回のワークショップの参加者は、プランのCEFMのフォーカルポイントである。



2.2 実用ツールパッケージの開発

この調査は共同デザイン[1] の原則に基づいて実施され、CEFM を根強く残す負の社会規範・ジェンダー規範に対抗する上で必要な戦略的分析の妥当性と正確性を確実にするツールパッケージの開発に、プラン・インターナショナルのスタッフやこの問題に取り組む実務家、提唱者たちが携わった。このツールパッケージには、a) 否定的な規範を特定し対処するための診断・分析ツール、b) 規範の移行を測定する指標と測定基準が含まれている。さらに、このパッケージには、視覚的な枠組み、詳細な活動、手引きとなる質問事項が含まれている。これらは、構成要素調査、分析、戦略実施や社会規範・ジェンダー規範の介入とプロジェクトのモニタリングと評価においてプログラムスタッフの支援することを目的としている。研究の主なアプローチ同様、開発されたツールパッケージは、GTAの影響を強く受け、作成されている。これにより、作成されたツールパッケージは、ジェンダーに基づく不平等と差別を強化する力の力学と構造を是正するためのプラン・インターナショナルAPACのプログラミングを導くための目的に適ったものになっている。

[1] 共同デザインは、1970年代に北欧で開発された参加型デザインの手法に根ざしており、共同デザインの原則は以下の主要な構成要素を有している。「ターゲットユーザーを意図的にデザインに参加させる」「デザインの決定はフィードバックを集めてからにする」「ターゲットユーザーからのフィードバックを内側で統合する」「フィードバックに基づきアプローチやツールを開発する」。



2.3 制限事項

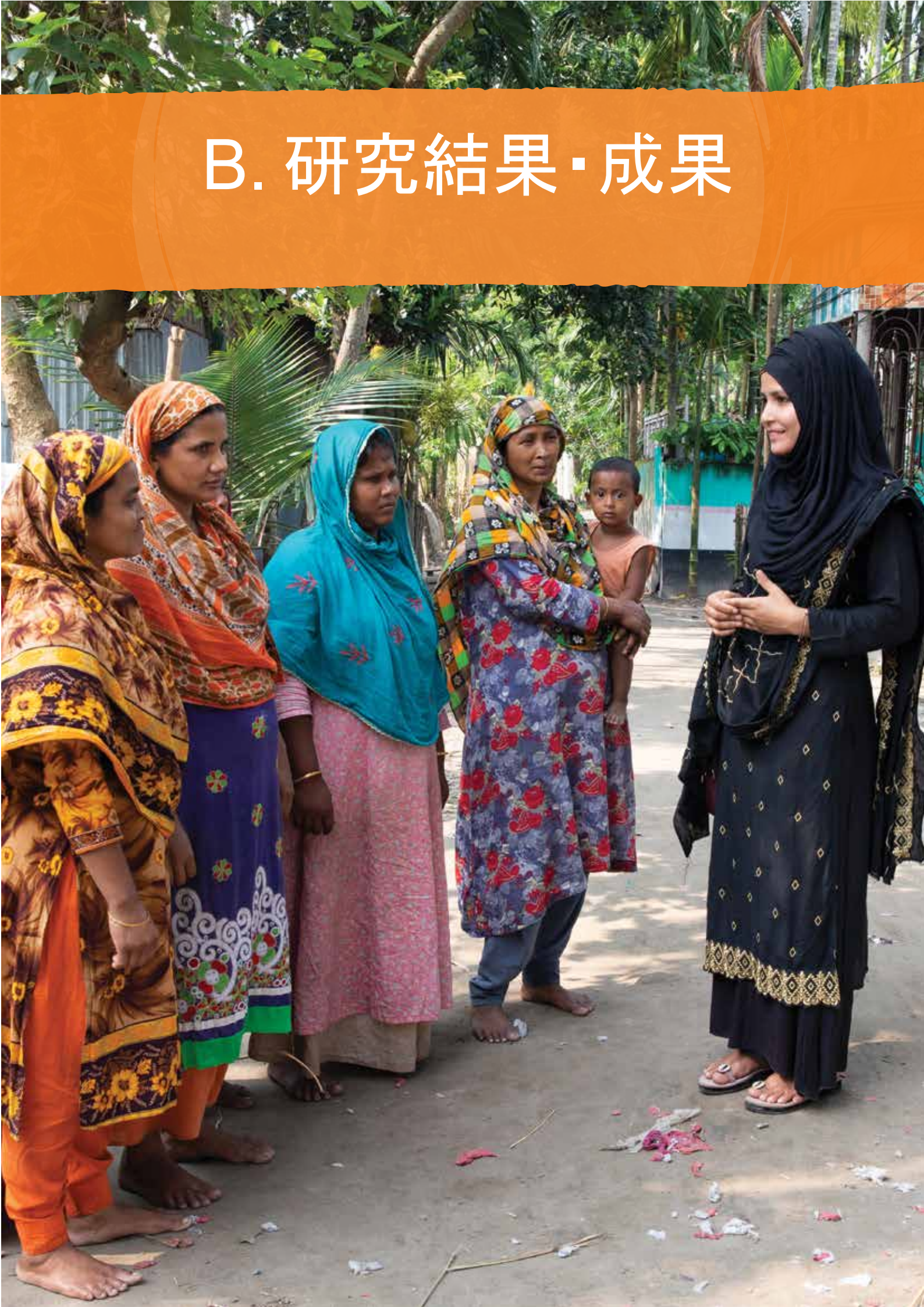
質的研究デザインには、固有の方法論的限界がある。これは研究対象範囲によって生じる制限で、この研究特有の制限同様、以下に簡潔な説明を示している。

1. 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大により、活動と一次データ収集は、遠隔で行われた。そのため、十分なインターネット接続環境が必要であり、回答者の選定に制約が生じた。また、遠隔地でのワークショップでは、回答者全員の参加や、詳細な議論を行うための時間に制約が生じる可能性があった。これは、電子メールによるォローアップデータ収集や、用紙によるステークホルダーからの十分な意見の収集を行うことで、この制限を解消した。

2. KIIは英語で行われたため、英語に堪能でない他の回答者の参加が制限される可能性があり、その結果、KIIに参加できる回答者の数や種類が制限された。例えば、インタビューに答えてくれたのは、ほとんどがプランのスタッフとNGOのパートナーである。この制限に対応するため、さまざまな国やコミュニティからの情報を含む一次調査データを収集した。

3. 若者たちはKIIsに関与していない：これはリファレンスの利用規約に明記されているように、プラン・インターナショナルAPACとの議論により、時間と方法論の制約から、この調査には若者のデータ収集は含まれていない。しかし、この制限は、他の一次研究のデスクレビューに基づき、若者の経験と見解が研究に含まれるようにすることで対処した。
4. 研究の範囲としては、本研究では、人道的環境においては社会・ジェンダー規範がどのようにCEFMを根付かせているかを特定することには重点を置いていない。

B. 研究結果・成果



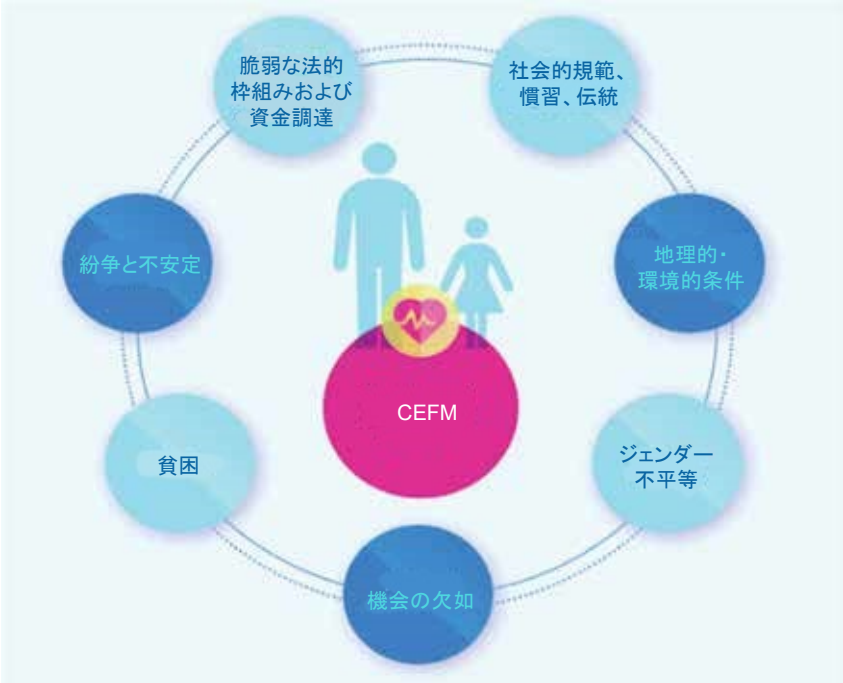
3 アジアでCEFMを生み続ける社会・ジェンダー規範への取り組み

前述の通り、プラン・インターナショナル・アジア太平洋（APAC）地域は、アジア太平洋地域におけるこの課題にさらなる理解を促すため、CEFMに関する広範かつ多様な調査を行っている。過去10年間、プランAPACの研究は、CEFMの広がりとそれが生まれる背景、CEFMの要因と結果、そしてデジタル技術の活用など、CEFMを撲滅し、思春期の妊娠を減らす上での効果的な戦略について地球規模の知識の蓄積に寄与してきた。さらに、プランAPACは、CEFMを撲滅するための若者の活動とエンゲージメント（参加）を促す方法について比較分析を行った。

こうしたすべての取り組みで、CEFMの主な要因として社会規範とジェンダー規範が浮かび上がった。（図2参照）。女の子に求められる役割と期待される行いをめぐる根強い社会規範とジェンダー規範がCEFMの一因となっており[11]、その点を中心にCEFMの撲滅を目指す多くの研究やプログラムが行われてきた。しかしながら、そうした規範と人々の考え方や行いが複雑に作用し合いながら、社会規範・ジェンダー規範がどのようにCEFMを生み続けているのかについて知識とエビデンスを増やす必要がある。

まず、CEFM自体が規範ではなく、むしろ社会規範・ジェンダー規範その他要素が原因で生じる有害な慣習あるいは一連の慣習である点に注目することが重要である[12]。早すぎる結婚の慣習を生む要因は多い。報告書「*Their Time is Now*」から引用した図2でもわかるように、CEFMの要因は多数あり、その中の一つが社会規範・ジェンダー規範[13]なのである。

図2　CEFMの推進要因（プランAPAC、2018年）



さらに、「*TIME TO ACT!今こそ行動を！アジア太平洋地域における強制された早すぎる結婚への取り組みに対するジェンダー・トランスフォーマティブなプログラム戦略 - 実践者のためのツールキット*」では、アジア太平洋地域の文脈における早すぎる結婚の主な根本原因と結果、および考察すべき主要7つの戦略的取り組みについて概説している[14] 。したがって、この研究では、CEFMの他の要因（貧困や教育その他機会の不足など）については、すでに重要な研究が行われているため、広範な考察は行っていない。

しかし、社会規範やジェンダー規範は孤立して存在するものではなく、本報告書ではCEFMの他の要因（貧困、教育へのアクセス不足、宗教的信念など）との関連で考察を行っている。

特に、こうした要因の根拠となり、不平等を悪化させ、CEFMをめぐる人々の行いや社会の中での関わり合いに影響を与えるジェンダー規範と、社会から期待される行いについては、特別な注意を払って考察が行われた。調査結果の提示にあたり、まず社会規範とジェンダー規範に関する定義と概念についての考察から始めるが、その中で、より広く行動変容や予防科学の中でこれらを研究する重要性について論じた文献にも触れている。 続いて、デスクレビューとキー・インフォーマント（情報提供者）・インタビューの両方で収集した情報に基づく南・東南アジアの実例を挙げながら、具体的な社会規範とジェンダー規範について説明を行う。

3.1 社会規範とジェンダー規範の定義と概念化

3.1.1 社会規範、ジェンダー規範、考え方の違い

簡単に言えば、規範は「行動を支配する非公式なルール」と考えることができる[15]。**社会規範** とは、個人が準拠集団（つまり、自分が属していると認識している集団）内の他の人々が考え、行っていると信じていることである。また、人々が典型的な（「正常な」）行動であると信じていること、あるいはふさわしい行動とは何かについて他の人々が期待していることでもある。したがって、社会規範は、「他の人がそうしているから」あるいは「他の人が私にそうすることを期待しているから」という理由で、人の行動に影響を与える[16]。

CEFMを撲滅するために社会規範に取り組む上で、アジアを含め世界的には2種類の社会規範があることに注目することが有益である。

1. **規範的期待**（経験的期待ともいう）。
   他の人々が通常何をするかについて、集団やコミュニティで共有されている信念のことである。例えば、親が娘を18歳までに結婚させるのは、「この国ではほとんどの女の子が18歳までにすでに結婚している」と信じられているからだ。こうして、親はその行動が一般的／典型的／普通であると認識する。それが良いと思われているか否かにかかわらず、また親がその行動を正しいあるいは間違っていると思うかにかかわらず、である。
2. **制裁規範**（規範的期待ともいう）。
   何をするのがふさわしいか、あるいは何をすることがコミュニティの他の人々から期待されているかについて、グループ内で共有された信念のことである。例えば、女の子は当然18歳までに結婚すると考えられていて、親あるいは娘が結婚するのは後にしたいと思うかどうかは関係しない。

社会規範は、個人の考え方、見解、価値観とは異なることに注意すべきである。**個人の考え方**とは、社会的な文脈の外側で、個人が特定の行動についてどう考えるかである。例えば、「妊娠した女の子は恥じるべきだから、家の名誉を守るためにすぐに結婚したほうがいいと思う」などだ。

ジェンダー規範とは、ジェンダーに関する社会のルールに基づいて当然こうするべきだと人々が共通して持つ信念である。すなわち、性別を理由に女性と男性に割り当てられた行動について社会的に構築されたルールのことである[17]。本研究の「背景・理由」で述べたように、**ジェンダー規範は社会規範の一部**であり、「ある集団や社会における女性・男性の許容された、ふさわしい行動を定義する社会規範」である。ジェンダー規範は、制度や社会的な関わり合いの中に定着し、繰り返し生み出され、人々がそれに従うことで利益を得る権力者によって強制される[18]。

社会規範とジェンダー規範の決定的な違いを知ることは有益である。なぜなら、CEFMを生み続ける規範など有害な社会規範とジェンダー規範を変革する最善策を決める上で役立つからだ。社会規範とは、人々が行動のルールだと信じているものなので、他人は心の中でこう思っていると人々が信じていることだと理解されている。これに対してジェンダー規範は、私たちを取り巻く世界にはっきりと示され、制度の中に定着し、人々の関わり合いを通じて繰り返し生み出される[19]。したがって、社会規範を変えるには、自分の準拠集団において他人が何をし、何を認めているかについて人々の誤った認識を変える必要があり、ジェンダー規範を変えるには、制度を、そして社会、制度、関係性における男女間の力関係[20]を変える必要がある。

3.1.2 行動変容における社会規範とジェンダー規範の変化の重要性

ジェンダー平等に対する考え方が、女性に対する暴力などの行動に影響を与えることは一般的に知られている。たとえば、男性には女性を支配する権利があるという昔からの信念は、女性に対するあらゆる身体的、精神的、性的暴力を男性が正当化する理由となる。社会規範は行動に影響を与えうるため、CEFMのような有害な慣習を生み続け、ジェンダー不平等を強固にする恐れがあることを多くの研究が示唆している[21]。一度、一連の行動（および典型的でふさわしい行いに関するルール）が社会集団に定着すると、人々は従わないことによる社会的影響や制裁を避けるために、従いたいと考えるので、CEFMをめぐる行動や慣習を変えるためには、社会規範とジェンダー規範を理解することが重要になる[22,23]。

また、従来の行動変容の取り組みとは異なるアプローチを提案する社会規範理論に基づき、社会規範とジェンダー規範を変革する重要性に対する認識が高まっている。これまで、行動変容活動は、大部分が集団の意識啓発、トレーニング、ワークショップを通して個人の考え方を変え知識やスキルを高めることに重点が置かれ、それを通じて行動を変えること（例えば、健康増進の行動改善、HIVの予防、女の子や女性に対する暴力（VAWG）の予防など）を目指した。しかし、集団内の社会規範や行動ルールを変えずに個人の考え方を変えても、個人の行動変容は思うように進まない恐れがある。したがって、考え方を変え知識とスキルを高めることは行動変容にとって重要ではあるが、こうした個人の変容と並行して社会規範を変革することが、最も根強い行動、特にジェンダー規範で規定された行動を変えるために必要な、だがこれまで欠落していた部分だと言えるだろう[24]。

社会規範・ジェンダー規範を変える取り組みの重要性は、プランの「18＋変革の理論」と「地域戦略フレームワーク今こそ行動を！アジア太平洋地域におけるCOVID19と女の子たち」でも同様に認識されており、戦略の一部として位置づけられている。その戦略では、ビジョン達成には「一方で適切な法律と政策の枠組みを整備して一貫して施行し、ジェンダーの視点に立った効果的な公共サービスや社会のセーフティネットでさらなる強化を行いながら、社会や文化に存在する有害な考え方を変革しなくてはならない。そして、女の子、若者、その家族、コミュニティの参加と能力強化は、この戦略的アプローチの柱である」と認めている[25]。CEFMはジェンダー不平等の原因であり結果でもあるため、ジェンダー規範とCEFMは密接に関連している。CEFMが最も広く行われている20カ国を分析したところ、2カ国を除くすべての国が世界で最もジェンダー不平等な国であることが判明した[26]。このことは、プランAPACの戦略的枠組み「Time to Act! 今こそ行動を！」でもはっきりと認められており、そのため「すべてのジェンダー・トランスフォーマティブなプログラムにおいて総合的にジェンダー・トランスフォーマティブな取り組みを確実に重ねて、テーマとなる分野に影響を与え、さまざまな根本的原因への取り組みを通してジェンダー・トランスフォーメーションを実現するための効果的で再生可能なモデルを確立する」ことを重要戦略として掲げている[27]。

3.1.3 社会規範とジェンダー規範の根源、そしてその変革を可能にする方法とは

社会規範は通常、コミュニティを好ましい均衡、つまり対立する力や影響力が均衡を保った状態に維持するために、さまざまな環境に出現し、定着して広がる[28]。社会規範を中心とするさまざまな概念とそれらを変えうる方法を知るカギは、それらが生まれ、存在し続けている理由を理解することである。Marcus と Harper（2015）は、社会規範が出現した理由とその機能について、以下のような可能性を示している。

a）行動を調整する方法。たとえば、資源の利用を管理するメカニズム（例：森林や漁業の持続可能な利用につながる規範）、または病気の蔓延を防ぐ方法（例：手洗いに関する規範、くしゃみや咳をするときに口を覆うなど）。

b) 地域の信念の現れ。母乳育児の価値や妊婦が食べるべき食べ物に関する信念のような「非社会的」なものから、他人の行いや考えに関する「社会的な」信念（たとえば、母乳育児の期間や開始・終了時期について他人が適当だと考えていると社会が信じていること）が考えられる。

c) 文化的あるいは宗教的価値観の現れ。たとえば、女の子の移動の自由を制限する規範は、結婚前の処女の重要性に関する価値観と関連していることが多い。

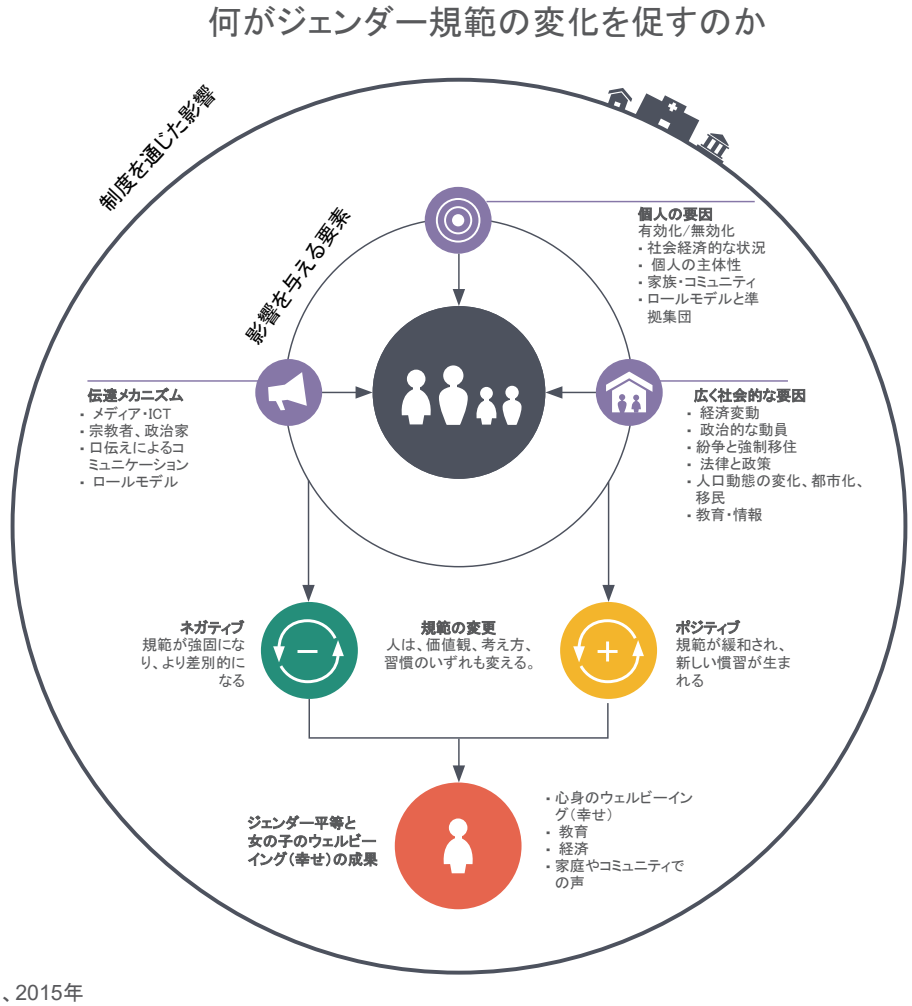
d) 社会秩序を維持するための手段。これは、たとえば以下のような意味を持つと考えられる。

1. 規範が、力の不平等を反映し、強化する可能性（ジェンダー規範との関連で後述）
2. 規範が、特定の違いに対する恐れを反映し、スティグマと社会的排除を強化する可能性（たとえば、障がいやHIVのようなスティグマとされる病気など）[29]

さらに、何が規範を維持しているのかを知ることは、特定の規範を変えうる道筋の理解に役立つ。社会規範を維持する条件には、以下のようなものがある。

1. 「他人が通常行うこと、および当然こうするはずだと他人が思っていることに関する社会的な期待または信念。
2. そうした期待を抱く有力な人々または準拠集団。これには、「個人にとって重要で、具体的な行動について意見を持つ、あるいは指示するすべての人びと」が含まれる。
3. 「普通」のことに従わない、あるいは行動しないことに対する制裁。これらは通常、社会的な反発や否定的な結果につながるが、社会規範は規範を守ることに対する正の強化（ある行動によって好ましい結果が得られたことで、その行動が増加する）や報酬によっても維持される」[30]。

図3 何がジェンダー規範の変化を促すのか



出典 Marcus, R. .等、2015年



ジェンダー規範は、広範な要因（経済発展、新しい法律、教育、人口動態の変化など）、個人的要因（社会経済的状況、個人の考え方、知識、スキル、家族・コミュニティ、個人の主体性など）、伝達メカニズム（メディア、ICT、宗教指導者など）を含むいくつかの影響要因により変わる可能性がある[31]。図 3 に見られるように、社会規範とジェンダー規範は、強固になり差別的になるか、緩和して新しい慣習が出現できるようになるか、変化の可能性は2通りある。さらに、この図から、社会規範やジェンダー規範に影響を与える各要因が、家族、教育、国家、その他各分野でサービスの提供にあたる組織などの社会組織を通じて人々に影響を与えていることがわかる。

ジェンダー規範が変化する過程を示す一例を以下に概説する。

1. 情報。両親は、女の子を教育することの利点、CEFMの害、CEFMを禁じる法律、女の子の教育を受ける権利についての情報を受け取る。
2. 仲間同士の非公式な対話を通じた新しい規範の明確化。両親、コミュニティ住民・指導者、そして女の子自身が、なぜ結婚を遅らせることが重要だと思うのか（例。健康と安全のため、権利の行使、より質の高い生活を送る機会、など）を話し合う。
3. 新しい行動のモデル化。家族は引き続き女の子を学校に通わせ、娘の結婚を遅らせることに同意し、女の子は家族と一緒に暮らし続ける。
4. ロールモデルによる推奨。宗教的・伝統的指導者が女の子の教育を支持するメッセージを広める、誤解を正し、伝統・宗教上、女の子が思春期に結婚する必要はないと述べる、または世間に認められたロールモデルが早すぎる結婚に反対を表明するなど[32]。

しかし、社会規範とジェンダー規範に変化が見られるようになるには時間がかかる、あるいは流動的な期間を経る場合があることに留意することが重要である。

「それまで理想とされていた行動規範と大きく異なる行動を人々がとり始めると、規範そのものは取り残され、時間を置いて変化が現れてくることがよくある。こういう状態になると、規範が弱体化する場合がある。ティッピング・ポイント理論（Gladwell, 2004）によれば、たとえば、娘たちを学校に通わせ続けて、歳を重ねてから結婚させるようにするなど、一旦十分な人数の人々が異なる行動を取り始めると、他の人々も急いでそれに追随するようになるという。しかし、新しい規範が完全に現れ、新しい基準ができるまでには、古い規範が弱まりつつもまだ残っている、流動的な時期があるようだ[33]。」

表1 は、Marcus とHarper（2015)による文献レビューから、ジェンダー規範の変化を促進あるいは妨害する条件[34]をまとめたものである。

ジェンダー規範は、次のような場合に変化しやすい	ジェンダー規範は次のような場合に変化しにくい
• 変化によって経済的に損をする者も、古い規範を守ることで得をする者もいない場合 • 規範の変更に対して強い経済的な関心がある場合 • 誰の権威も変更によって直接脅かされない場合 • 一つの重要な要因のみが規範を支えている場合（例。情報不足） • ある特定の行為の実践を要求する宗教上の決まり・命令がない場合 • すでに自身の行動を変革している人たちが非常に大勢いる場合 • ロールモデルやオピニオンリーダー（宗教指導者を含む）が、今までとは異なる規範を推進する場合 • 制度や政治的な背景の変化で慣習を変える機会が生まれる場合 • 規範を変えるために企画されたプログラムや政策に、人々が新しいアイデアを実践する機会が伴う場合 • 変化が、新しい機会をとらえること、あるいはその準備をすることだと理解されている場合 • たとえば、女性の発言力が高まったり、経済力が向上するなど、より広い社会の中で変化がある場合	• 既存の規範や慣習を維持することに強い経済的利益がある場合 • 特定の集団が変更によって自分の権力や地域が弱体化すると考える場合 • 複数の要因が規範を支えている場合（例。情報不足、社会的期待の圧力、経済的制約） • ある特定の慣習が、宗教上義務付けられていると見られる場合 • 自身の行動を変えた人が他にほとんどいない場合 1. ロールモデルやオピニオンリーダー(宗教指導者を含む)が現状維持を推奨する 2. より広範な制度上・政治上の環境が変化することに抵抗がある 3. 人々が行動を変える方法を知らない 4. 変化は、大体が（権力や大切な文化や伝統の価値を）失うこと、あるいは歓迎されないものとして受け止められている 5. 変化が他に波及しない

表1 ジェンダー規範変革の促進もしくは阻害条件

次のセクションでは、CEFMの主な要因と関連した考察も行うが、具体的な社会規範とジェンダー規範に焦点を当てていく。本研究の一次データ収集と二次データ・文献の分析から浮かび上がったテーマに基づき、社会規範とジェンダー規範の主要カテゴリーにしたがって体系的に考察を行う。ただし、これらの社会規範とジェンダー規範は、実際には相互に補強し合っている。

そのため、多くの場合関連し合い、重複していることを認める。最後に、本研究でCEFMに関連する社会規範とジェンダー規範のすべてを網羅的に列挙するつもりはなく、代わりに南・東南アジアにおけるCEFMのリスクを生み続け、および／または増大させているエビデンスのある規範を優先的に取り上げている。

3.2 CEFMを生み続ける社会規範とジェンダー規範

CEFMが行われ続ける背景には、ジェンダーの役割や定められた行動に対する伝統的で家父長的な信念がある。これらは、社会的、文化的、宗教的な慣習に根差しており、そうした状況下でCEFMが守られ延々と続いていると言える[35]。たとえば、家父長的な社会では、女性や思春期の女の子の自由、資源へのアクセス、意思決定が大きく制限される。

3.2.1 結婚、ジェンダーによる役割分担、移動

結婚や家族の名誉を重視する社会規範は、女性の家庭内での隷属的な役割につながる。

結婚を重視する社会規範は、CEFMが広く行われている集団に顕著に見られる。この規範は、結婚が社会的・経済的保護を得る一番の道だという信念に支えられている[36]。しかし、カップル、特に女性が自律的に結婚を選択すると、最初に脅かされるのは家族の名誉と名声だと考えられることが多い[37]。したがって、社会規範では、親には娘を成人するかしないかの時期までに結婚させる責任があるとされているのだ。

本研究のある回答者はこう強調した。「結婚や婚姻には大きな意味があるので、いつも話題になります。ラオスの文化では家庭生活は非常に重要であり、子どもも大切にされます。また、結婚は家庭生活の核であり、社会の核でもあります。」(KII回答者、ラオス)

また、南アジアでは結婚が「義務」であると言う回答者もいた。

> 「インド、パキスタン、バングラデシュなど多くの南アジアの国では、結婚は重要な社会制度であり、すべての男性、女性に義務づけられている。社会、家族が男性に期待することは、たとえば、成人したとき、あるいは、教育を終えて仕事を持って独り立ちしたら、親の最初の仕事は結婚させることなのです。」
>
> *KII回答者、ネパール*

この見解は、子どもから大人への移行について論じた文献で社会規範の別の領域について行われた考察とも一致する。それは、「女性になるためには、女の子は結婚するべきだ」という提案である[38]。そしてこれは、結婚することでしか女の子の価値は生まれないという信念につながる。本研究のある回答者も次のように述べている。「女の子がまだ胎内にいるうちから、将来息子と結婚して義理の娘になるよう申し込まれることがある。」(KII回答者、インドネシア)

東ティモールでCEFMが行われている理由として、家庭同士のつながりがある。

> 「何世代にもわたってつながりを持つ家族同士の関係を強化するために、若い女性と男性は早すぎる結婚をして子どもを産み、新しい世代を生み出す必要があるのです。」
>
> *KII回答者、東ティモール*



回答者はさらに、この古くからの伝統は何世代にもわたって受け継がれてきたが、情報や教育へのアクセスが増えるにつれて、その規範が弱まってきていると説明する。

「2つの家族（女の子側と男の子側）が関係を強化したいので、本人たちが結婚を望んでいなくても無理やり結婚させ、早すぎる結婚がおきる。そして、こうした家族間の関係は世代から世代へゆるぎないものになっていく。これが社会規範であり、古くからの慣習でもあり、家族がお互いを尊重するために重要なことなのだ。農村部ではまだこうしたことが行われていますが、住民が情報にアクセスできるようになり、どもを学校に通わせるようになったので、今は少し変わってきています。」

KII回答者、東ティモール

しかし、場合によっては、結婚に関するポジティブな規範や、18歳以降の結婚についてふさわしい行いを取り入れている文化的慣習もある。たとえば、何人かの回答者も次のように話している。

「結婚の目的そのものを考えてみると、それは【夫と妻】の両方にとって有益であることです。実は、この本質を高めるべきなのです。早すぎる結婚は子どもたちに不利益をもたらすでしょう。イスラム教ではそう考えています。」

KII回答者、インドネシア

ある回答者は、結婚の適齢期が彼らの伝統的な織物作りと結びついていることを説明した。

「たとえばロンボク島では確か、女の子は、あるモチーフで布を織りあげることができなければなりません。織ったモチーフの数で年齢がわかるそうです。21のモチーフを織り終えると、条件をすべて満たせるということで、21歳という年齢で結婚することができるのだそうです。」

KII回答者、インドネシア

CEFMは社会規範の現れであるうえ、根深いジェンダー不平等と制限的なジェンダー規範によって引き起こされ、悪化する[39]。ジェンダー平等に対する考え方は行動に影響し、CEFMのリスクを高める。たとえば、プランAPAC「Their Time is Now」調査（2018年）では、女の子を主に生殖能力の面で評価する差別的な社会規範とジェンダー規範が早すぎる結婚を理解する上で重要であるとしている。ジェンダー的役割に対する伝統的で家父長的な信念の下では、女の子は経済的生産的役割やコミュニティ内のリーダーとしての役割ではなく、家庭での役割を担うものだと見られ、女の子たちは定められたジェンダーの役割を果たすために嫁がされ、早すぎる結婚のリスクが高まる[40]。もし社会規範で女の子の人生における一番の役割は妻であり子どもを持つことだと規定されていれば、彼女が学校に行ったり生計を立てるための機会はほとんどない。そのため、女の子は必然的に妻と母親の役割を果たすことになる[41]。

女の子の役割と責任に関するこのジェンダー規範は、女の子には家にいて出産と育児しか期待しない、学校に通わせる経済的投資に値しないと親に誤解を与える。さらに、女の子が若いうちに出産することを期待し、女の子を早くに結婚させなくては、というプレッシャーが高まる[42]。その結果、役割と責任に関するこうしたジェンダー規範は、女性の移動、教育、経済・政治参加を制限し、CEFMに対する女の子のリスクをさらに悪化させる。これは、社会規範とジェンダー規範がいかにCEFMの慣習を強固にし、ひいては女の子の能力強化を制限しているかを最も明確に示す例のひとつである。

ジェンダー規範が女の子の移動を制限する

CARE（2020）がネパールとバングラデシュで実施した社会規範に関する基礎調査では、教育や関連活動に対する女の子の機会は改善されたとはいえ、どちらの文脈でも女の子の 移動はかなり制限されていることがわかった[43]。このジェンダー規範にはさまざまな根拠があり、娘を公共の場での性的嫌がらせや性暴力から守りたいという親の思いや宗教的伝統、家族の名誉を守るために「良い女の子」はこうあるべきだという判断に埋め込まれたジェンダーバイアスなど、が挙げられる。

ネパールでは、女の子たちが「動き回ること」と「うろついている」男の子から嫌がらせやからかい、暴行を受けるリスクを結びつけて考えられやすい、と女の子と親に信じられている[44]バングラデシュでは、「パルダ」、つまり女性の隔離とジェンダーに沿った厳格な仕事の区別によって、女の子と若い既婚女性の移動は厳しく制限されている[45]。パルダといえば、一般的にイスラム教の社会を連想するが、ベンガル文化に特有のジェンダーに基づく労働形態を背景に、バングラデシュではヒンドゥー教徒とイスラム教徒の女性の両方に適用されていることは注目に値する[46]。

CAREの基礎調査で、ある思春期の女の子も次のように回答している。

> 「一人で出かけると、村の人たちは「この子は出歩いてばかりいる」と言う。村人たちは私のことを悪く言うでしょう。新郎側の人が私を見に来ても、村人たちは『あの子は出歩いてばかりいる』と言うでしょう。だから、女の子があちこちに行くのは良くないんです。」
>
> *思春期の女の子、バングラデシュ[47]*

移動に対する制限は、女の子は家族の所有物であり、保護される必要があるというジェンダー規範と相互に関連しており、女の子の価値は、家族の評判を守り、家族の名誉を維持する能力にあるのだ。今回の調査の回答者の一人は、次のように述べている。

> 「16歳や17歳の娘がいる家庭は非常に慎重で、移動する娘を守ろうとする傾向があります。そうすると、娘たちは（男性家族の同伴がなければ）学校に行くにも一人で外出することができなくなります。」
>
> *KII回答者、ネパール*

この回答者は、早すぎる結婚が娘を保護するこうした親の負担を転嫁する1つの方法になっていると続ける。

「一族の名誉を守らなくてはならないという不安があるため、親は良い夫を見つけて娘を連れて行ってもらおうと思うようになる…つまりこれは、娘の安全を守るという負担を親から義理の親に転嫁することだといえます。」

KII回答者、ネパール

3.2.2 セクシュアリティ、SRHR、女性らしさ、男性らしさに関するイデオロギーと伝統的な信念

女の子も男の子も、セックスとセクシュアリティを学び、議論することがタブーとされており、特に女の子は「純潔」の基準を満たす必要がある。

セクシュアリティがどのように考えられ、表現され、制限されるかは、社会規範によって方向づけられる[48]。こうした社会規範の一例として、未婚の若者が自分のセクシュアリティについて学んだり議論したり、欲望に基づく行動をするのは望ましくない、結婚するまでは性体験をするべきでないという規範がよく知られている。セクシュアリティに関するジェンダー規範は、女の子たちの状況を悪化させ、CEFMの中心的要因にもなっている。「家父長制では、男性や男性的と見られるものを特権的に扱うジェンダー規範が支持される。また、自分の体やセクシュアリティをコントロールする権利など女の子と女性の権利を軽視し、女性・男性・ジェンダーマイノリティが本当の自分を表現する機会が制限される」[49]。

さらに、恥と不名誉を負うリスクから女の子と家族を守るために、結婚するまでは女の子の処女を守るべきだという信念が、親たちを娘の早すぎる結婚に駆り立てる[50]。それは、娘を性暴力から「守る」ことであり、また、娘がつきあう可能性のある若い男性との合意の上でのセックスから娘を「守る」ことでもある。

今回の調査の回答者の一人は、次のように繰り返した。

「不貞行為を防ぐ、罪深い行為を防ぐ、という目的で早すぎる結婚が勧められています。つまり、子どもたちに好きなように異性の友だちと付き合わせるより、結婚させた方が良いということです。彼らはそれを「カルワット」と呼び、子どもがすでに異性と仲良くしている場合は、結婚させるのが一番良いという意味です。」

KII回答者。インドネシア

「カルワット」という言葉から、インドネシアで若者のセクシュアリティがどのようにコントロールされているかが連想できる。未婚で血縁関係のない男女が一緒にいることは禁止された行いであることを指して使われている。また、女の子の移動を制限する習慣は、女の子の男の子との交際を抑制し、移動の自由を制限することで女の子のセクシュアリティをコントロールする必要があるという信念と結びついている[51]。前述したように、こうした女の子の移動に関する制限は、主に家庭という領域にいる女の子と女性に与えられた役割が生んだものでもある。このことから、社会規範が互いを強化しあい、それぞれが広める偏見を互いに強めながら生み続けていることがわかる。

それと密接に関係しているのが、女の子に期待される「純潔」に関するジェンダー規範である。CARE の基礎調査の回答者は次のように述べている。「理想的な女の子はどうあるべきかという純潔を重視する概念全体が、差別的な慣習につながる規範として最も大きな意味を持っていると思う」(2015 年4月、ネパール調査チームとのインタビュー)[52]。さらに、「女の子が結婚生活以外で性行為をしてはいけないという規範がある場合、違反すれば非難や暴力、あるいは殺人につながることもある」[53]。これは男らしさの規範とは対照的で、男の子は男性的であることが求められ、複数の性的パートナーを持ち、多くの子ども(特に息子)の父親になる自由が彼らにはある[54]。

その上、包括的なセクシュアリティ教育(CSE)やSRHRに関する情報やサービスへのアクセスも不足しているため、有害な社会規範とジェンダー規範が維持されている[55]。本調査の回答者の一人は、次のように強調している。「このようにセクシュアリティ教育が不足する中で、親が子どもに健全な性行動と生殖に関する健康を教えるための教育は全く行われていません。」



特に思春期の女の子のセクシュアリティに対する広範な規制は、深刻なジェンダー不平等の現れだが、取り組みはほとんど行われていない[56]。女の子や女性は、処女であることが重要視されるため、そのセクシュアリティを表現する自由は極度に制限される。したがって、このような状況では、結婚が性行為を行うための唯一の正当なシナリオと考えられるかもしれない。その一方で、家族やコミュニティには、社会に根づいた家父長制を維持するために、女の子の夢や希望に関係なく、女の子を確実に結婚させる動機が与えられているのだ[57]。

思春期の妊娠と、女の子の選択・機会を制限する社会規範・ジェンダー規範が互いに作用しあいながら、CEFMを生み続ける主な要因となっている。

早すぎる妊娠は、CEFMの原因であると同時に結果でもある。婚前交渉が社会規範に反するとされるアジアの国々では、思春期の妊娠が早すぎる結婚を拡大させる上で大きな役割を果たしている。たとえば、「Yes I Do」プロジェクト（2016年）のために実施された詳しい調査によって、インドネシアでは早すぎる結婚の10件中7件が、妊娠した結果起きていたことがわかった。早すぎる結婚は多くの場合、セックスした女の子は結婚すべきだという規範に従うための方法であり、東ティモールでも同様だ[58]。

こうした人々の行動の大きな根拠になっているのが、思春期の女の子の妊娠が実際には彼女のセクシュアリティによる行為であったとしても、それが家族にもたらす不名誉をめぐる社会規範・ジェンダー規範なのである。実際、この二つには相関関係があり、早すぎる結婚が最も顕著に減少した地域は思春期の出生率も最も著しく減少している[59]。ある回答者も、「10代の若者が妊娠すると、文化的に妥当な方法で強制的に結婚させられる」と話している。（KII回答者、東ティモール）

他の回答者は、CEFMが妊娠や婚前交渉といった問題に対する一つの「解決策」になっていると指摘する。「女の子と男の子が一緒に住んでいたら、強制的に結婚させられるに違いない。コミュニティ全体に悪い影響を与えないため、また、コミュニティ全体に悪い話が及ばないようにするためでもある」(KII回答者、カンボジア)。別の回答者は、妊娠と早すぎる結婚は女の子と男の子にとって相互に有益な取り決めであると述べている。

「望まない妊娠の解決策は、その子が結婚することなのです。子どもが望まない妊娠をしたら、社会に解決策はない。望まない妊娠では、2人（女の子と男の子）の利害は一致しているとみなされることもあって、唯一可能な解決策は、結婚することなのです。」

KII回答者、インドネシア

しかし、早すぎる結婚や婚姻をめぐる問題は、一層複雑だ。貧困から逃れるための手段として早すぎる結婚や婚姻を選択する女の子もいるからだ。しかしこの場合、貧困だけを理由にCEFMが行われているのではなく、女の子の通学、仕事、収入の機会を制限するジェンダー規範の影響も受けている。女の子の食い扶持を減らすには結婚せざるを得ないと感じる状況[60]は、女の子は夫や夫の家族に依存するものだと考えるジェンダー規範を生み出している。

これについてはラオスの女の子たちも同じ意見だった。「女の子たちが妊娠してしまうのは、男の子が彼女の面倒をみて、結婚してくれるという約束があるからで、妊娠してもある程度安心できるからです」(KII回答者、ラオス)。

一方で、貧困とは別に、CEFMの慣習そのものが若い女の子を早すぎる結婚に追い込んでいる。親が結婚相手を選ぶという運命を避けるために、自身で選んだ相手と結ばれ、代わりに妊娠することを選択するのだ。ネパールで行われたある調査では、若いカップルが早すぎる結婚に至るのは、人生のパートナーを選ぶ権利、結婚のプロセスや時期が否定されたと感じるからであることが明らかになった[61]。

「他にも早すぎる妊娠を理由に早すぎる結婚をする場合があります。それは、親が自分では選ばない男の子と結婚させたがる（お見合い）ことに失望し、お見合い結婚への抗議として、自分で選んだ男の子の子を妊娠することを選ぶのです。」

KII回答者、東ティモール

3.2.3 資源へのアクセスと支配

伝統的なジェンダー規範は、資源へのアクセスやそこから得られるメリットに関して、女の子や女性に不利益を与えている。

経済発展や教育に関連する資源を女の子がもっと活用できるようにするためには、貧困削減と教育戦略とともに、ネガティブなジェンダー規範への取り組みとポジティブな規範の強化を行う必要がある。

プランAPACが実施した調査を含め、多くの調査で貧困がCEFMを拡大する主な要因として挙げられている。CEFMを行うことで、家族は高いダウリー（花嫁の持参金）を節約したり食い扶持を減らしたり、教育費などの費用を減らすことができる。

今回の調査では、女の子の教育にはお金を出さないというジェンダー規範に対して、複数の回答者が同じ根拠を挙げている。

「娘が生まれたときから、親はこの娘は自分たちのものではないと考えている。この娘はしばらくは私たちの所にいるが、その後は他の家に行くことになる。だから、親は娘の教育のためにお金を出したいとは思わないのです。」

KII回答者、ネパール

「多くの親は、女の子は勉強を終えたらどこかへ行き、他の家族に仕えるが、男の子は残って自分の家族に仕えると信じています。このような文化的な信念は、今でも農村部に根強く残っています。」

KII回答者、東ティモール

しかし、このように早い時期から女の子を家族の資源配分から外すという規範は、実は貧困だけでなく、別のジェンダー規範も根拠になっていることに注目すべきだ。たとえば、娘は夫の家族のもとで暮らし、場合によっては唯一の稼ぎ手である夫に依存するのが当然だと考えられている。また、家族の財産が男性の相続人にのみ受け継がれるような場合では、相続法も女の子を差別している。女性はお金を借りたり、土地を所有したりする権利や能力を男性と同じようには持てないため、女性の経済的不利はさらに大きくなって、次の世代へ受け継がれていく[62]。貧しい世帯がインフラにアクセスできないことも、社会規範やジェンダー規範による支配を強める恐れがある。たとえば、ベトナム北部のモン族のコミュニティでは、通信インフラが限られているため、ジェンダー規範を変えるような考え方に触れることがほとんどできない[63]。

したがって、貧困そのものは社会的規範やジェンダー規範ではないが、より広範な経済の変化や教育・情報へのアクセスが、CEFMを生み続けるジェンダーの役割に関する規範の変革につながる可能性があることがわかっている[64,65] 。奨学金や現金給付などの経済的支援の対策は、家族が女の子の教育に対する経済的障壁を克服できるよう支援してCEFMを防止する戦略である。しかし、前述の通り、貧困だけを背景にCEFMが拡大しているわけではない。このため、経済的支援の提供は必要ではあるが、それだけを提供しても、女の子と男の子にふさわしい役割や、女の子が家庭の経済的安定に貢献できる方法に関するジェンダー規範の転換に焦点を当てた物的・人的資源がなければ十分とは言えない[66]。

たとえば、インドやバングラデシュで、娘の教育やユース女性が外で働くことに投資することがより「普通」で「許容できる」という規範に変化した背景として、資源やそこから得られる利点に対する女の子のアクセスの向上が生む経済的メリットを認める人が増えたことがある[67]。さらに、ベトナム北部のモン族のコミュニティでは、地元の市場までの道路状況が改善されたことで、たとえば、これらの市場で女の子がワインや野菜を売ってお金を得る機会が生まれたが、これも女の子の移動が認められて移動性が高まったからこそ可能になっている[68]。

つまり、女の子の教育、移動、家庭外の公的生活への参加に関するジェンダー規範を変えることは、経済発展と貧困削減につながる可能性がある。これにより、早すぎる結婚は経済的に必要ではなくなり、その結果、女の子がコミュニティに貢献する価値について新たな規範が生まれ、結婚年齢が上がる可能性がある[69]。さらに、教育を受けるために女の子が行動することも規範を変える重要な力となるので、支援を受けられる環境下で女の子たちが資源を管理する能力をどのように高めるかが重要である。

加えて、差別的なジェンダー規範は貧困だけが生み出すわけでなく、経済的地位の高い世帯にも存在することに注目すべきである。たとえば、息子を大切にする傾向が強いコミュニティでは、貧しい世帯にはその余裕はないが、裕福な世帯では性選択的中絶がより一般的に行われている。このように、「差別的なジェンダー規範は貧困の産物であるだけでなく、あらゆる経済的背景を持つ女性や女の子に影響を与える」[70]。

教育は、社会規範やジェンダー規範を変え、貧困削減を後押しするカギだが、教育アクセスの改善と同時に、女の子の役割に関するジェンダー規範も変える必要がある。経済発展と同様に、教育へのアクセスを提供することでジェンダー規範が変わり、ジェンダー平等がすすみ、CEFMの防止につながるという好循環を動かす。アジアでのデータが多くを語っている。

「ラオスでは、15歳から19歳までの教育を受けていない男の子の45%が結婚していた。ミャンマーでは、学校に行ったことのない思春期の子どもの19%が出産を経験していた。教育がなければ思春期の女の子は仕事に就くことができず、女性の家庭外での貢献をほとんど評価しない社会規範がこの状況を悪化させる[71]」

しかし、ジェンダー規範もまた、教育へのアクセスを制限している。

「多くの住民は、自分の娘が早すぎる結婚をしない人生を送ることが想像できない。農村部では、女の子が隣村の学校に通う自由を持てないというジェンダー不平等もあり、教育へのアクセスがない場合がある。教育や経済的機会へのアクセスがない場合、特に貧しい農村部では、早すぎる結婚の弊害について意識を高めるのは困難である。このような環境では他の選択肢がないことから、早すぎる結婚は女の子の将来を守るための実行可能な方法だと、コミュニティ住民に考えられていることが多い[72]。」

母系・母方居住性を持つ民族は少数存在する、だが、これらのコミュニティでも、女の子や女性の意思決定への平等な参加はいまだに保証されていない。

先に述べた女性と男性の資源へのアクセスに関する伝統的な規範には、一部の先住民族の母系社会に見られるような例外もある。「たとえば、ネパールの先住民族やインド、タイ、カンボジアの一部の部族など南・東南 アジアの先住民族社会の中には、女性が男性と肩を並べる 高い社会的地位についているコミュニティもある[73]」。女性が土地を所有し、一族の中で土地に関する決定を担う母系社会があるが、こうした社会の女性は、土地を所有することで父系社会の女性とくらべて比較的高い地位にある[74]。さらに、土地を所有することで、女性に公的な場で他の権利や他の役割を主張する正当性、交渉力が高まり、認められるようである[75]。さらに、土地に関する意思決定はエンパワーメントの重要な側面であると認識されている[76]。一例として、カンボジアのブノン族のコミュニティでは、伝統的に富は妻の家族が管理している[77]。また、コムカー（家）の責任を男性と分担し、ブノン族では夫が妻のコミュニティで暮らす母系同居も行われている[78]。

今回の調査のある回答者の話から、ブノン族のユニークな面が浮かび上がった。

「ブノン族のコミュニティでは、男女が意思決定を分担し、お金の使い方に関しても話し合います。たとえば、高価な農機具を購入する場合などが挙げられます。時には、子どもにも意見を言う機会を与えます。保健ケアについては女性が判断しますが、必ず男性の意見も聞きます。たとえば、避妊具の使用や子どもの数について、相談します。」

KII回答者、カンボジア

また、東ティモールにおける母系制の例外について、別の回答者が語っている。

「家父長制が強く、男の子が一族の富を受け継いで一族を率いるという考え方があるため、男の子が優先されます。しかし、地域によっては、女性が優先され、一族の富を担う母系制を実践しているところもあります。このように、女の子と男の子がどのように扱われるかは、どの制度に属するかによって異なります。」

KII回答者、東ティモール



また、インドの母系社会であるタルー族では、財産は男女が共同で所有することになっている。「女性は自分の収入を男性の親族に相談せず自由に使う。インド北東部の丘陵地に暮らすカシ族、ガロ族、ジャインティア族などの母系部族では、女性は土地の独占権を与えられ、先祖伝来の財産を相続する権利を持つ。しかし、家族内での女性の地位の高さは、農村社会のより大きな政治的背景には反映されていない。先住民族も文化・伝統に対する植民地の影響をある程度受け、先住民の女性たちが自分たちの文化を守る役割を果たすのは難しい状況に置かれている[79]。」

さらに、母系社会では女性が土地利用の決定において積極的な役割を果たすことは必ずしも保証されていない[80]。女性の地位、権威、権力は母系集団によっても異なり、結婚後の住居が父系よりも母系の方が女性の立場は強いようだ[81]。しかし、男性が家庭やコミュニティのウェルビーイング（幸せ）に重要な役割を担って存在感を示しており、母系社会でも家父長的構造やジェンダー役割がないわけではない[82]。

母系社会における同様の男性優位は東ティモールでも見られ、豊作や祖先との関係に関する儀礼上の知識は男性が取り仕切っていた[83]。加えて、「ポルトガル領ティモールのカトリック教会は、女性に学校教育やその他の指導を行っていた。だが、その目的は、集団の空間より劣るとみなされる家庭やプライベート領域に厳しく限定して、家事に長けたヨーロッパ型の妻を生み出すことだと見られている[84]。」

息子の優先は、長年にわたる強固なジェンダー規範に裏打ちされた慣習であると同時に、有害なジェンダー規範を生み出している。

息子の優先は、娘はダウリー（持参金）が必要で結婚すれば他の家庭に入るため、娘を家計を圧迫する原因と見るコミュニティで最も広く行われている慣習である[85]。ネパールでは、親が娘から経済的支援を受けることも容認されていない[86]。このように、息子を重視する傾向は、重要な資源である時間を含む資源へのアクセスに関するジェンダー規範と密接に関係している。こうした規範には、教育への不平等なアクセス（親が男の子の教育にお金をかける方が良い、あるいは男の子の方が教育を受ける価値があると考えるため）[87]が含まれる。たとえば、インドでは、息子が家系を継ぎ、両親の老後を支え、家族の地位を高め、持参金をもたらすと考えられているため、息子が優先される。

こうして、娘に対するジェンダー差別は、「生まれる前に娘を排除する」という行為につながることがある。また、特に貧しい家庭では娘が食料、保健、教育の面で差別されたり、養育費やダウリーを安く抑えたいがために早すぎる結婚を強いられたりすることもある。息子を優先する慣習は、息子を生まない女性にも深刻な結果をもたらす。女性が男の子を生まないと地位を下げられたり、不当な扱いを受け、殴られ、離婚され、捨てられることもあるなど、社会的制裁として重い罰が科される[88]。

3.2.4 意思決定への参加

年長者に従い、孝行し、年齢の上下関係に従うべきだという社会規範が、女の子の発言力と主体性を妨げるジェンダー規範を一層悪化させる。

幼いうちに娘を結婚させるという親の決断は、恥や性暴力、あるいは（特に女性に教育や経済の機会がほとんどないコミュニティでは）経済的困難から娘を守るために、親が娘にとって最善だと信じていることをしてやろうと考えて行われることが多い。このように正当化されることで、両親や年長者に従うことを最優先とする規範が、厳格な宗教的・文化的規範とともに強固になる。

ある回答者は、次のように話している。

「子どもたちの中には、早すぎる結婚について知っていて理解している子もいますが、彼らは無力で経済的にも親に頼っており、自分たちで決断する力がないのです。」

KII回答者、東ティモール

これらは、親業（親であること）に関する社会規範と密接に関係している。アジアの多くの文化では、親に従順であることだけでなく、親の服従させる力も高く評価される。この意味で、親が権限を持つという社会規範、そして父親が意思決定をリードし母親がその決定をサポートするというジェンダー規範、これらすべてが自らの結婚に関する意思決定に女の子自身の存在がないという状況を生んでいる。

「農村部では、ほとんどの早すぎる結婚は、親の命令には従わなければならないという文化を背景に行われています。親は尊敬しなければなりません。もし、親に口答えをすれば、無礼とみなされます。こうした規範は、今でも多くの農村地域に残っています。」

KII回答者、インドネシア

「年長者には従うべきだということですから、若ければ若いほど、発言は許されません。これは、ここでは非常に厳しい規範です。（年齢の）上下関係もあります。ラオスはとても厳格な国で上下関係が厳しいので、常に年長者に従うことになっているのです。」

KII回答者、ラオス



思春期の女の子や女性が自分のセクシュアリティについて選択する力が弱い家父長制社会では、社会規範とジェンダー規範が作用しあい、[89]女の子は結婚の時期や結婚相手の選択に関して親に従うべきだと決めつけられる[90]。女の子には、母親や妻であるという社会で最も重要な役割をどのように果たすべきかを教える必要があるために、なおさらだ。こうして、先に述べたジェンダーの役割が強固になっていくのだ。さらに、女の子のセクシュアリティをコントロールする規範に逆らえば、社会的に強い反発と結果を招く[91]。

しかし、置かれた状況の中で娘にできるだけ良い機会を与えたいという親の願いは、CEFMの弊害について情報を広めるさいに、ポジティブな規範として活用できると考えられることに注目すべきだ。また、一部の親がなぜ娘にはきちんとした仕事についてほしいと考えるのか、そこにはこのポジティブな規範があると暗に示す回答者もいた。

「私の勤務する郡の場合、住民は経済的にあまり恵まれていないため、自分の子どもには経済的に恵まれた立場につける政府の仕事に就いてほしいと思っています。そのため、この郡では、早すぎる結婚をさせる親の圧力はかなり低く、むしろ子どもたちに技術教育を受けさせようとします。」

KII回答者、ネパール

女の子や母親の意思決定は、家族内の男性への従属と服従を規定するジェンダー規範によって妨げられている。

社会では一家の長は当然男性だと考えられているとするジェンダー規範は、家庭内の子どもに関することに女性が参加することを制限する。

「母親グループの定期集会で、母親たちは『自分も同じ経験をしたから、若いうちに結婚させたくない』と言うことがほとんどです。しかし、家族の男性たちが強要するため、母親たちは子どもの結婚について決断せざるを得ない。これが、家父長制なのです。」

KII回答者、バングラデシュ

一家の長としての男性の地位は、政府のシステム（登記制度など）で制度化さえされている。

「…登記制度で、家族の長として認められているのは男性のみなので、アクセス権はいまだに男性が握っています。政府の支援にアクセスするさいも同様です。私たちは家父長制の文化なので、決断は父親がすることになっています。娘を結婚させる権利は父親が持っているのです。一方、妻は夫の望むことに従う傾向があり、娘を結婚させないために争うことはあまりありません。」

KII回答者、インドネシア

これも、前述の男らしさの考え方に関する規範と関連しており、特に家庭の意思決定では当然父親が男らしさを発揮するべきだと考えるコミュニティで一層強固なものになっていく。そして、それは息子たちにも受け継がれていく。

「最終的に決断するのは父親であることが私たちの調査でもはっきりしています。そして父親は、仲間からの、兄からの、あるいは母親からのプレッシャーによって、その決断をする。だから、男性、そして男の子たちを巻き込む必要があるのです。若い女の子と結婚するように言われた男の子たちが今度は、自分が教えられた男らしさのモデルに従って、女の子との結婚生活でも同じ「男らしさ」を発揮するのです。」

KII回答者、ネパール

早すぎる結婚に関する親の決断をめぐる社会規範と、女の子が自分の結婚に関する意思決定に参加することを制限するジェンダー規範が重なり、作用しあう[92]。そして、女の子の発言力と意思決定力がどれほど奪われているかを、この調査の回答者らも語っている。

「親は『結婚を承諾するか、しないか』と女の子の意見を聞くことはしなかった。結婚の話になれば、女の子の親はイエスと言うことになっているのです。」

KII回答者、バングラデシュ

「女の子は外に出てはいけない、女の子はこういうことをしたり、言ったりしてはいけない、女の子は決断してはいけない。そう信じているのです。」

KII回答者、バングラデシュ

意思決定をめぐるジェンダー規範は、国、州、コミュニティ、家庭によって大きく異なることに注目すべきだ。意思決定に関するポジティブな規範の一例として、パキスタンのChitralに住むカラシャ族では、女性が結婚する男性を選べるという事例がある。さらに、コミュニティで生活費を稼いでいる女性は、収入を管理し、子どもの保健や教育にかかわる事柄に意見を言うことができる[93]。

家庭内の意思決定はジェンダーよりも、誰が給料を稼いでいるかによって決まる。しかし、収入の使い方に関して夫婦間のコミュニケーションは少なく、財産の所有権や意思決定は男性が握っていることもわかっている[94]。それでも、遠隔地のコミュニティでは主に警察官や警備員として働く機会が増えたことで、女性のエンパワーメントが進んでいる[95]。

BelenとMinhas (2021)が実施した調査の回答者も、カラシャの女性は移動の自由が大きく、子どもの教育に関する意思決定にも参加できることを強調した。

「一般的に、カラシャ族の女性は一人で病院に行ったり、一人で外出したりすることができる。出かける前に家族に知らせるが、許可や男性の同伴は必要ではない。子どもについて何か決める際も、母親と父親は平等。結局は稼ぎ次第なのだ。カラシャ族では、高校卒業後、子どもを町の中心部に出さなければならないが、子どもが都会に出て勉強を続けるかどうかは、稼いでいる人が決める[96]。」

しかしながら、CEFMは伝統的にカラシャ族の間でも行われている。「思春期になると、村を出てChitralにある大学に行くと決めない限り、カラシャの女の子は16歳か17歳（時には14歳！）で自分が選んだ若い男性と結婚する。時には、見合い結婚もある。結婚後すぐに妻が夫の実家に入ることはなく、しばらく実家に帰り、最初の子の出産後に夫の実家に戻って落ち着くのが一般的である[97]。」

さらに、カラシャ族では宗教上、女性は月経の間は家の外の小屋（バシャリニと呼ばれる）にいることが決められており、この宗教上の厳しい規範は何としても守らなければならない[98]。また、役割と責任に関するジェンダー規範が存在し、カラシャの女性の生活には幼い頃から重労働がついてまわる。6歳でもう、母親が自分ときょうだいのためにタシリ（パン）を焼いたり、お茶やミルクに使う水を小川に汲みに行ったり、火おこしの小枝を集め、でこぼこで狭い道や険しい崖を通って苦労して学校に通っている[99]。

3.2.5 性暴力・ジェンダーに基づく暴力

CEFMが結婚した女の子とその子どもの世代に与える有害な影響をジェンダー規範がさらに悪化させる。

女の子の生殖に関する役割や移動の規制に関するジェンダー規範は、CEFMを生み続けるだけでなく、早すぎる結婚が女の子に及ぼす有害な影響を悪化させる。早すぎる結婚が生む最も大きなリスクの一つが早すぎる妊娠であり、特に母親が非常に若い場合はなおさらである。アジアでは15歳未満の出産はかなりまれであるが、バングラデシュでは15～19歳の女の子の4.4%が15歳未満で出産し、20～24歳の女性のほぼ4人に1人（24.4%）が18歳未満で少なくとも1回出産している[100]。

さらに、若くして出産した思春期の女の子は、家庭での世話が主な役割だとジェンダー規範で決められているため、どうしても大切な成長の機会を逸することになる。ジェンダー不平等と、若い既婚の女の子が担う世話の負担はすなわち、彼女たちがより良い雇用の可能性がある地域へ移動できなくなることを意味する[101]。そのため、女の子と女性、そして思春期の女の子が産んだ子どもたち（女の子も男の子も同様）は、貧困と排除の連鎖にさらに追い込まれることになる。

既婚の女の子に対する、家庭内暴力や親密なパートナーからの暴力、その他の形のジェンダーに基づく暴力のリスクが高まっている。

若くして結婚した女の子は、家庭内暴力や虐待、性的関係の強要などのリスクにさらされやすく、多くの親が娘を守るつもりで幼いうちに結婚させることを考えると、深い皮肉と矛盾を感じさせる[102]。たとえば、インドでは、女の子の結婚が早いほど親密なパートナーから暴力を受ける可能性が高くなる[103]。中には、若い既婚の女の子がジェンダーによる役割や移動の制限に逆らうと（たとえば、夫の許可なしに家を出る）、夫や、時には姑から家庭内暴力を受ける。

また、若くして結婚したことによる影響として、VAWG（女性や女の子への暴力）を挙げる回答者もいた。

> 「女の子でも男の子でも、子どもが自分たちの権利について理解することは難しいのです。良い人間関係を築く方法を知らず、家族内の権利の理解も乏しい。暴力沙汰になって、子どもの親が介入してくることもある。」
>
> *KII回答者、東ティモール*

女性や女の子、特に妻となった女の子に対する暴力を容認する規範は、家父長制における有害な男性性にうってつけの存在と言える。結婚後、女の子が親密なパートナーから暴力を受けることは、コミュニティで広く知られているが、多くの場合「普通なこと」と考えられている。たとえば、ベトナム北部のモン族のコミュニティでは、女の子たちは夫になる人に最も望むことは暴力を振るわないことだと報告している[104]。今回の調査の回答者の一人も、女の子や女性に対する暴力を「普通」だと考える状態が延々と続いているのは、通常ならVAWG経験者のサポート役であるべきサービス提供者らまでが同様に考えているからだ、と言う。

> 「法務局と司法サービスについての打ち合わせをしますが、ある調査で、回答した役人の60%が『夫が妻を殴るのは普通だ』と考えていることがわかりました。また、警察にも被害者を責める態度があります。『なぜ、悪いことをしたのか』、『なぜ、料理がうまくできなかったのか』と女の子に問うのです。」
>
> *KII回答者、ラオス*

法律の施行による保護が行われない状況も、VAWGの常態化を悪化させる。ある回答者も次のように話した。

「ラオスでは、子どもを保護する仕組みや暴力から守る仕組みはあまり強固ではありません。そのため、早すぎる結婚をした場合、結婚を取り消したり、暴力事例として通報したりすることは非常に難しいのです。早すぎる結婚だけでなく、暴力に対応するのは非常に難しいです。」

KII回答者、ラオス

ジェンダー規範では、結婚後、女の子は常に夫の指示にすべて従うべきであり、新郎の家族が期待するとおりの存在であり、すべてを行うべきであるとされている。このことも、女の子や女性に対するあらゆる種類の暴力が容認されることにつながる。ネパールの回答者らは、女性が女性に対して暴力を振るうこともあり、特に義母を含む親戚から暴力を受けている実態を明らかにした。

「男性よりも女性が女性を差別しているような気がすることがあるんです。だから、女の子は結婚後、父親よりも姑から虐げられることが多いんです。たくさんのことをして当然だと思われる上に、多くの習慣、伝統、慣習にも従わなくてはなりません。着こなし、話し方、行動、行き先、何もかもです。義理の父よりも義理の母が大きな問題です。だから、その場合だけですが、私も女性は男性よりも女性に支配されていると思います。」

KII回答者、ネパール

さらに、女性が虐待や脅迫を受けても、離婚を恥と考えて助けを求めないため、結婚後暴力を受けても虐待の関係から抜け出す道がないか、ほとんどない場合もある[105]。加えて、当然結婚が女性にとって最も望ましい状態であるはずだという規範を背景に、女性は虐待や大変な家事負担に耐え、平穏を保つために夫の決定に従い、家計を支える夫に感謝するべきだという、また別のジェンダー規範が強固になり、男性は性的にも家庭的にも従順で敬意を忘れない女性に対する権利を「手に入れる」のだ[106]。これらの規範は女性が資源（資産、教育、雇用）を利用できないことによっていっそう強固になり、女性は結婚生活の中で従属的な地位に置かれ、女の子は虐待的な結婚から逃れることができなくなる[107]。

フィリピンでは家庭内暴力に加え、強制された早すぎる結婚は子どもの人身取引と密接な関係がある。女の子や若い女性は、家事労働や性的搾取のために国内外を問わず人身取引されており、メールオーダー・ブライド・サービス（コンピュータを利用した花嫁探し）と「スポンサーシップ」がこうした搾取を陰で支える隠れ蓑の役割を果たしている[108]。

4 アジア太平洋地域においてCEFMを生み続ける否定的で有害なジェンダー規範・社会規範をさらに悪化させる公式・非公式な権力構造とシステム

有害な社会規範とジェンダー規範は、他のもっと大きな構造やシステムの中に埋め込まれ、強化されている[109]。そこには、その国の法律や政治・司法制度と同様に、教育・保健・経済分野や女性や男性、女の子や男の子、その他さまざまなジェンダー・グループを対象とする制度、コミュニティや宗教組織における社会構造、その国の環境や地理的な条件などさえ含まれる。

社会規範とジェンダー規範を理解するためには、家族、コミュニティ、制度における現状の維持と既存の力の不均衡と不平等から利益を得る立場にいるのが誰かを理解することがカギになる[110]。

4.1 CEFMを生み続ける主要権力者に求められるエンゲージメント

以下のセクションでは、家族、コミュニティ、組織に存在する公式・非公式の権力構造とシステムについて論じるが、まず、CEFMを生み続ける社会規範・ジェンダー規範の維持を後押しする権力者の説明から始める。

4.1.1 家族レベル

父親は家族の中で一番大きな権力を持っている。家族の長であり、第一の意思決定者でもある。妻に関することや娘の結婚に関する意思決定も含まれる。

今回の調査の回答者の何人かは、この権力は男性に与えられていると指摘する。

> 「ほとんどの場合、早すぎる結婚は父親か家族の中の男性によって決められます。」
>
> *KII回答者、東ティモール*



また、父親も当然そうするものだと社会に求められているから、そうしているという指摘もあった。

「そうです、ほとんどの場合、父親が第一に決定します。しかしながら、父親が決断するのは、社会の他の男性メンバーからの同調圧力もありますし、やはり家族の男性メンバー、つまり家族や親戚を含む家族の年長者、そして社会からの圧力があります。」

KII回答者、バングラデシュ

ある回答者は、父親の責任は決断だけでなく、娘の「所有者であること」もまた父親の責任であると強調した。

「女の子の体は、子どもである以上、本人のものではなく、家族、特に父親のものです。だから、彼女の体は父親に、結婚後は夫に属すのです。体に関する権利など女の子にはないのです。女性は単なる資産、物、所有物であるというジェンダー・バイアスから生まれる考え方の影響です。」

KII回答者、インドネシア

他の回答者は、親族も女の子の結婚について意見を言って、親にプレッシャーを与えることがあると述べている。

「他の親族、両親の兄弟姉妹、私たちは叔父、叔母と呼んでいますが、彼らは娘に結婚するように、あるいは親に娘の結婚を早く決めるように圧力をかけます。そして、『もう年ごろだから、そろそろ結婚を』と口実をつけてやってきて、とても良い家で息子もよい子で働いていれば、『結婚の申し込みをもってきた…その家に嫁がせたらどうか』と言うのです。

だから、娘を嫁がせる親にも、親族からものすごいプレッシャーがかかっている。これはネパールではよくあることです。」

KII回答者、ネパール

4.1.2 コミュニティレベル

女の子の結婚に関する決定について、コミュニティでは、宗教指導者、コミュニティ指導者、地元の上流層（高学歴な富裕層など）、そしてコミュニティの長老たちもかなりの力を持っている。この調査の回答者の一人は、次のように述べている。「たとえば、ヒンドゥー教の文化では、男の子が女の子にふさわしいかどうかは、司祭が決めます。」（KII回答者、ネパール）

国によって影響力を持つ者はいくらかいるが、中でも宗教指導者の存在は際立っている。

「その他、宗教指導者には大きな影響力があります。結婚の手続きや仲人も含めて、早すぎる結婚に大きな役割を果たしています。」

KII回答者、バングラデシュ

「また、家族の評判を守るために、親がこうした伝統的な宗教指導者に相談することもあります。そのため、彼らは結婚の儀式を行うだけでなく、アドバイスをするなどの重要な役割を担っていると思います。」

KII回答者、カンボジア

「また、コミュニティで重要な役割を担っている伝統的な指導者、宗教指導者、地元の指導者らとの関わりがあるため、親の決定に影響を与える可能性があります。」

KII回答者、東ティモール

「モン族では、親や義理の親だけでなく、一族の長も重要視されます。そして、誰が誰と結婚するのかを決定するのも彼らです。一族のリーダーは本当に重要で、村のリーダーよりもはるかに強い力を持っています。

村のリーダーや権力者は、実は政府の役人なのです。」

KII回答者、ラオス

コミュニティレベルでは、子どもがいつ誰と結婚するかという決定に影響力を持つ者のほかに、家族が規範から逸脱した場合に社会的制裁を加える権力者も存在する。「女の子が規範を逸脱した場合、隣人や村人らが噂を流したり広めたりして大きな力を振るっていると広く考えられていた。女の子もその親（特に父親）も、女の子が村の周辺を動き回ることに対して、当然強い制裁があるとは考えるが、それは厳密に教育的指導とばかりは言えなかった。」（CARE Tipping Point 社会規範の調査結果、2020年）

ある回答者はその具体例として、コミュニティ指導者や住民らは、規範に従わない家族を社会的に否定することもできるため、より大きな影響力を持つと述べた。

「たとえば、結婚の申し込みを断ることはタブーです。そんなことをすれば女の子は将来結婚相手を見つけるのが難しくなるからです。この種の思い込みは宗教的な解釈よりも説明するのが難しいのですが…。宗教的な決まりに反するのは平気でも、文化に根づいた思い込みに逆らうのは怖いという人もいます。さらに、宗教的な解釈に文化的な側面も含まれていれば、それに逆らうのはなおさら難しくなります。」

KII回答者、インドネシア

4.1.3 組織レベル

さまざまな組織で、CEFMの慣習を排除する取り組みに参加すべき人々についても言及されている。今回の調査では、宗教事務所や結婚手続きをする役所で働く職員や警察、教師、保健師など司法にかかわる者などが挙げられている。

「まずは地元の指導者、村長、結婚の手続きをする職員など結婚許可書に署名する人々です。こうした組織が早すぎる結婚の防止に取り組むことを期待しています。」

KII回答者、インドネシア

「教師は、包括的な性教育を含む教育分野の中心にいるため、非常に重要です。そして、避妊へのアクセスと言う意味で保健師もです。」

KII回答者、ラオス

「宗務庁は中心的で重要な存在です。彼らは早すぎる結婚について明確に理解しているはずですが… 宗教庁の役人が『親もみんな賛成、子も賛成なのに、なぜ結婚を止めなければならないのか』と言った時は、恐ろしかったですね。こんなことを言う宗務庁の役人は、まだたくさんいますが…」

KII回答者、インドネシア

「地方レベルでは、地方当局、警察、コミュニティの首長その他行政、各地方自治体の全関係部局が、すべての議論にかかわる必要があります。彼らは法の支配の実施あるいは適用において重要な存在なのですから。」

KII回答者、カンボジア

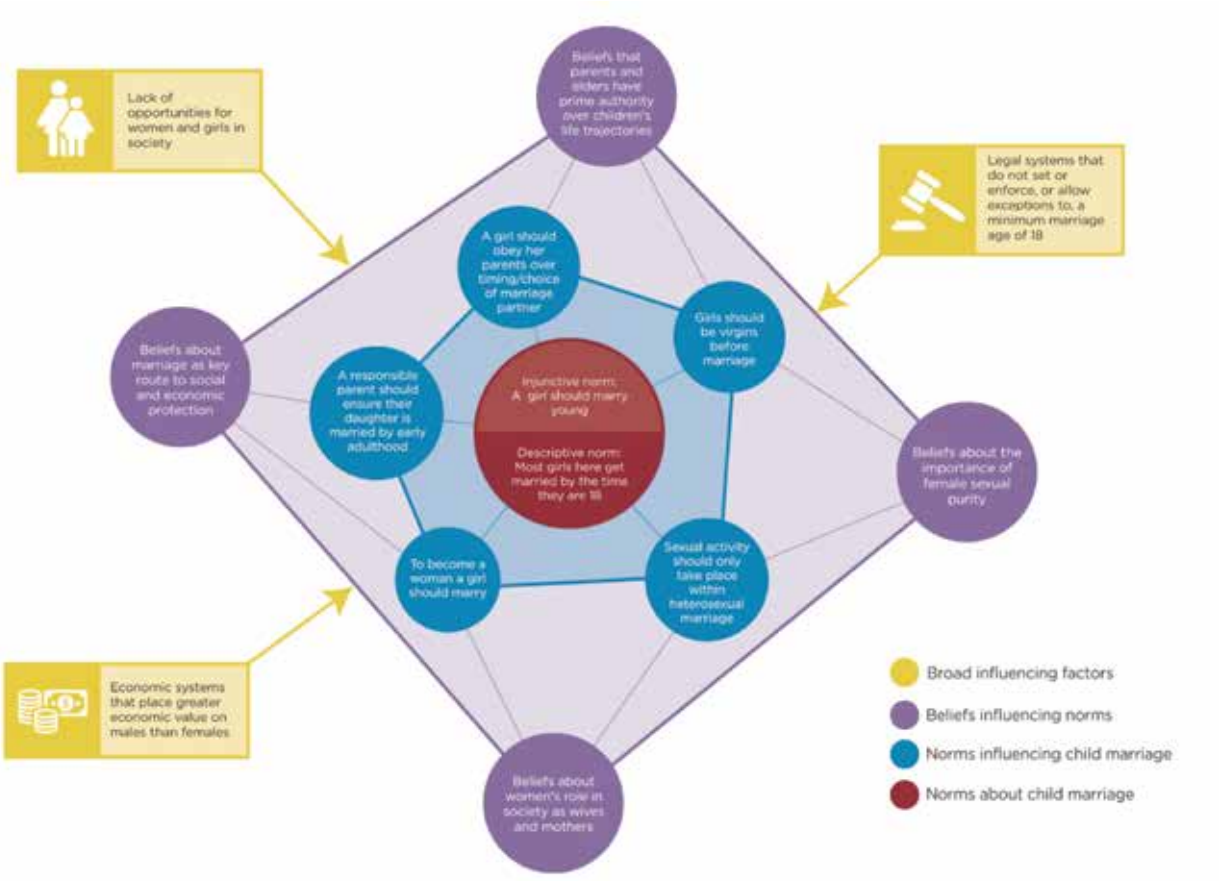


4.2 CEFMを生み続ける社会規範・ジェンダー規範を 増幅・拡大させる構造とシステム

前述したように、社会規範やジェンダー規範はそれだけでは存在せず、一般的に構造やシステムに組み込まれ、そのシステムによって繰り返し生み出される。CEFMの主な要因として、経済的格差や教育へのアクセス不足が挙げられることは多い。しかし、重要な構造的・制度的要因ではあるものの、経済的資源や教育を提供するだけでは、そこに生まれる男女（男の子と女の子を含む）間の不平等の根源である社会規範・ジェンダー規範に取り組むことはできない。たとえば、条件付き現金給付は現在、思春期の女の子の結婚年齢を引き上げるツールとして好評だが、Aminら（2016）は、このアプローチではコミュニティや結婚生活にある社会規範に対処できる可能は低いと、注意を促している。「教育へのアクセス、権利の実現、規範を変える取り組みなど、プログラムの影響力をもっと広い視野でとらえることが提唱されている」[111]。

さらに、社会規範やジェンダー規範は、行動変容の妨げになることもあれば、助けになることもある。「たとえば、既婚の思春期の女の子の生活の中で、家族計画サービスを受けるための法律や施設、物資が整っていたり、避妊の方法を知っていて個人的に避妊を認め、利用したいと思っていたりして、夫とすぐに子どもをつくらないという合意ができている場合もあれば…逆に新婦がすぐに子どもを産むなど、ある種の規範を大切にしているコミュニティに属している場合、その社会規範を破って避妊することは非常に困難であり、たとえできたとしても、大きな反発を受けるかもしれないのだ」[112]。

図 4　早すぎる結婚の原因となるジェンダー規範と認識



出典 Greene、2019年

社会規範やジェンダー規範と他のより広い環境的要素が互いに作用しあっていることを示すGreene(2019)の提示した図は有用である。この図は、法律が十分に施行されていないことや教育機会の不足、経済システムにおけるジェンダーバイアスなど、すべて社会規範・ジェンダー規範と関わりあう制度上の欠陥が、規範の支配を強め、現状の不平等な家父長制を維持していることを浮き彫りにしている。

これに対して、「早すぎる結婚を制限する規範や制度の強化（国の最低結婚年齢法、条約や宣言で早すぎる結婚の慣習を排除するグローバルな規範環境、早すぎる妊娠が健康に及ぼす害に関する意識の高まり、女の子の教育を支持するグローバルな規範の強化）にもかかわらず、早すぎる結婚の慣習がいつまでも続いている場合、それは慣習を支える社会規範が強力で、それを助長する社会的構造があるということになる。」[113]

4.2.1 ジェンダーを配慮しない法律と政策

国際的な規範と世界の大多数の国々の政策と法的枠組みは、早すぎる結婚の撤廃を目指す権利に基づいた原則を支持している[114]。それでもなお、プランがアジアで活動する14カ国のほとんどに早すぎる結婚を禁止し、結婚の最低年齢要件を定める法律があるにもかかわらず、その多くがジェンダーに偏りのある法律で、男子に比べて女子には1～4歳低い最低年齢を認めている（例：中国では結婚年齢は女性が20歳、男性が22歳、インドでは女性が18歳、男性が21歳、パキスタンでは女子16歳、男子は18歳）[115]。ただし、最低年齢とは結婚の推奨年齢を指すのではなく、あくまで確実に子どもを保護するための最低基準値である。プランは、女の子と若い女性は、結婚するかどうか、いつ、誰と結婚するかを選択・決定する自由を持つべきだという立場を推進している。

これに加え、最低年齢には例外もあり、このため婚姻外の妊娠を恥ずべきこととして非難する社会規範・ジェンダー規範がさらに強固になっている。たとえば、カンボジアでは、結婚の法定年齢は18歳であるが、「結婚と家族に関する法律」（1989年）第5条では、女の子が妊娠した場合、両親または保護者の同意があれば子どもの結婚を認めている[116]。

ある回答者も、宗教的・文化的な理由で例外を認める法律があるため、ジレンマが生じていると話す。

> 「最高裁が定めた免除規定第5号（2019年）がジレンマを生んでいます。なぜなら一方で、これが早すぎる結婚をさせる方法になり得るからです。つまり、自分の子供を結婚させたい親は、この規定を利用することができるのです。一方、この規定がなければ、合法的に登録されていない多くのニカ・シリ（宗教的/文化的な結婚）が生まれることになります。」
>
> *KII回答者、インドネシア*

早すぎる結婚を禁止する法律の施行は、特に複数の法制度が確立している国や、慣習法、伝統法、宗教法の下でも婚姻が行われている国では、複雑になることがある[117]。インドネシアでは、1974年の婚姻法で結婚時の法定年齢が21歳と定められているが、「本当に許容されている最低年齢は女の子が16歳、男の子が19歳で、どちらかが21歳未満の場合は親の同意が必要（18 + Coalition, 2016）」とされている。さらに、2002年の「児童保護に関する法律」では、未成年の結婚を防止する責任を親に負わせている。しかし、バングラデシュと同様、インドネシアも成文法だけでなく、宗教法、伝統法が適用されており、こうした伝統法、慣習により、15歳以下の結婚を認めている地域もある[118]。インドでは、「2006年早すぎる結婚禁止法は、早すぎる結婚を防止しない者に対する罰則を定め、早すぎる結婚の取消権も含んでいるが、同法は違反の通報を家族に依存しており、そもそも成立していないとも言える」[119]。

また、ある回答者は慣習法の強さを強調した。

「法律的には、早すぎる結婚を禁止する法律はありますが、あまり守られていません。それについては、さまざまな理由があります。そしてもうひとつ、法律として定められていない慣習法というものがありますが、これが非常に強い影響力を持っています。」

KII回答者、ラオス

さらに、これらの法律がいかに効果的に実施されるか（あるいはされないか）には、社会規範・ジェンダー規範が関わる。バングラデシュでは、政府や地元の役人の不作為で早すぎる結婚が野放しにされている[120]。それにもかかわらず、早すぎる結婚を犯罪とすることは複雑な問題であり、偏ったジェンダー規範を不本意にも強化し、女の子にとって次のような悪影響をもたらす恐れがある。「女の子たちが、自分が被害にあった暴行を報告しないことで罰せられる、あるいは家族を刑務所に入れることに伴う社会的スティグマ、報復、精神的苦痛に直面するなどだ」（国連人口基金（UNFPA）。たとえば、パンジャブ州議会は2015年3月、女の子が結婚できる法廷最低年齢を16歳のまま変えずに、子ども同士の結婚を後押しした親や聖職者の罰則を強化する法律を可決した[121]。

ネパールの最近の調査では、通報された早すぎる結婚の4分の3以上がカーストや社会的地位の不一致を理由とするもので、司法的な処罰の多くがこうした背景で行われていることがわかった。早すぎる結婚の事例は法的な扱いが軽いのに対して、レイプは厳罰なため、早すぎる結婚はレイプ・誘拐・人身取引の事例に置き換えられる。さらに回答者らは、カースト、宗教、社会的地位が夫婦間で一致しない場合しか、早すぎる結婚の訴えはされないことを明かした[122]。

ある回答者は、法律の施行と並行して、人々の考え方や社会・ジェンダー規範を変えることの重要性を語った。

「確かに政策や法律はあるのですが、実際の施行となると、ご存知の通り、どの国も実に欠陥だらけです。それが一つ目です。そして二つ目は、政策がトップダウンで行われている点です。しかし、有害な社会規範、ジェンダー規範を変えるという点では、ボトムアップのアプローチでなければ、社会規範やジェンダー規範を無視してしまえば、何の影響もありませんよね？ つまり、大切なのはコミュニティ、親、教師、住民たちの行い、考え方、姿勢を変え、宗教指導者、市民社会団体、警察、司法制度を巻き込むことです。しかし、（トップダウンだと常に）上ばかり見て、そもそもこれが有害な社会規範であり、闘う必要があることをすべての関係者が理解し、確実にその声を政策空間に反映させなくてはならない。ここに使われる労力があまりにも大きかったのです。」

KKII回答者、アジア太平洋地域

4.2.2 宗教組織・伝統的慣習

CEFMを生み続ける社会規範は、宗教的・文化的な伝統と信仰を通して強固になる。

インド、パキスタン、ネパールでは、配偶者選びの指針となり、集団のアイデンティティを反映する宗教が早すぎる結婚の主な要因として挙げられている[123]。今回の調査の回答者の一人は、自分の宗教、民族、カーストが親やコミュニティ住民にとってどれほど大きな関心事であるか、例を挙げた。

「特にイスラム教徒やマデシ族のコミュニティでは、娘や息子が他の宗教や他の民族と結婚することを、実は許していません。ですから、イスラム教徒の女の子や男の子が他の宗教の人と恋に落ちるのは許されず、無理やり同じコミュニティの人と結婚させられるのです。同様に、ヒンズー教のカースト最高位のバラモンの場合、息子が最下層のダリットの女の子と結婚することを親は許さないでしょう。」

KII回答者、ネパール

また、別の回答者も次のように話した。

「預言者ムハンマドとアイシャの結婚の例に見られるように、書物を理解すると、人々は早すぎる結婚の方が良いと思うようになる。これは、配偶者以外と性交渉を持たせないための戦略でもありますが。」

KII回答者、インドネシア

また、確実に救済されたいという願望が宗教的圧力になる場合もある。ある回答者は、ヒンドゥー教の信仰を挙げる。

「現在も一部のコミュニティで行われている古代ヒンドゥー教の宗教に、思春期前の娘を嫁がせることで得られる『コンヤ』と呼ばれる救済があり、それによって、親が救われる、あるいは天国に行けるようになるとのことです。」

KII回答者、ネパール

CEFMの大きな要因であるカーストに関する規範

宗教に加え、カーストに関する文化的慣習もCEFMの大きな要因となっている。ネパールで最近行われた調査で、回答者の4分の1以上が、思春期の若者の間では自分でパートナーを選ぶ可能性が高まっていると報告したことがわかった。このため、親は、娘が低いカーストや異なる民族、社会的地位の低い男の子と駆け落ち（恋愛結婚）することを恐れて、子どものうちに結婚させようとするのだ[124]。

こうした社会の認識を背景に、宗教・階級・カーストがいわば釣り合わない思春期の若者の恋愛を犯罪とする動きまである。「南アジアの古典的なヒンドゥー教の書物や言い伝えでは、さまざまな形の結婚があるとしながらも、恋愛結婚は集団の連帯を脅かす違反行為とみなされている。異なるカーストや民族間の求婚や結婚によって、カースト制度・家父長制・不平等なジェンダー関係を構造的に社会の中に生み、守り続けるのが困難になるので、公式にはカースト制度は長らく廃止されているが、親・親族・コミュニティには（異なるカースト・民族間の求婚・結婚という）こうした行いに対して激しい抵抗感がある。」[125]

さらに、カースト制度の下では、特に低い階層の女の子たちに幼いうちに結婚する圧力が高まる[126]。たとえば、カーストが重視されるネパール、特に遠隔地の農村部では、ふさわしい相手の数が限られる場合があるため、結婚相手として話に出た相手は受け入れざるを得ないのが実状だ[127]。

4.2.3 セクター別サービス（例。教育、雇用、健康/SRHR）

教育機関には、教育へのアクセスの質を含め、ジェンダーに基づく不平等が根強く存在する[128]。女の子は非常に多くの教育上の障壁に直面している。具体的にはジェンダーに基づく暴力（登下校時や学校内での性的嫌がらせを含む）、学校で月経の衛生管理ができないことが出席率に影響している、特に学校の管理・運営職にロールモデルとなる女性が少ない、ジェンダーバイアスのある教育カリキュラムによって女の子に対する役割や行動が制限されるなどで、否定的なジェンダー規範を強化する恐れがあることなどが考えられる[129]。それに加えて、既婚の思春期の女の子も教育面で差別を受けている。エビデンスは少ないとはいえ、CEFMは男の子の学業にも悪影響を及ぼす恐れがあるにもかかわらず、男の子は結婚しても女の子ほど一様に学校をやめるよう要求されない[130]。

さらに、若い女性の雇用機会に対する障壁もある。たとえば、専攻分野がジェンダーで分けられているなど、より良い報酬と社会的地位が得られる科学、技術、工学、数学（STEM）などの男性優位の分野に進む女の子の選択肢は制限されている[131]。コミュニティによっては、ジェンダー規範やステレオタイプが女性の働く意欲さえそいでいることもある[132]。その上、女の子や若い女性は、社会的・経済的資源やセーフティネットに関しても不利な状況に置かれている。

差別的な相続権や、ローンやその他の金融サービスへのアクセスが少ないなど、社会的、経済的、政治的制度の中に存在し続けるこうした不平等が、女性の経済的自立に重大な影響を与え[133]、女の子と若い女性がCEFMを経験するリスクを減らすために必要な自由を彼女たちから奪っている。

女の子や思春期の若者、特に既婚者や教育レベルの低い者は、年齢に応じた保健サービスを受けられないことが多い[134]。これが18歳未満での妊娠・出産につながることが多く、女の子たちの健康に深刻なリスクを与えている。「バングラデシュでは、20～24歳の女性のほぼ4人に1人（24.4%）が、18歳までに少なくとも1回は出産している。ラオスでは、15～19歳の47%がすでに1人以上の子どもを産み、15歳から19歳の平均初産年齢は16.6歳と非常に低い」[135]。さらに、家父長的な規範のために、女の子や若い女性には、自分で決める自由も自分の体をコントロールする自由もほとんどない[136]。アジアの活動家らは、包括的な性教育へのアクセスも女の子と若い女性の性と生殖に関する健康上の権利の尊重も著しく不足していると嘆いている[137]。さらに、質の低いCSEや避妊を阻む壁が、思春期の若者の意図しない妊娠率の高さにつながっており、このこともCEFMの主な要因だと言える[138]。



5 公式・非公式な組織の中でCEFMを生み続ける社会規範・ジェンダー規範を変革するために実施可能な対策と取り組みに関する提言

このセクションでは、研究結果に基づく提言を短くまとめて紹介する。プランAPACの調査やKIIの回答者から得た結果を含む文献から、公式・非公式な組織の中でCEFMを生み続ける社会規範・ジェンダー規範を変革するために、どのような対策と取り組みが実施可能であるかを導き出す。また、社会規範とジェンダー規範に焦点を当てることは、CEFMに関するプランのグローバル・ポリシーと一致しており、そのことは、CEFMが行われる根底に、女性のセクシュアリティの支配を含む有害なジェンダー規範があること強く印象付ける[139]。また、提言にある行動のすべてとは言わないまでも、そのほとんどが、行動を重視するプランの「18＋変革の理論」の社会規範・考え方・行い・関係性にわたる変革の柱となる各要素と一致していることも注目に値する。

女の子のエンパワーメントの取り組みに投資・実行する。

社会規範・ジェンダー規範の変革にはコミュニティを巻き込むことが重要なことははっきりしているが、女性や女の子が直面するジェンダー不平等と戦うための知識、スキル、ツールを持つために、プログラムを通して女性と女の子の社会的、経済的、政治的な力を強化することもきわめて重要である[140]。調査結果でも明らかなように、家父長制の強い社会では普通、女性や女の子が内面で自らを抑圧していて（言い換えれば、社会における従属的役割を受け入れるべきだと信じており）、これを変えるには連携した取り組みが必要となる。

女の子や女性が自らの権利を主張し、（教育や経済的機会などの）機会を活かせるよう能力を強化することが、ジェンダー規範の変革につながる可能性がある。そしてそれは、女の子や女性たちが新しい役割を担い、家族やコミュニティにとってプラスになる成果や見返りを生む姿をコミュニティ住民らが目の当たりにした時である。「教育は、自分と家族にとってより良い人生への機会を開くものであり、それは、結婚や母であること、（農村部での）小規模農業の先に進むことだということを女の子たちがもっと理解できるようになること。そして教育を受けた女の子たちが普通にジェンダー平等を受け入れ、支持し、自信を高めるにつれ、そして自分たちの意見を述べ、自分たちにかかわる決定に影響を与えられるようになると、好循環を生み出していく」[141]。

若者主導の活動に若者をパートナーとして参加させる。

若者はジェンダー・トランスフォーマティブなプロジェクトの命運を左右する重要なパートナーである。そして、調査結果が示すように、単なる参加者ではなく、変革のパートナーとして若者が関与する時、プログラムの効果は高まる[142]。I実際、女の子自身が自分の権利を主張できることが、いくつかの組織の成果達成に大きな役割を果たした。女の子たちが自分の権利を主張すると、一般的に両親など他の人々にその決定は支持されやすかった。しかし、YP財団が指摘するように、「若者は単なるやる気と目新しさだけでは動かない」。強力な支援ネットワークをはじめ、参加者や卒業生を継続的な学習と成長の機会につなげるなどの戦略も必要なのだ。



調査結果で考察されたように、ユース活動家を保護しながら効果的に参加させるためには、支援体制と実現に向けた環境をしっかり整えることが重要である。これには、市民社会の議題や仕組みに子どもを参加させるための公共投資の拡大、女の子と若い女性の権利（相続、土地所有、借入と貸付、結婚、ジェンダーに基づく暴力の防止）を実現するための法改正、国内の子どもの保護法と国際人権条約の実施の改善などが含まれる[143]。女の子と男の子が変革の担い手として政府に提言を行う能力を身につけ、早すぎる結婚の防止に関する政策の実施を加速させることを目指したプラン・インドネシアのキャンペーンYayasanでは、若者主導のキャンペーンと政策提言が重要な役割を果たした。このプロジェクトは、若者主導、女の子主導の活動づくりだけでなく、地区や村レベルでも同時に早すぎる結婚防止に関する規制や法律を施行するという確約を、国や地方政府から取り付けることにも成功した[144]。

有害な社会規範とジェンダー規範を変革するために、宗教指導者と連携する。

調査結果によれば、宗教指導者は、しばしばコミュニティの「管理者」と見られていることが多く、かなりの影響力を持っているため、彼らとの連携は重要である[145]。「宗教指導者がCEFMの弊害に気づけば、彼らはCEFM防止のチャンピオン（推進役）として、その力と発言力を使って規範と慣習に影響を与えられる」ことが分かっている[146]。たとえば、タイでは、イスラム教委員会が政府機関に加わり、意識向上とイスラム教の伝統の下で行われている早すぎる結婚の防止に取り組んでいる[147]。「こうした指導者らが開かれた対話の場に参加することで、彼らは自分の考え方を述べ、自分自身そして互いに向き合い、社会的性差のない規範をつくる機会を得ることができる」[148]。ネパールでは、ヒンドゥー教徒、仏教徒、キリスト教徒、イスラム教徒の指導者が早すぎる結婚を糾弾する公共サービス広告をユニセフとUNFPAが作成した[149]。

女の子の教育に影響を与える社会規範・ジェンダー規範に対する個々の家庭やコミュニティの意識と態度に働きかける。

社会規範とジェンダー規範を変えるには、対話と会話の場を十分に提供することが必要だという研究結果がある。対話を通して、親が女の子の価値を認め、娘の夢を支えるきっかけが生まれる。また、家庭やコミュニティでの会話で、共通の価値観がはぐくまれ、教育を受けたいという女の子の願いに対する支持が広がる可能性もある[150]。会話する中で深く考え、ポジティブな考え方と規範が導き出され、教育の抱える課題や選択肢に気づき、子どもの学校教育に関する家族の意思決定に前向きな影響を与える場合がある。

対話と会話の中で、早すぎる結婚が女の子の教育、健康、ウェルビーイング（幸せ）に及ぼすマイナスの影響も強調すべきである。しかし、多くの家庭が早すぎる結婚を子どもの将来を守るための唯一の選択肢と考え、子どもの最善の利益のためだと信じているため、親を疎外したり非難したりしないよう注意を払う必要がある[151]。教育は、女の子と男の子がジェンダー平等を含む新しい知識や考え方に触れるためのカギである上、教育を受けたいという女の子自身の願いが規範を変える大きな力になるため、教育（特に中等教育）は、早すぎる結婚に対する支持の低下につながる[152]。さらに、コミュニティのエンゲージメント（参加）と教育に対する支持が高まることで、地域コミュニティに連帯感と、自分たち自身が変革に取り組み成果を得たという意識が築かれる[153]。

ジェンダーに配慮した、状況に応じた、柔軟で親近感のあるCSEとSRHRに関する情報とサービスを提供する。

ジェンダーやセクシュアリティをめぐる社会規範に立ち向かうことは、きわめて重要である。これは、特に体の自律性、性と生殖の権利、人生設計全般（これらはすべてCEFMの問題と密接に関連している）について、女の子が選択し、自由をつかむ力を強化するために最も重要である[154]。プランの「CEFM に関するグローバル・ポリシー概要」で強調されているように、CEFM を撲滅するには、「こうした有害な社会規範とジェンダー規範に立ち向かい、女の子と若い女性が自分の体と性と生殖の健康と権利に対する自律性を確保することが、きわめて重要である」[155]。 プランの「18＋対象プログラム」と「ガールズ・パワー・イニシアティブ」はその好例で、参加者が安心してセクシュアリティについて語り、セクシュアリティに関するポジティブなメッセージを伝え、「普通・異常」の概念を払拭し、罪の意識や周囲の評価から脱却できるようサポートしている。

その他、プラン・東ティモールは、「Reprodutiva」という新しいスマートフォンアプリを作成し、10代の若者がリアルタイムの情報と性と生殖に関する保健サービス・情報に遠隔アクセスできるようにして、東ティモールの10代の妊娠の撲滅に力を発揮している[156]。さらに、CEFMが女の子に与えるマイナスの影響に対処するために、若い夫婦を対象にVAWG防止を含むセクシュアリティとSRHRの取り組みを実施し、対話を通して夫婦間にジェンダー平等で仲むつまじい関係を育んでいかれれば、それも有効であろう。これが、ひいてはCEFMの悪循環の打破へとつながる可能性がある。



男性・男の子を変革の担い手として巻き込む。

社会と規範の変革の取り組みには、ほとんどのコミュニティ、組織、家族で一番大きな力を持つ男性と男の子が参加しなくてはならない。不平等なジェンダー役割分担、暴力、CEFMへの支持を減らすためには、不平等（あるいは暴力）に加担する敵として単に疎外するのではなく、同じ志を持つ変革の担い手として彼らが参加することがきわめて重要である。たとえば、男性の伝統的コミュニティ指導者は、女の子と女性の活動を推進するチャンピオンとして、あるいはロールモデル、サポーターとして各コミュニティにおける早すぎる結婚の取り組みで中心的な役割を果たすことができる。

さらに、男性や男の子を巻き込むことで、家父長制的な社会規範に挑む取り組みを継続的に行うことができるようになる[157]。男らしさに関する考え方を変えることで、ジェンダー平等や女性のエンパワーメントを支持する考え方が広がる可能性がある。たとえば、ネパールでは、一部の男の子たちから、協力的な夫や父親として上の世代よりもっと良い役目を果たしたいという報告があった。また、ベトナムのモン族の男の子の中には、男性と女性の関係が公平だと貧しくないことが多く、幸せな生活を送っていることが多いことに気づいた者や、女きょうだいの意見を聞くようになって、望まない結婚について姉や妹に代わって親と交渉するつもりだと報告した者もいた[158]。

また、プランのプロジェクト「女の子のためのより良い未来の構築」では、バングラデシュの農村部で父親たちがチャンピオン・ファーザーとなって早すぎる結婚に終止符を打ちつつある。この父親たちはチャンピオン・マザーとともに、早すぎる結婚の原因と結果、出生届や女の子を学校に通わせる重要性について研修を受けている[159]。また、父親たちは、バングラデシュの法律、教育に関する政府の取り組み、早すぎる結婚の防止戦略についても知識を深め、早すぎる結婚が行われる恐れがある場合に介入できる力を身につけている[160]。

ジェンダー平等に関する法律を導入する環境を整え、実行力を高めるために多角的戦略を用いる。

法律や政策の改革と提言活動がジェンダー規範の変革を進める手段として効果を上げ続けるのは、特に改革に物的・人的リソースが十分投入され、他のアプローチと共に完全な形で実施される場合である[161]。

- まず、どんな政策提言活動を支援する場合も、そのためにはジェンダー平等に関する法律が住民に受け入れられるよう働きかけることが必要だ[162]。コミュニティや伝統的指導者、一般市民を巻き込むには、対話や会議、ソーシャルメディアプラットフォームを利用した話し合いの場所づくり、コミュニティ集会など、さまざまな方法があり、人びとが新しい法律とそれを守ることのメリット、破った場合の罰則を理解できるようにすることができる[163]。
- 第二に、特に村レベルまで地方行政単位で、実施能力を強化することが肝要である[164]。これには、もっと「思春期にやさしい」サービスの提供とともに、ジェンダー問題、CEFM、VAWGの予防、人権の原則について警察・司法関係者らの意識を喚起するのが理想的である[165]。
- 第三に、地方行政、司法制度、サービス提供者の間で共同責任と能力の共有をすすめることも有効である[166]。身分証明書の偽造を防ぐために実際に使われている出生登録システムをすべての地方公務員が利用できるようにすることが、CEFMに関する法律の実効性の強化につながる例もある[167]。模範となる例のひとつが、プラン・バングラデュのプロジェクト「女の子のためのより良い未来の構築」である。このプロジェクトは、Kurigramにおける早すぎる結婚の撲滅に向けた県の行動計画を支援し、子どもの権利侵害（特に早すぎる結婚と出生登録）に対処するための地域レベルの子どもの保護システムを強化。早すぎる結婚やその他の有害なジェンダー規範や慣習から女の子を守り、女の子に対する住民の価値観を高めるとともに、ジェンダーステレオタイプに挑み、早すぎる結婚に終止符を打つための行動を起こしている[168]。

C. CEFMを助長する社会規範・ジェンダー規範をジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチで変革



C. CEFMを助長する社会規範・ジェンダー規範をジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチで変革

プラン・インターナショナルAPACの資料「Time To Act！今こそ行動を！　早すぎる強制された結婚に取り組むためのアジア太平洋地域におけるジェンダー・トランスフォーマティブ・プログラム戦略と組織：実現するためのツールキット」によると、ジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチは、ジェンダー平等を促進し、ジェンダー不平等の根本原因に取り組むことで、不平等なジェンダーと力関係を再構築し、女の子の権利の完全な実現と、性別に関係なくすべての子ども、ユース、大人の平等を達成することを目指している[169]。

効果的なジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチのためには、緻密なジェンダー分析とその地域の理解に基づくことが非常に重要で、特に女の子や女性の権利、自由、情報へのアクセスに悪影響を与える有害で制約的な社会規範に取り組むためには必要である[170]。プランでは活動のプログラミングと実現に関して、変革を加速し、ジェンダー不平等の根本原因に取り組むのに役立つ6つの要素を定義している[171]。

1. ライフコース を通したジェンダー規範への取り組み
2. 女の子とユース女性の主体性を強化する
3. 女の子、ユース女性、女性の状態と立場の双方を向上させる
4. 男の子、ユース男性、男性がジェンダー平等を受け入れ、ポジティブで多様な男性性（マスキュリニティー）を発揮できるようにするための活動に取り組む
5. 多様な女の子と男の子のニーズと関心に応える
6. ジェンダー平等と女の子の権利実現のための環境整備をする

更に、ジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチは、ジェンダーに基づく社会的排除と差別の根本原因に取り組むことを目的としている[172]。「このアプローチは、女の子と女性の状態を改善するとともに、社会における女の子と女性の地位と価値を高めることを目的としている。これは、女の子と女性が十分な情報を得た上で選択と意思決定を行い、処罰の恐れや脅威から解放されて行動できるようになることを支援するものである」[173]。加えて、このアプローチは、ジェンダー問題により多くの国家資源を割り当て、これらの予算プロセスにおいて女の子の声と彼女らの優先事項を考慮し、さらに女の子と女性の権利を適切に保護し、彼女らが直面する障害に取り組み、彼女たちのニーズを満たす政策を提唱する[174]。

前述の通り、この研究は、プラン APAC の「Time To Act！」での複数年にわたる CEFM 撲滅研究活動を通じて得られた知識及び既存の研究に基づいている。これらは、教育機会や貧困、セクシュアリティなどの要因への対処を含む、CEFMを撲滅させるための多様な戦略を明確にしている。重複を避けるため、次節では、ジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチを用いた社会的規範とジェンダー規範の変革戦略に焦点を当てた実践のみを取り上げることにする。



6 CEFMを助長する社会規範・ジェンダー規範に対抗するための、ジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチによる有望な活動例

プランAPACはこのほど、「今こそ行動を！声をあげよう アジア太平洋地域における、強制された早すぎる結婚の防止と終結に関する証言」（2022年）を発表した。同地域でCEFMの撲滅に取り組むユース活動家や関係者の証言がこの中に掲載されている。この中で特に印象的なのは、ベトナムの「Champions of Change Club」の代表に選ばれたティエンさんの証言だ。このクラブでは、メンバーが自分の経験を共有したり、親から結婚を迫られたときに互いに助言したりする会を毎月行い、地域イベントも行っている。彼は、早すぎる結婚の根本的な原因のひとつである社会規範や偏見を変えるためには、他者を巻き込むことが重要であると強調した。**「私は常々、早すぎる結婚を終わらせるのは女の子や女性だけの責任ではなく、男の子や男性も変化をもたらす重要な要素だと考えています」と言う。「男の子と女の子が共に協力して両親を説得すれば、ともに勝利をつかめるはずです。」**[175]。

しかしながら、CEFMにつながる慣習を変える努力を含め、長期的な介入がもたらす変化については、証拠がまだ不足している。評価報告書の内容の多くは、主に人々の姿勢の変化に着目しており、行動の変化も一部にみられるが、社会規範やジェンダー規範の変革がもたらした効果を研究したものは少ない[176]。さらに、社会規範の変遷に関して正確に社会規範理論に沿った研究や・モニタリングをしている既存の研究は乏しい[177]。本研究は、その分野を明らかにすることを目的としており、以下に、ジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチによる社会規範やジェンダー規範の変化に重点を置いた有望な活動例を紹介する。実験計画法で実施された厳密な評価によって、ひとつを除くほとんどが一定の成功を収めている。

CAREが実施したSNAPフレームワークが例外だが、多面的評価中の有望な活動であり（まだメタ評価には至っていない）、社会規範の変化を測定する数少ない先駆的研究の一つである。これらのエビデンスに基づく介入（EBI）は、CEFMを助長する社会的・ジェンダー的規範に対抗するプログラムを設計する際の方向性を提供することができる。特に多様な介入活動が正す 、社会生態的モデルを通して様々なCEFM実行者とそれを支える社会的・ジェンダー的規範が参考になるだろう。

様々な要因に対処する多面的プログラムによって支えられ、スケールアップに成功した女の子のエンパワーメント

TESFA（思春期の女の子のための経済的・性的・リプロダクティブ・ヘルスの成果に向けた）プログラムは、エチオピアのアムハラ地方南ゴンダール地区の、思春期の既婚の女の子が直面する課題を軽減するために、2010年にCAREによって開始された[178]。このプログラムは、既婚の女の子たちに、セクシャル・リプロダクティブヘルスに関する教育を同年代の仲間が主導して行い、経済的支援と資金管理支援を提供した。TESFAは、CAREが成果を出した村の貯蓄貸付組合（VSLA）モデルを仲間主導の女の子グループ内に導入し、また大人のコミュニティメンバーには社会分析と行動（SAA）を通して、ユース、特に結婚した女の子が直面する社会的・規範的障壁の解決を目指した。TESFAはまた、CEFMを助長してきた要因についてコミュニティのリーダーや年長者を巻き込んだ対話と教育を行った。

プログラムの顕著な成果として、自身の貯蓄を持つ女の子の割合が72%増加したこと、若い妻と夫のコミュニケーションの増加、GBVの減少、参加する女の子のメンタルヘルス改善、経済的な資産と知識への投資の増加、性と生殖に関する保健サービスと家族計画の利用しやすさ、女の子の社会資本とコミュニティからの支援の増加、などが挙げられる[179]。

さらにその後、TESFA+は、1）政府機構へ活動モデルを組み込み、2）コミュニティグループによる拡散と複製という2つのメカニズムを通じて、TESFAをスケールアップするように設計された。現在までに、5,000人を超える女の子とつながり、経済的エンパワーメントと、性と生殖に関する健康状態の改善に取り組むなど、大きな成果を報告している。

TESFA+を評価する調査研究の詳細については、https://www.care.org/our-work/health/adolescent-health/tesfa/を参照のこと。

家族による介入

Sammanit Jeevanは、義母からのDVを含む親密なパートナーからの暴力（IPV）を減らすための参加型、グループベース、そして家族中心型モデル である。その目的は、有害なジェンダーや社会規範を変え、女性主導の収入創出活動（IGA）を通じて、若い既婚女性の経済状況を改善することだ。Sammanit Jeevanは、VSO（「Stepping Stones」から転用した「Zindagii Shoista」を転用）がネパールで実施し、近年紛争の影響を受けているバグルン県の農村に導入された。この世代間プログラムでは、ジェンダー・トランスフォーマティブ規範、経済的エンパワーメント、そしてIGAの支援という3つの要素を組み合わせたワークショップシリーズを実施している[180]。ワークショップ後の評価結果では、ベースラインのデータと比較して、18ヶ月後にユース女性が夫から受ける支配行動が減り、身体的IPVが減ったことが明らかになっている。また、介入によってユース女性の過去1カ月間の収入と貯蓄が増加し、時間の経過とともに2倍以上になったことが判明した。 更に、ワークショップの参加者は、義理の母との関係が改善したと感じ、ユース女性個人およびコミュニティのジェンダー意識の向上が観察された。

ジェンダー・トランスフォーマティブ規範トレーニングマニュアル：
manual at: https://www.whatworks.co.za/documents/publications/curricula/219-gender-transformative-norms-manual/file

組織的な拡散を利用したコミュニティメンバーやリーダーの意識改革

トスタンのコミュニティ・エンパワーメント・プログラム（CEP）は、セネガルにおいて、女性性器切除（FGM）や早すぎる結婚などの有害な慣習反対にコミュニティを説伏する方法として、体系的なコミュニティ教育や意識啓発を行っている[181]。このプログラムでは、特にジェンダー・トランスフォーマティブ手法を採用しており、女の子と女性の権利に関する知識と支援を高めることと、最高位の長老からコミュニティの女の子まで、すべてのメンバーを巻き込んで、コミュニティにおける-ジェンダーに基づく力の不均衡に対処している182 。この活動によって、指導者は有害な慣習に対する意識を高め、時には公の場で宣言するようになった[183]。CEPは以下の3つから構成される。

- 民主主義、人権、問題解決、衛生と健康、読み書き、そして計算に関する30カ月のカリキュラム
- コミュニティ運営委員会：クラスから生まれたビジョンをコミュニティ全体と協働して実行する17人のコミュニティグループ
- 「組織的普及」-クラスの参加者が、仲間や家族、委員会のメンバーに学習内容を伝え、地域全体の意識を高めること[184]

このプログラムは、組織的な拡散を通じて、家族やコミュニティにおけるFGM/Cの承認を減少させる（その結果、当たり前とされてきた慣習やそれに沿うことへの期待に変化を与えた）ことに成功し、参加者と養子（または同じ家族のメンバー）の両方の規範を変え始めていると評価された[185]。

プログラムの評価結果については: https://tostan.org/wp-content/uploads/Cislaghi2019_Article_ChangingSocialNormsTheImportan-1.pdfを参照のこと。



男の子・男性への働きかけ

より平等な未来：プロムンドとワールド・ビジョンは、女の子を軽んじる社会的・ジェンダー的規範と、早すぎる結婚を撲滅させるために、「インドにおける早すぎる結婚を防止するために父親が取り組むメンケア マニュアル」を作成した[186]。このジェンダー・トランスフォーマティブ・マニュアルでは、早すぎる結婚を防ぐために父親とどのように関与するかについてのガイダンスを提供し、男性とそのパートナー、そして娘に安全な空間を作ることで、男性、そして父親であることの意味を考え、再定義を促している[187]。このプログラムでは、男性グループを形成し、根深い社会規範の変化を促し、また暴力を使わず、息子と同じように娘を大切にし、家事にももっと貢献するという、子育てに平等な責任を持つ新しい行動を促進する[188]。また、このプログラムは、ジェンダーの不平等がいかに早すぎる結婚制度を助長しているかについて理解を深め、アルコール依存を拒否する健康的な対処メカニズムとポジティブな男性性を奨励し、男性の暴力に対する理解を深め、非暴力的で互いを気遣う関係を促し、家計 は夫婦で話し合うことを促進する[189]。

マニュアルは、https://resourcecentre.savethechildren.net/document/more-equal-future-mencare-manual-engage-fathers-prevent-child-marriage-india/を参照のこと。

カップルベースの介入とエンターテイメント教育の提供

「Change starts at home」は、女性に対するIPVの予防のためにネパールのEqual Accessが導入した、いくつかの手法から成る介入方法である。このコミュニティ参加戦略には、4つの中核的要素がある。

1. ドラマとディスカッションの要素を含む39週間の「エデュテインメント」ラジオ番組
2. 360組の夫婦を対象に、毎週1回、LDG（講演とディスカッショングループ）を通じて40週間の夫婦カリキュラムを提供
3. LDGが主催するアクティビティを通じた、より幅広いコミュニティとのエンゲージメン
4. 宗教者や地域社会のリーダーを対象とした研修（Clarkら、2017年）[190]

C. CEFMを助長する社会規範・ジェンダー規範をジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチで変革

変革の道筋、3つの異なる段階:

a. 批判的考察段階

b. スキル構築段階(カップルが新しいライフスキルに出会い、それを学ぶ段階)

c. コミュニティの意識改革段階:LDGが実施するコミュニティ活動を通じて、組織的な普及を促進する

メッセージを直接聞いた人のうち、76.6%(549人中)が内容を誰かに話しており、その相手 は、近所の人が最も多く、次いで友人、配偶者の順であった[191]。更に、直接的なメッセージと組織的な拡散により、暴力のサバイバーを支援する行動も増加した[192]。

評価研究の詳細については、以下を参照のこと:
https://www.whatworks.co.za/documents/publications/365-equal-access-nepal2/file#:~:text=About%20 Change%20Starts%20at%20Home%20(Change)&text=The%20Change%20 intervention%20was%20designed,activities%20 at%20the%20community%20level.

宗教指導者と信仰に基づく変革

コンゴ民主共和国(DRC)で実施された「What Works」プログラム、「紛争の影響を受けたコミュニティにおける女の子と女性に対する暴力を防止するための信仰団体との協力」または、「マスキュリニティの変革」では、イトゥリ州の紛争の影響を受けた15の村で伝統的な宗教指導者と活動を共にしている[193]。このプログラムでは、「ジェンダー・チャンピオン」と「コミュニティ・アクション・チーム」を奨励するとともに、男性と女性のキリスト教徒とイスラム教徒の指導者に対して、それぞれ2~3日の5つの講義からなるジェンダートレーニングを行った。トレーニングは信仰に基づくカリキュラムで、聖書の考察と、その地域に根差した信仰に基づく考えと適した言葉で行われた。その後指導者たちは、会衆への説教や、若者のグループとの対話、カウンセリングなどを通じて、トレーニングで学んだジェンダー平等のメッセージの伝達と非暴力の推進を務めた。



厳密な調査の結果、肉体的・性的IPVは実質的に半分未満に減少し（ベースラインの69%からエンドラインでは29%）、パートナー以外からの性暴力（NPSV）についても5分の1未満に減少した（ベースラインの24%からエンドラインでは4%）ことが示された。行動の変化に加えて、信念により正当化された妻への暴力が53%から38%に、男性側が一方的にセックスの権利を持つという考えも80%から55%に大きく減少するなど、規範の変化も見られた[194]。更に、性被害を受けた「サバイバー」の精神的な傷と、周囲の差別的な態度の減少が見られた。（例えば、エンドラインでは、サバイバーは助けを求める意思が増加し、受けた暴力に対して自分を責める意識が低下した。

ジェンダー・チャンピオンと信仰指導者のためのマニュアルは、以下のサイトで見ることができる: https://learn.tearfund.org/en/resources/tools-and-guides/transforming-masculinities

独創的な評価方法

CAREのティッピング・ポイント・フェーズ1では、社会規範の変化を測定するために、CAREの社会規範分析構想（SNAP）のフレームワークを含む複数のアプローチを試験的に実施した。

SNAPは、測定され、理解された社会規範の変化に基づいて構成された。これらには、フォーカス・グループ・ディスカッション（FGD）、フォトボイス、SenseMaker®といった評価ツールも使用された。このフレームワークでは、社会規範の構成要素を定義し、その上にツールを構築することで、評価者は特定の規範の強さや時間の経過とともに変化したであろう点を評価することを可能にするる。SNAPフレームワークの最初の3つの構成要素は社会規範理論から直接導き出されたもので、各コンテクストにおける規範の性質を説明するものである。経験的期待（他者がしていると思うこと）、規範的期待（他者が私に期待していると思うこと）、制裁（他者からの予想される意見や反応）である。SNAPのフレームワークの他の2つの要素は、問題の規範の現状における強さをより明確にするものである。制裁に対する感度（社会的制裁が行動にどう影響を与えるか）と例外（どのような状況下でなら規範からの逸脱が許容されるのか）である（図5参照）。

図5 CARE SNAPのフレームワーク

経験的期待	他者がしていると思うこと
規範的期待	他者が私に期待していると思うこと
例外	どのような状況であれば、規範を破ることが許されるのか
制裁	自分にとって重要な意見を持つ他の人の反応を予想すること
制裁に対する感度	どれだけ制裁が重要か

社会規範測定のためのその他のCAREツールは、以下のサイトで入手できる: https://caretippingpoint.org/tools/

7 アジア太平洋地域におけるCEFMを助長するジェンダー・社会規範の変化を測定するために提案される指標

規範の変化は、対照群と介入群[2]との比較評価（すなわちランダム化比較試験などの実験デザイン）および、ビフォーアフターの比較評価研究によって定量的に測定することができる。定量的な測定は社会規範やジェンダー規範の変化の測定にはあまり一般的ではない。それでも、その制度的側面や、関係者の力関係、あるいはジェンダー規範が人々の生活にどのように影響し、時間とともにどのように変化するかを理解するのに有用であろう[195]。表2に、ジェンダー平等の指標および、CEFMを継続させる社会規範やジェンダー規範を測る主要な指標をいくつか示す。

経験的な期待（または記述的規範）と規範的な期待（または命令的規範）

他人が_____する／_____することを期待していると考える人口の割合:



[2] 共同デザインは、1970年代に北欧で開発された参加型デザインの手法が元になっており、共同デザインの原則は主に以下の要素で構成される。t「ターゲットユーザーを意図的にプロセスのデザインに巻き込む」「デザインの決定はフィードバックを集めてからにする」「ターゲットユーザーからのフィードバックを知見に統合する」そして「フィードバックに基づきアプローチやツールを開発する」だ。

表2 CEFを根強く残す社会規範・ジェンダー規範の主要指標

両親	女の子／男の子
(両親)15～18歳未満の娘を嫁がせる (両親）娘は良い妻であり母であればよいので、娘には教育投資をしない (両親）娘の意見や希望を無視し、娘の 人生に関する意思決定への参加や関与を禁止する (両親）思春期の娘の移動の制限 (両親）セックスやセクシュアリティに関するあらゆる議論を禁止する (両親）娘に同年代の男の子と話すことを禁止する (両親）夫や姑からの暴力には耐えるよう娘に言い聞かせる (父）娘の健康や生理などに関することを娘に率直に話せる (夫）家事・育児の手伝いをする (夫）家事・家庭のことは妻と共同で決める (夫）暴力的にでも、権利として妻にセックスを要求する (夫）暴力によって妻を支配する	(女の子/男の子) 15歳～18歳未満で結婚する (女の子/男の子)学業を修了する (女の子/男の子) 親に結婚を遅らせるよう意見・願望を伝える (女の子/男の子) 一般的に男の子らしい、女の子らしいとされる活動ではないものに触れる（例：女の子は自転車に乗る、男の子は料理をする） (女の子/男の子) 正確なSRHR情報を得るために、セックスとセクシュアリティの問題についてオープンに話し合う (女の子/男の子) 健康な体と健康的な性生活の実践 (男の子) 家庭で姉妹・母親を助ける （男の子）公共の場や学校で女子生徒にセクシャルハラスメントをするなど、有害な男らしさを見せる

規範の強さ・深刻さ

自分にとって最も重要な意見を持つ人の多くが、_____という期待や信念を持っていると答えた人数の割合（具体例は本報告書E.で紹介した実践 ツールのアクティビティ5を参照）

多数派の社会的期待を持たないデモグラフィック特性を持つ人口の割合（例：若い姑は嫁の移動を制限しない、若い父親は育児を手伝う、など）

規範には___の例外があるとする人口の割合

多元的無知

多元的無知とは、集団メンバーの大半が内心では規範を否定していながら、周囲がその規範に従うことを期待していると考えているがため、その規範を遵守する行いを指す[196]。例えば、CEFMに関する個々人の態度や、CEFMに対して期待される行動についての認識の違いは、多元的な無知を示している。この違いは、各々が正しいと信じている行いと、周囲に期待されていると考えている行いの解離を測定することによって確認できる（本報告書のセクションEで紹介する実践ツールのアクティビティ5を参照）

彼女/彼の所属するグループの期待に同意していない人の割合

彼女/彼が間違っていると思う問題について発言し、行動を起こそうとする人の割合はどのくらいか

社会的制裁

以下の行動 よってついて、社会的制裁（社会的反発、社会の輪からの排除、屈辱、ゴシップ/噂など）を受ける、あるいは経験すると考えている女の子/男の子の割合：

- 18歳までに結婚しない
- 結婚を遅らせる話し合いを両親と行う
- 結婚前の妊娠（女の子のみ）
- 社会的地位/民族/宗教が異なる人との結婚
- 虐待する夫との離婚
- 暴力を受けていると助けを求める

以下の行動についてによって社会的制裁を受ける、または経験すると考えている保護者の割合。

- 18歳より前に娘を嫁がせない（例：家族の不名誉、評判の悪化、ゴシップ・噂、恥、道徳的非難など）
- 結婚を遅らせたい、学校を続けたいという娘や息子の希望を聞く
- 娘が未婚で妊娠する
- 娘や息子が、社会的地位/民族/宗教の異なる人と結婚する
- 娘や息子の離婚
- 家庭内暴力を受けてた娘が助けを求める

制裁への感度

制裁を恐れて、信じていることと違う行動をとる親/女の子/男の子の割合



D. 次のステップとさらなる調査分野のプログラミング



1 社会的・ジェンダー的規範の変化目標からプログラムを設計

社会規範やジェンダー規範の変化に焦点を当てた取り組みは、一般の人々の意識向上や、個人の態度や知識の変化に焦点を当てた従来の行動変容介入の枠を超える。社会規範は集団内の行動規則を指すので、個人の態度を変えることが必ずしも行動を変えるとは限らない。なぜなら、人は個人的に社会規範に反対であっても、社会的反発を買う恐れや社会的帰属の欲求から、社会規範に従う場合があるからである[197]。 このことは、社会規範やジェンダー規範を、変革戦略を設計する際の主要な考慮事項として含めた上で、介入策を設計することの重要性を強調している。CAREは、社会規範の変革に取り組むための設計原則を構築し、それをさらに以下の5つのプロジェクトアクションに簡略化した。

1. 先進的な考えを持つ人を探し、支援する
2. 賛同者をつなげ、支援を依頼する
3. 対話のための安全な場所を確保する
4. 未来志向のポジティブなメッセージを使う
5. 第三者からの行動を期待する

上記アクションからわかるように、プログラムデザインの出発点は、新しい行動をモデル化し、社会的支援を集めることによって、どう集団の行動ルールを変えることができるかということである。これは、一般的に個人の知識、スキル、態度を改善する方法を模索することから始まる従来の行動変容プログラムとは明らかに異なる点である。したがって、このことは、プロジェクトの成果の枠組みが、個人レベルの変化の測定にとどまらず、前項で提示した社会規範やジェンダー規範の変化の指標のいくつかを反映したものであるべきだということも意味している。更に、プランのジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチも、CEFM介入のプログラムデザインに変化を加速させ、ジェンダー不平等の根本原因に取り組むのに役立つ前述の6つの要素が組み込まれていることを確認するために使用されるべきだ。

2 社会規範やジェンダー規範を大きく変化させた、エビデンスに基づく介入から学ぶ

エビデンスに基づく介入（EBI）は、モデルプログラムとも呼ばれ、科学的検証を通じて意図した結果を達成するのに有効であることが示されており、しばしば厳密な評価を行う[198,199]。CEFMを撲滅させるための社会規範やジェンダー規範の変化への介入の効果についてはまだわからないことは多いが、プログラム開発者や実施者は、IPVや意図しない妊娠、HIVの予防など、他の分野の評価済みプログラムから学ぶことができる。これらは、ジェンダー平等と有害なジェンダー社会規範、特に命令的規範（規範的期待）の削減において測定できる結果を出し、定量的な改善を達成していることが示されている。また社会規範やジェンダー規範を変える上で、すでに評価されている効果的なアプローチを適応させることは、ゼロから新しいものを開発するよりも時間とリソースを節約が期待できる。

宗教指導者を効果的に巻き込んだ「マスキュリニティ の変革」（コンゴ民主共和国）や、拡大家族の中で若い既婚女性が直面する従属的な立場と VAWG に対処する「Sammanit Jeevan」（ネパール）などの事例については、「有望な活動」の項で詳しく述べたとおりである。しかし、その設計と実施には共通の要素がある（表3）[200]。

表3 VAWG防止介入における効果的な設計と実施要素

設計	現地の事情に精通し、堅牢な変革の理論に基づき、厳密に計画された ジェンダー・パワー分析を用い、ジェンダー平等を構築し、育成した エンパワーメント、批判的考察、コミュニケーションと紛争解決スキルの構築に重点を置いた 年齢に応じたデザイン（子どもと実施したものについて）を用い、体験学習や行動・発想の変化など学習時間を長くし、子供にとって魅力的な教育法を提供した 社会的・感情的スキルの構築及び、暴力の行使に関するジェンダーの不平等や社会規範も含む
実行	これらの介入すべてにおいて、スタッフは慎重に選ばれ、よく訓練され、サポートされている 熟考と経験的学習の時間を確保するために、介入への関与、すなわちセッションの期間と頻度、プログラム全体の長さに関して最適な密度が確保されていた

更に、一般的に効果的なプログラムアプローチは、主に個々の女の子への働きかけに焦点を当て、対人コミュニケーションや人間関係に取り組むものから、制度や政策レベルで活動するものまで、エコロジカルフレームワークにまたがる[201]。

3 社会およびジェンダー規範の変化に関する証拠に基づくプログラミングのために、研究結果やデータを最大限に活用

研究と実践のギャップを埋めるにあたっては、CEFMを助長する有害な社会的・ジェンダー的規範を変えるジェンダー・トランスフォーマティブ・戦略に効果的なプログラムデザインのための、CEFMに関する研究成果を使って、プログラム開発者及び実施者をサポートするガイドを作ることができる。例えば、ある国で特定のジェンダー規範に関して例外がどこにあるのかが分かれば（例えば、男性は家事をしないが、コミュニティによっては若い父親が育児を手伝い始めている）、この例外にあたる人々をターゲットに、彼らを『ロールモデル』としてポジティブな行動を拡大するプログラムを設計することができる[202]。また、地域政府や国政府では、スタッフのデータ活用に関する能力開発を統合することができる。

4 社会およびジェンダー規範の変更に関する介入に、ポジティブな規範強化の導入を

ここで重要なのは、社会規範は必ずしも悪いもの、有害なものばかりではない、ということだ。3.1.2 節で述べたように、社会規範はコミュニティ・社会で有用とされる様々な機能を果たすことができ、女性や子どもの価値を高める肯定的な社会規範も存在する。例えば、「親は子どもにとって最善のことを望んでいる」というポジティブな規範がある。こうした肯定的な社会規範やジェンダー規範もまた、変化のための前向きな力として利用できると考えることが重要である。これは、例えば、結婚を遅らせることは女の子の最善の選択として人生に利益をもたらしうるなど、ポジティブな規範が実際に変化の目的とどのように合致しているかの例を示すことによって行うことができる。したがって、CEFMを撲滅させるための戦略の一つとして、有害な規範を変革することを目的とした介入を、肯定的な規範を強化・補強する介入で補完することが挙げられる。

5 社会規範やジェンダー規範の変化をもたらした要因の解明を含む、さらなる研究の実施

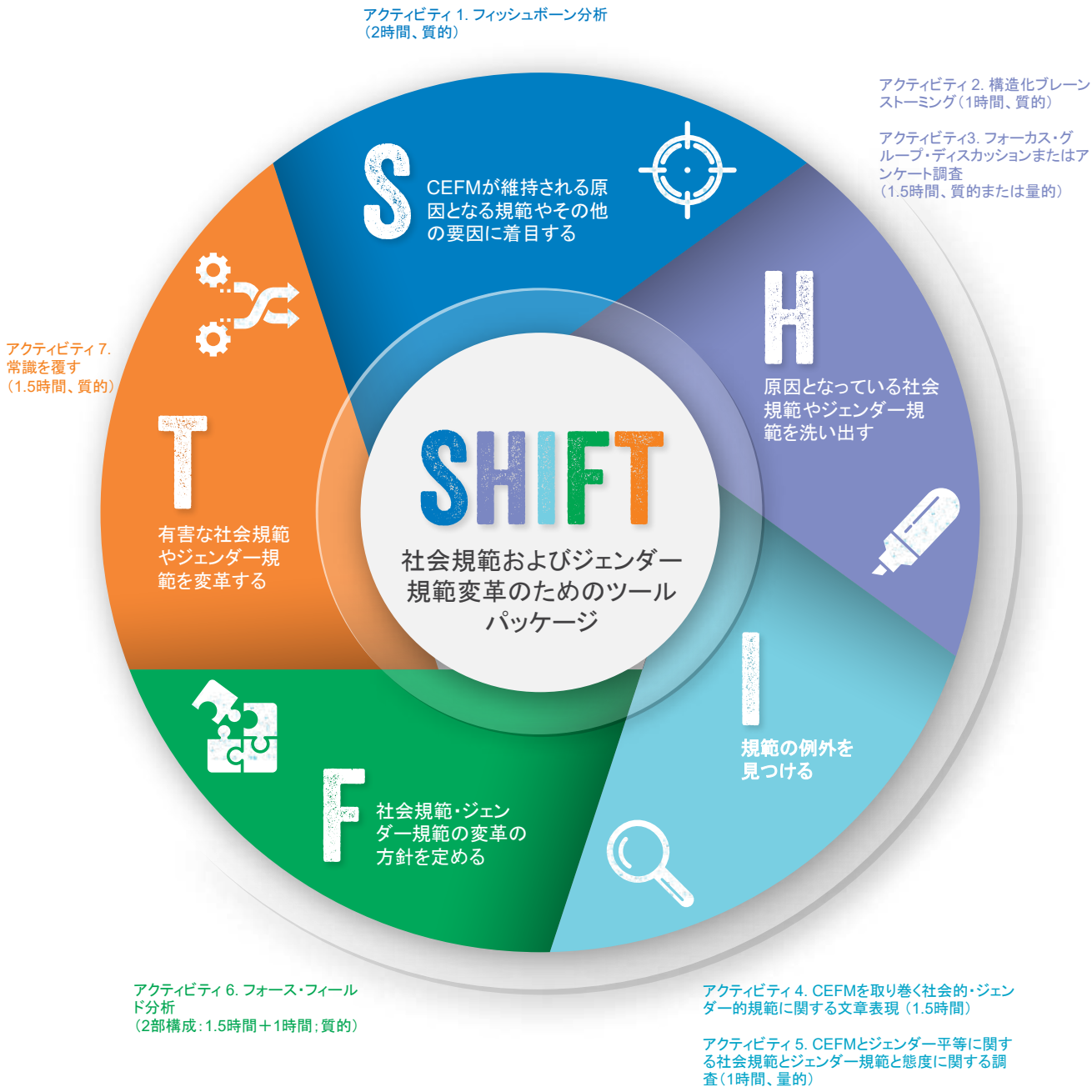
ユニセフ-UNFPA Global Programme to End Child Marriage、及び Girls Not Bridesは、2015年に早すぎる結婚の終結と結婚した女の子の支援に関する研究の優先順位リストを発表した。その結果、早すぎる結婚に関する研究は大幅に拡大し、早すぎる結婚の規模、影響、性質の理解に寄与している[203]。しかしながら、今後の研究の方向性を導き、CEFMをなくすための社会的・ジェンダー的規範の変革活動を推進するためのより多くの証拠を生み出すことができる分野の欠如が見られる。

- CEFM の撲滅にむけて、どのような介入が社会規範やジェンダー規範の転換をうまく起こすかを定量的に示す評価研究が不足している[204]
- 様々な環境において早すぎる結婚が減少した原因（教育、女性のエンパワーメントの拡大など）についての研究はあるが、これらのプログラムが女の子や女性の主体性に及ぼす影響については、さらに多くの研究が必要である[205]
- 早すぎる結婚を撲滅するために何が有効かについての最近の主なレビューでは、社会規範や規範の変化論がはっきりと取り上げられておらず、代わりに測定しやすいプログラムされた介入に焦点が当てられているため、社会規範を変える活動のもたらす影響に関する知識に大きなギャップがある[206]
- 介入の相対的な費用対効果、実施能力、拡張性を判断するためには、単一の介入と包括的な介入パッケージを実施した場合の比較影響分析や、また、異なるグループ（例えば、女の子、男の子/男性、両親とコミュニティ、宗教とコミュニティのリーダー、政策立案者を含む、結婚を遅らせ、結婚した女の子を支援するための特定のアプローチ）に与えた影響を評価するための研究が必要である[207]
- 今回の調査では取り上げられなかったが、人道的環境において社会的・ジェンダー的規範がどのようにCEFMを助長しているかを明らかにすることに焦点を当てた研究が今後求められる
- 最後に、CEFMをなくすための介入の一部として、強化し得るポジティブな社会規範やジェンダー規範の例をより多く特定するための最善の努力がなされたが、CEFMを助長する有害な規範に対抗または弱めるために、ジェンダー・トランスフォーマティブ・プログラミングの重要な鍵となり得るポジティブな社会規範やジェンダー規範を探るためにより形成的研究が有用であると思われる

E. CEFMの根底にある社会的規範やジェンダー規範の変化を分析・測定するための実用的なツール



社会規範およびジェンダー規範変革のためのツールパッケージ＜SHIFT＞





A 本ツールパッケージについて

このツールがめざすもの

このツールは、プラン・インターナショナルアジア太平洋統括事務所（APAC）のためにResultsinHealthが行ったリサーチ研究の一環である。社会規範およびジェンダー規範変革のためのツールパッケージ＜SHIFT＞には、新たに開発されたツールとともに、先に開発されたAPACの南・東南アジアにおけるCEFMに関する既存のプログラムツール[3]が含まれている。これらツールは、CEFMが維持される原因となっている社会規範およびジェンダー規範についての量的データおよび質的情報を収集し分析することに用いることができ、下記のテーマについての方法論、アクティビティ、ガイダンスが示されている。

1) 女の子と男の子および女性、男性に期待される適切なふるまいについて、人々の社会的な信念を測定すること
2) 社会的、ジェンダー規範に従わないことによって起こりうる不利益や特定の社会的ジェンダー規範が継承され、制度やジェンダーの力関係によってさらに増幅されていく理由についてより深く理解すること

このツールでできること

このパッケージプログラムはプログラムデザインやルーティーンプロジェクトのモニタリング、そして社会的ジェンダー規範変革の最終的なプログラム実装として活用することで社会的およびジェンダー規範変革の分析と測定に用いることができる。したがってこれらの分析・測定ツールは、APACプロジェクトサイクルのさまざまなステージ：（*設計と準備*、*実践的介入*、*振り返りと報告*）で活用できる[208]。そのため、本ツールのアクティビティやガイドの質問は、より大規模なベースラインデータ収集や形成的研究、継続的なモニタリング活動、プロジェクト終了時または影響評価の取り組みに統合することができる。いくつかのアクティビティはより特定のステージに特化したものである場合があるが、その場合は関連するステージが明記されている。これらのアクティビティや質問項目は、分析や測定のための初期データ収集の有用な出発点となりうるが、社会的ジェンダー規範CEFMを維持する原因となっている社会的ジェンダー規範について各国固有の調査に基づいてその文献研究を行うことも同様に重要である。

[3] また、レファレンスには社会規範やジェンダー規範をめぐる様々な組織やプログラムへの謝意が示されている：CARE、London School of Hygiene and Tropical Medicine、Oxfam、Overseas Development Institute、Institute for Reproductive Health-Georgetown Universityなどの社会規範やジェンダー規範に関する様々な組織やプログラムの活動に謝意を表する。最後に、この研究はプラン・インターナショナルのAoGD SRHRワークとプランAPACの「Time To Act！今こそ行動を！アジア太平洋地域における早すぎる、強制された結婚および婚姻に対処するためのジェンダー変換プログラム戦略-実践者のためのツールキット」に基づき作成されたものである。

このツールの対象

このツールパッケージは本来、アジア太平洋地域のCEFMの問題解決にむけて計画、実行、介入、振り返りを行っているプラン・インターナショナルおよびパートナーのスタッフを対象としている。しかしながら、このツールはCEFM撲滅に取り組むフィールドワークの実践者、アジア太平洋地域をはじめとする世界各国で社会規範・ジェンダー規範の社会変革・行動変革のイニシアティブに取り組む人々にとっても一定の指針となりうるものである。さらに、(このツールが)参加型のメソッドで構成されていることやコミュニティレベルで実践可能である点を踏まえれば、自身のコミュニティでCEFMを終わらせるために活動しているユース活動家にもこのツールは有益であるといえる。

ツールの使い方

ツールパッケージの各アクティビティは1回のデータ収集をおおむね1.5〜2時間程度で実施することができる。

アクティビティはプロジェクトのスケジュールや参加者の状況に合わせて数回のセッションとして実施したり、1日半〜2日間のコンサルティング・ワークショップ として行うことも可能である。このパッケージのすべてのアクティビティが全体を通してCEFMの原因となっている社会的ジェンダー的規範をについてわかりやすく示しているものであるため、パッケージ内のすべてのアクティビティを実施できるのが理想ではあるが、限られた時間やリソースに合わせて、また、その国や地域において優先的に取り組まなければならない格差や特定の状況に合わせて(地域の役所や実践者は)関連が深いアクティビティを選んで実施してもよい。

このパッケージは南アジア・東南アジア地域におけるCEFM研究の広範なデスクレビューに基づいてるが、アクティビティや質問項目は、各国の最新の情報やデータに基づいてその地域のニーズに合わせて調整することが可能である。さらに現場でCEFMの問題に取り組む人々 とコンサルテーションを行うことで、このアクティビティが信頼に足るものであることや地域のニーズに応えられるものであること、また地域の文化に配慮したものであるということが確実に理解されるはず である。

B SHIFTの主要エレメントとキークエスチョン

SHIFTツールパッケージの目的は研究・評価チームが7つの重要な質問に答え、コミュニティやグループ内に存在する社会的、ジェンダー規範について分析、それらの変を測定することである。

1) CEFMに最も影響を与える社会規範やジェンダー規範は何か
2) 人々が社会規範に従うのはなぜか
3) CEFMの原因となっている社会的・ジェンダー規範を維持させ、強化しているのは誰か
4) 社会的、ジェンダー規範が世代を超えて維持され、影響力を増すことと社会におけるパワーバランスや上下関係、慣例はどのように関連しているか
5) 規範に反していると周囲から思われた 場合 、その制裁や不利益の程度はどのようなものか
6) 社会規範やジェンダーにあてはまらない 「正当な」もしくは「許容可能な」例外があるか
7) プロジェクトメンバーの個人の姿勢と彼らのコミュニティやグループにおける社会的な期待にずれや矛盾があるか

CEFMの原因となる社会的、ジェンダー規範を分析するためのSIFTツールパッケージにおける主要な要素とアクティビティは表4に示す。

表4 SHIFTツールパッケージの主な要素と活動内容

構成要素		アクティビティ	活動時間・種別
S	CEFMの原因となっている規範を探る	アクティビティ1. フィッシュボーン分析	2時間　質的
H	原因となっている社会規範やジェンダー規範を洗い出す	アクティビティ 2. 構造化ブレーンストーミング	1時間　質的
		アクティビティ3. フォーカス・グループ・ディスカッションまたはアンケート調査	1.5時間、質的または量的
I	規範のほころびや例外を見つける	アクティビティ4.　CEFMを取り巻く社会的ジェンダー規範についてのストーリー　多くの人はこんなときどうする？こんなとき周囲から求められるのはどんなこと？	1.5時間
		アクティビティ5.　社会規範、ジェンダー規範およびCEFMとジェンダー平等に関する意識調査	1時間、量的
F	社会規範・ジェンダー規範の変革目標の策定	アクティビティ6. フォースフィールド分析	2部制：1.5時間＋1時間；質的
T	有害な社会規範やジェンダー規範を変革する	アクティビティ7. 有害な社会ジェンダー規範を変革するためのとっかかりと課題を特定し、同時にポジティブな規範を強める	1.5時間、質的

用語解説

社会規範とは、ある人が所属している集団において、同じグループ・コミュニティの他の人々が当然そうするだろうと考える個人の信念のことである。いわゆる典型的（「普通」）と思われていること、またはこうであるべきだ、と期待される態度やふるまいのことでもある。したがって、社会規範は「他の人がそうしているから」、「人からそうすべきだと期待されているから」という理由で人々の行動や態度に影響を及ぼすのである[209]。

2種類の規範：

経験的期待（経験的期待とも呼ばれる）：他の人々が通常何をするかについて、グループまたはコミュニティで共有された信念。例：「この地域の女の子は18歳になるまでに結婚するのが普通だ」という理解のもとに保護者が娘を18歳までに結婚させること

接続型規範（規範的期待ともいう）：何をするのが適切か、あるいは何をすることが共同体の他の人びとから期待されているかについて、集団の中で信じられている共有の信念。例：女の子は親が望もうが娘が望もうが、18歳までに結婚することが期待されている

ジェンダー規範：社会的規範の一部であり、社会的規範はそのグループや社会における女性もしくは男性のあるべき姿や適切なふるまいを定義するもの。ジェンダー規範は、制度や社会的相互作用の中に組み込まれ、再生産されるものであり、人々がそれを遵守することで利益を得る権力者によって強制される[210]。

個人的態度：社会的な状況によらない個人考え。例：私は、妊娠した女の子は恥であり、家族の体裁を守るためにすぐ結婚すべきであると思う

C アクティビティとガイド

S CEFMが維持される原因となる規範やその他の要因を探る

アクティビティ 1. フィッシュボーン分析[211]

2時間

☑ 質的
☐ 量的

魚の骨図（石川ダイアグラム、特性要因図）は、ブレーンストーミングの実践と一種のマインドマップ・テンプレートを組み合わせた根本原因分析のための可視化ツールである。

目的： CEFMを助長している社会的、ジェンダー規範についての一般的な考えや知識についてブレーンストーミングを行い、それらをカテゴライズすること。可能であればプロジェクトの設計段階、準備段階に実施できるのが理想である。



やりかた：

- CEFMの原因となっている主な要因や社会的、ジェンダー規範を挙げ、それらをリスト化する
- 包括的な要因や社会的、ジェンダー規範について話し合い、それらを**政治的、経済的、社会的、法的**に分類する（例として図6を参照）

- 各推進要因や規範について、さらに「その原因は何か」を掘り下げる。そして、関連する推進要因や規範から枝分かれして、図の中に原因を列挙していく。例えば、CEFMの要因を考えるときに、「貧困」といった一般的なものからスタートするかもしれない。なぜそれがCEFMの要因になるのかを考えると、女性は若いほど持参金が少なくて済む、娘を一人嫁に出せば食い扶持が一人減る、などの理由が出てくるだろう。他にも、教育が十分でないことや、女の子に高等教育は必要ない、女の子は働くべきではない、家やコミュニティから遠いという理由で進学が許されない、などが考えられるかもしれない。

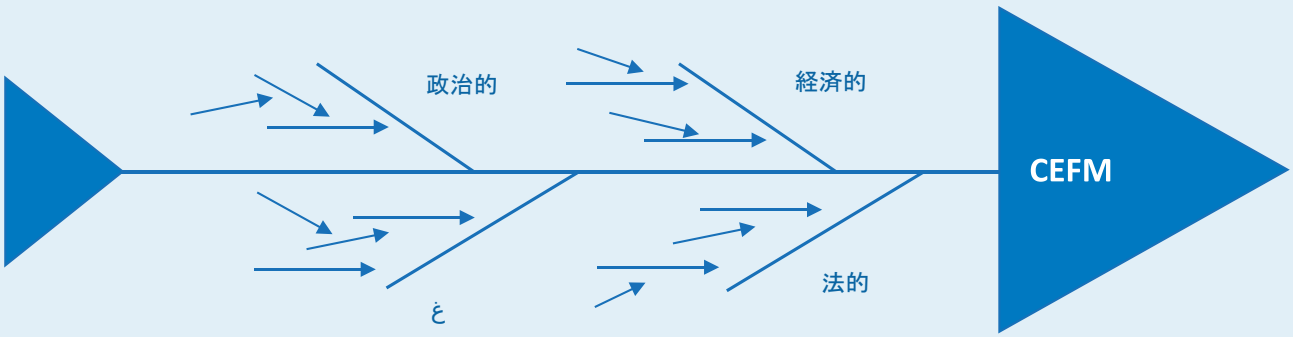


- 社会規範やジェンダー規範を洗い出すため下記のような質問をする
  1) CEFMを助長している社会的期待（何が普通で適切なふるまいかかという考え）はあるか（また、図に示されている原因に影響を与えているか）
  2) 性別を理由に女の子/女性に規定された言動や行動はあるか
  3) 性別を理由に男の子/男性に規定された言動や行動はあるか
- 問題の根源的な原因が特定されるまでそれぞれをの原因を細かく分解するプロセスを続ける

方法とヒント:

- このアクティビティは参加者の数に応じて、小グループでも会全体でも実施することができる。
- グループには、魚の骨図（特性要因図）を描き、議論した推進要因や規範をリストアップするためのフリップチャートを配布するとよい。グループに分けずに会全体でこのアクティビティを実施する場合には、参加者に個別にCEFMの原因となる要因や規範について問いかけ、その答えをファシリテーターが参加者全員の前でフリップチャートに書き込むといった形で実施することもできる。ファシリテーターは参加者の回答を単語や長すぎる文章で記すのではなく、完結でわかりやすいフレーズで記録することが求められる（ただ「持参金」と記すのではなく、「若い女の子の方が持参金が少なくて済む」と記すと意味が分かりやすい）

図6 フィッシュボーンダイアグラム例



出典: Belen、2019年

H 原因となっている社会規範やジェンダー規範を洗い出す

アクティビティ2：構造化ブレーンストーミング

1時間

☑ 質的
☐ 量的

目的： CEFMの原因となる社会的、ジェンダー規範を明らかにし、人々がそれに順応する理由を深く理解するため、要因の分析に焦点をあてる。可能であればプロジェクトの設計段階、準備段階に実施できるのが理想である。

やりかた：

- 以前に行った魚の骨図分析の結果を振り返り、それについて話し合う。社会的、ジェンダー規範を特定し〇で囲む。

  *社会規範とは、人々に広く信じられている普通そうであるべきだという価値観によって定められる非公式の規則のことである。言い換えると人々が他の人が当然そうするだろうと思うこと、また周囲からそうであるべきだと思われているだろうと考えることである。

  ジェンダー規範は社会的規範の一部であり、女性として、男性としての「普通」やそれぞれの適切とされるふるまいを定めるものである。

- これらの社会的、ジェンダー規範を表5のはじめのマスにリストアップする

表5の残りのマスのキークエスチョンについてもディスカッションを進める。

方法とヒント：

- このアクティビティは形成的またはベースライン研究の一部として実施することができる
- このアクティビティは小グループで実施するのに最適である

表5 体系的なブレーンストーミングのテンプレートと主な質問事項

社会的規範とはジェンダー規範とは	なぜ人々は規範に従うのか（例：従うことで何か利益があるのだろうか。また、反することで制裁を受けるおそれがあるのだろうか）	CEFMを永続させる社会的・ジェンダー的規範を強化するゲートキーパーや権力者は誰なのか	社会的、ジェンダー規範は制度やジェンダーのパワーダイナミクスの中でどのように再生・強化されるのだろうか
例： 思春期の女の子が妊娠したらすぐに結婚させなければならない	結婚せずに妊娠した娘の存在は一家の恥である	両親、義理の家族、伝統的・宗教的指導者、学校関係者	• 早すぎる結婚に関する法律には妊娠した女の子を例外とするものがある • 妊娠した女の子に退学を強制する学校がある一方で男の子にそのようなことはない

出典 筆者作成；2022年ベレン市



アクティビティ3. フォーカス・グループ・ディスカッションまたはアンケート調査

1.5時間

☑ 質的
☑ 量的

目的: CEFMの実践を取り巻く典型的で適切な行動に関する共有された信念がどの程度広範であるかについて、より詳細な質的情報を収集し、社会規範とジェンダー規範における変化の初期段階をモニタリングすること。
このフォーカス・グループ・ディスカッション（FDG）は、規範の強さの指標について情報を収集すること目的としている。
制裁が厳しいか軽いか、制裁に対する感度（すなわち、制裁が人びとに及ぼす影響力がどれほど強いか）。このアクティビティは、質的・量的手法によって実施でき、設計、準備段階でのルーティーンモニタリングやプロジェクトの振り返りに用いることができる。

使用方法

- 表6の主な質問を用いて、プロジェクトの参加予定者またはコミュニティ住民を対象としたFGDを実施するか、簡単な調査を行う。
- FGDは男女別々に実施してもよい。
- このアクティビティで測定された特定の規範は特定の国におけるスコーピング・スタディや形成的調査から得られた情報をもとに調整もできる。

E. CEFMの原因となっている社会的規範、ジェンダー規範の変化を分析・測定する実用的ツール

表6 フォーカス・グループ・ディスカッションまたは実施済み／ガイド付き調査の主要な質問事項

FGDの質問[212]	社会規範やジェンダー規範を理解するための情報収集	調査の質問 以下の項目にどの程度同意するか： （1）とてもそう思う （2）そう思う （3）そう思わない （4）全くそう思わない
• あなたのコミュニティでは、早すぎる、強制された結婚（CEFM）はどの程度一般的か さらに調べる：CEFMはさらに一般的なものとして認識が広がっていると感じるか、もしくは、徐々に一般的でなくなってきていると感じるか。またなぜそう思うか	記述的社会規範または経験的期待	1a. 私たちのコミュニティでは、女の子は18歳までに結婚するのが一般的である 1b. 私たちのコミュニティでは、女の子は15歳までに結婚するのが一般的である 1c. 女の子は一般的に、親に強制されて18歳前に結婚することが多い 1d. 女の子は、妊娠をきっかけに18歳までに結婚するのが一般的である。
• あなたのコミュニティでは、CEFMを肯定している人、否定している人、どちらの傾向が強いか さらに調べる：時代を経て変わったことはあるか、その例は	指示的規範または規範的期待	2a. 私たちのコミュニティでは、女の子は18歳までに結婚するものだと思われている 2b. 私たちのコミュニティでは、女の子が18歳までに結婚するものだという考えは当たり前でなくなりつつある
• 早すぎる結婚のメリットは何か さらに調べる：CEFMのネガティブな結果や影響と比較して、まだメリットが上回っているだろうか、それともメリットが少ないと認識され始めているだろうか	CEFMの推進要因に関する見解	3a. 早すぎる結婚は家族に経済的な利益をもたらす 3b. 早すぎる結婚は、家族の名誉と評判を守ることで、家族に社会的な利益をもたらす
• 早すぎる結婚のデメリットは何か さらに調べる：これらのデメリットによってCEFMを避けようとする家族が増えることはあるだろうか、例を考えよう	CEFMの影響に関する見解	4a. 早すぎる結婚は女の子の心身に深刻な悪影響を与える 4b. 早すぎる結婚は家族にとってもコミュニティにとって有害である
• もし、娘が18歳過ぎまで娘の結婚を遅らせることを許可した家族がいた場合、その家族が直面しうる悪影響とはどんなものだろうか、例を考えよう さらに調べる：その悪影響は厳しく深刻なものだと捉えられているだろうか、それとも制裁の影響は小さくなっているだろうか	規範に従わない場合の制裁	5a. 娘の結婚を遅らせることはコミュニティにおける家族の名誉を傷つけることになる 5b. 娘の結婚を遅らせることは宗教的な信条に違反する。宗教的罪である
• もし、18歳未満の娘の結婚を遅らせた家庭をコミュニティが批判したら、その家庭は考えを改め、娘の結婚を押し通すだろうか さらに調べる：人々に規範を守らせるにあたってこれらの制裁の威力は弱まっているだろうか。CEFMの防止の観点を踏まえて、あらたに広まりつつあるポジティブな規範はあるか	制裁の影響力	6a. 親が早すぎる結婚をよしとしていなかったとしても、時として家族の名誉が傷つけられることを恐れて娘を結婚させざるを得ない状況がある 6b. 18歳未満で娘を結婚させたくないと考える親は、最近は女の子の教育がより重要だとして家族の名誉を心配するケースは減っている

出典: FGD の質問は、プラン・インターナショナル『社会規範の結果モニタリングにおける質的手法の使用』から引用した
調査票は筆者作成、Belen, 2022年

方法とヒント

- FGDは8人以下で行うのが理想的であり、進行役のファシリテーターと記録係配置するとより実施しやすい
- FGDは、参加者が見聞きしたことのあるコミュニティやグループ内で起きている事柄について彼らの意識や知識について問うもので、特定の個人や家族、参加者個人の経験に関するデータを集めるためのものでないことに留意すること。したがって、参加者が自ら進んで語らない限り、参加者の個人的な体験談を話すよう求めないこと。さらに、子どもを対象にFGDを実施する場合には、トラウマを再体験させることになるリスクがあることを踏まえ、ファシリテーターは必ず子どもを対象とする際の倫理リサーチガイドラインのトレーニングを受け、内容を把握する必要がある。アクティビティ実施に当たって以下のリソースを活用すること
  - プラン・インターナショナル　モニタリング・評価・調査のための国際的倫理審査（MER)
  - ユニセフ　研究、評価、データ収集と分析における倫理規定の手順
  - 子どもを対象に含む際の倫理的研究（ERIC）
  - WHO　RT　女性に対する暴力に関する介入的研究のための倫理と安全のための提言
- 調査を行う際、回答は、性別、年齢、教育水準、社会的地位、地域性（都市と農村）、人口統計学的特性などに細分化して分析することができる
- プロジェクトの実施期間中に規範の強さや影響力がどう変化していくかを測るルーティーンモニタリングツールとして、データ収集を定期的に繰り返すこと





規範の弱点や例外を見つける

アクティビティ4　CEFMを取り巻く社会的ジェンダー規範についてのストーリー[213] 多くの人はこんなときどうする、こんなとき周囲から求められるのはどんなこと

1.5時間

☑ 質的
☐ 量的

目的: 時代とともに弱くなっている、あるいは弱まり始めている社会規範やジェンダー規範を確認するとともに、規範を破る例外（少数の理由あるいは多数の理由で規範に背くことが許されること）を確認すること。規範の影響力が弱くなっている部分や従わなくても許される特例は社会的、ジェンダー規範が変化し始めているもしくは今後変化しうることを示すものであり、社会的ジェンダー規範を変革しようとするプロジェクトの重要な糸口になりうる

やりかた:

- 次のストーリーについてディスカッション（インタビューやフォーカス・グループ・ディスカッションでもよい）を行う

「あなたにファトマという母親とアメルという父親、そして二人の14歳の娘シッティの話をしましょう。ファトマとアメル、シッティが住んでいるのは、あなたが住んでいるようなコミュニティです。彼らが住んでいるマギンダナオという村では、つい最近爆撃がありました。ある日、ファトマのいとこであるソフィアが一家を訪ねてきました。ソフィアは彼女の娘サラが婚約して、1カ月後に結婚するといいました。サラはシッティと同じ14歳です。ソフィアはファトマの娘シッティもそろそろ結婚して大人の女性として子ども持つべきだといいます。ソフィアはさらに、自分の村に息子をシッティと結婚させたいと考えている家族がいると話しました。」

- 参加者に以下の質問をする。グループで実施する場合には全員が参加し、回答できるようにすること

a. 早すぎる結婚をめぐる記述的・命令的な規範について

- ファトマやアメルのような状況になったとき、一般的に多くの親はどうするだろうか、シッティならどうするだろうか
- このような状況で、地域の人々はファトマとアメルに何を期待するだろうか、彼らはシッティに何を期待するだろうか
- 彼らはなぜそうすべきだと考えるのだろうか、そう考える理由は女の子や女性が「良い」/女性/妻/母/娘であることを求められることと関連はあるだろうか
- 結婚に際して男の子が求められることとの違いは何か

b. 社会的規範を強化・弱化させる要因と特例について

- シッティがその年齢で結婚しないことを受け入れられやすくする特例や状況はあるか（年齢、社会的地位、富、場所、民族性など）
- コミュニティの中にシッティが結婚することを期待しない人々はいるか



- ストーリーの続き（意外な展開）

「しかし、ファトマとアメルはシッティがこの年齢で結婚し子どもを持つことは望ましくないと考えています。シッティは二人に結婚する前に中学を卒業して有給の仕事を見つけたいと伝えていました。ファトマとアメルは訪ねてきた人たちにシッティがこの年齢で結婚することは望ましくないと考えている旨を話しました。」

a. 早すぎる結婚をめぐる記述的規範と命令的規範:

- o コミュニティの人々はこの両親の決断をどう考えるだろうか、彼らは結婚したくないと思っているシッティのことをどう思うだろうか、彼女が結婚する前に仕事をしたいと思っていることをどう考えるだろうか、ちがう意見を持つ人はいるだろうか
- o ファトマ、アメル、シッティの周囲の人々はこの家族の決断にどう反応するだろうか（特に、シッティの同世代の人たちや、子どもを持つ父親や母親、シッティの叔父や親戚、新郎の家族、近所に住む人や、年配の人たち、コミュニティのリーダーや宗教指導者など）、彼らはこの家族について何と言うだろうか

b. メリットとデメリット

- o ファトマ、アメル、シッティが決断した結果によって被害や不利益を被る可能性はあるか、利点はあるか
- o 男の子の場合、何か違いはあるか、それはなぜか
- o 他の要因によって違いは生まれるか（年齢、社会的地位、経済状況、地域性、民族性、など）

c. 規範を壊す突破口や手がかり

- o あなたは早すぎる結婚についてのコミュニティの圧力に抵抗するファトマやアメルのような親を思い浮かべることができるか
- o 彼らが規範に従わないことを選んだ要因は何か。この変化をもたらした要因は何か
- o CEFMを撲滅する取り組みの中であなたのコミュニティではどのようなポジティブな規範が強化し得るだろうか。

d. 全ての回答を確実に記録し、集められた情報を集約して、規範に従わないことが許されるまたは、CEFMを継続させないことにつながるようなキーとなりうる特例を洗い出す

方法とヒント:

- この活動は、フォーカス・グループ・ディスカッションとして、あるいはインタビューの一部として実施することができる
- このエクササイズをルーティーンモニタリングとして 定期的に実施し、規範の強さや影響力がプロジェクトの期間中にどのように変化するか、また新たな突破口や糸口は出てこないかを確認する

アクティビティ5. 社会的ジェンダー規範およびCEFMとジェンダー平等についての意識調査[4]

1時間

☐ 質的
☑ 量的

目的: 人々が同じコミュニティの人たちに持っているとされる「そうであることが当然だ」「そうすべきだ」といった信念について、人々がどの程度同意しているのか、その統計的な情報を集める。 この調査は、あるべき姿についての社会的、ジェンダー規範と、CEFMとジェンダーの平等についての個人の考え方の矛盾（多元的無知とも呼ばれる）、有害な規範を正すために行動を起こす個人の心構えについての情報も集める。これは主に量的な手法であり、プロジェクトサイクルの設計・準備段階でのベースライン調査やレビュー・報告段階でのエンドライン調査として実施するのが有効である。

やりかた:

- ☐ プロジェクトの参加予定者またはコミュニティ人々を対象に、以下の主な質問を用いて短時間の調査を実施する
- ☐ CEFMおよびジェンダーの平等についての意識や信念に関する社会的ジェンダー規範は、FGDを実施した際に集まった情報や各国の研究のデスクレビューに基づいて調整してもよい

アンケートの質問:

あなたにとって影響力のある人たちのうち、何人くらいの人が以下の質問について「当然だ」「適切だ」と考えているだろうか。

回答スケール　1全くいない　2数人はあてはまる　3半分くらいの人があてはまる　4大半の人があてはまる　5全員があてはまる

- ☐ 女の子は18歳になる前に結婚すべきだ
- ☐ 男の子は18歳になる前に結婚すべきだ
- ☐ 保護者はセクシャルハラスメントや暴力から守るために女の子の移動や行動を制限すべきだ
- ☐ 保護者はセクシャルハラスメントや暴力から守るために男の子の移動や行動を制限すべきだ
- ☐ 女の子は高等教育を修了すべきだ
- ☐ 男の子は高等教育を修了すべきだ
- ☐ 女の子は結婚するまで処女であるべきだ
- ☐ 男の子は結婚するまで童貞であるべきだ
- ☐ 娘の結婚について最も尊重されるべきは父親の決定だ
- ☐ 女の子の教育を受けたい、まだ結婚したくない、という希望は耳を傾けられるべきだ
- ☐ 男の子の教育を受けたい、まだ結婚したくない、という希望は耳を傾けられるべきだ
- ☐ 思春期の若者が愛する人と親密な関係にあるとき、互いの忠誠を示すために避妊すべきではない
- ☐ 親密なパートナーとの間に妊娠した思春期の女の子は、すぐに結婚すべきだ
- ☐ 性暴力の結果、妊娠した思春期の女の子は、すぐに結婚すべきだ
- ☐ 結婚した女の子は外で働くべきではない
- ☐ 結婚した思春期の女の子は、結婚後1年以内に子どもを産むべきだ
- ☐ 結婚した女の子は夫に従うべきだ
- ☐ 結婚した男の子は妻の移動を制限すべきだ

[4] 社会規範や予防の専門家が開発した研究やエビデンスに基づく調査に基づいている。Perrinら（2019）より引用。ジェンダーに基づく暴力に関する社会規範と信念の尺度：低資源および人道的環境におけるジェンダーに起因する暴力防止プログラムで使用するための尺度。紛争と健康 13 (1)N. Glass and others, 'Evaluating the Communities Care Program: Best Practice for Rigorous Research to Evaluate Gender Based Violence Prevention and Response Programs in Humanitarian Settings', Conflict and Health, 12.1 (2018), 1–10 <https://doi.org/10.1186/s13031-018-0138-0>.

- ☐ 結婚した男の子は家事や育児を手伝うべきではない
- ☐ 結婚した男の子は、これらのことが一つでもあれば、妻を叩いても正当化される1）許可なしで外出する　2）家事や育児がうまくできない　3）性行為を拒否する　4）他の男性と話をする

次の文章に書かれていることの中で、あなたが間違っていると感じること、あなたのコミュニティで変えなければいけないと思うものはありますか、そのことについてあなたは自分の考えを他の人に伝えられますか

回答スケール　1：同意する　2：よくわからない　3：同意できないが他の人にそのことを言えない　4：同意できないし、そのことを他者に間違っていると伝えている

- ☐ 女の子は18歳になる前に結婚すべきだ
- ☐ 男の子は18歳になる前に結婚すべきだ
- ☐ 保護者はセクシャルハラスメントや暴力から守るために女の子の移動や行動を制限すべきだ
- ☐ 保護者はセクシャルハラスメントや暴力から守るために男の子の移動や行動を制限すべきだ
- ☐ 女の子は高等教育を修了すべきだ
- ☐ 男の子は高等教育を修了すべきだ
- ☐ 女の子は結婚するまで処女であるべきだ
- ☐ 男の子は結婚するまで童貞であるべきだ
- ☐ 娘の結婚について父親の決定が最も尊重されるべきだ
- ☐ 女の子の教育を受けたい、まだ結婚したくない、という希望は耳を傾けられるべきだ
- ☐ 男の子の教育を受けたい、まだ結婚したくない、という希望は耳を傾けられるべきだ
- ☐ 思春期の若者が愛する人と親密な関係にあるとき、互いの忠誠を示すために避妊すべきではない
- ☐ 親密なパートナーとの間に妊娠した思春期の女の子は、すぐに結婚すべきだ
- ☐ 性暴力の結果、妊娠した思春期の女の子は、すぐに結婚すべきだ
- ☐ 結婚した女の子は外で働いてはいけない
- ☐ 結婚した思春期の女の子は、結婚後1年以内に子どもを産むべきだ
- ☐ 結婚した女の子は夫に従うべきだ
- ☐ 結婚した男の子は妻の行動や異動を制限すべきだ
- ☐ 結婚した男の子は家事や育児を手伝うべきではない
- ☐ 結婚した男の子は、これらのことが一つでもあれば、妻を叩いても正当化される1）許可なしで外出する　2）家事や育児がうまくできない　3）性行為を拒否する　4）他の男性と話をする

方法とヒント:

- 調査の分析にあたっては、性別、年齢、教育レベル、社会経済的地位、都市と農村の違い、その他の人口統計学的特性にわけて回答を集計し、分析することができる
- このアンケートをプロジェクトの開始時と終了時に実施し、プロジェクト実施後の個人の意識と社会規範のズレの変化を見ることができる。

F 社会的規範・ジェンダー規範の変革の促進

アクティビティ 6. フォースフィールド分析[214]

第1部 1.5時間　第2部 1時間　☑ 質的　☐ 量的

フォースフィールド分析とは、根本原因を特定するためのブレインストーミングツールのこと。変化を促進するためには、常に抵抗する力（減少させる必要がある）と推進する力（増大させる必要がある）が存在するという想定に基づく。

目的: 社会的、ジェンダー規範のポジティブな面とネガティブな面について考え、それぞれの利点や影響力の大きさを踏まえて社会的、ジェンダー規範の変革の方針を定める

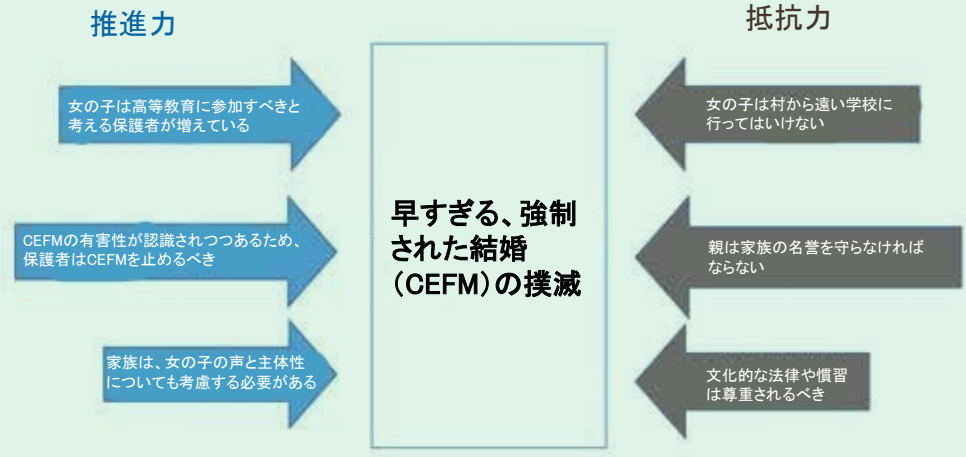
やりかた:

第1部（1.5時間）

- ①CEFM撲滅に有利に働く社会的規範とジェンダー規範（変化を推進する力）、②CEFM撲滅への障害となる有害な社会的規範とジェンダー規範（変化に抵抗する力）の2つのリストを作成する
- 社会的規範とジェンダー規範について議論し、それぞれの強さと影響力を評価する
- 規範をフォースフィールド図に配置し、それぞれの推進力と抵抗力の強さや影響力に基づいて、図中の各矢印の長さを描く／調整する（例として図7参照）
- グループで規範の推進力と抵抗力について話し合う。それらが社会的規範やジェンダー規範であって個人の価値観や態度でないことを確認する

*__社会的規範__とは、行動を規定する不文律や非公式なルールのことで、何が典型的で適切な行動であるかについての共有された信念によって導かれることを想起しなさい。言い換えれば、人々は他人がしていると思うこと、あるいは他人が他人に期待していると思うことである。そして、__ジェンダー規範__は社会的規範の一部であり、「女性と男性の許容範囲と適切な行動を定義する社会規範」である

図 7 フォースフィールド分析結果例：CEFM廃止の賛成・反対勢力



出典: 筆者作成；2022年ベレン市

第2部（1時間）

- フォースフィールド分析の結果を見直す。推進力を増加させるための方法、または新しい推進力が無いか、抵抗力を減少させるための方法についてブレーンストーミングする
- 誰が、どのような行動や議論を通じて、どのような取り組みをすべきか議論する（3As）。
- そして、以下の**3A**を決定するフォーマットを用いて、適切な変革目標を共同で策定する。第2部の結果を確認し、特定したゲートキーパーが誰であるかに基づいて、対象者を特定することができる。

方法とヒント:

- このアクティビティは様々な目的で実施することができ、参加者の人数や利用できる資料に応じて、ペアや小グループから大勢の全体会まで実施可能である。
- グループで話し合いながらリストアップできるようにグループごとにフリップチャートを配布してもよいし、ペアワーク用にワークシートを印刷してもよい。大人数の会合で実施する際には、それぞれに切り抜いた矢印を2枚ずつ配布し、CEFM廃止に影響を与えるプラスとマイナスそれぞれの力を1つずつ書いてもらい、一つの大きなフリップチャートに全員でそれぞれが書いた矢印を貼っていく、という形で実施することができる
- このアクティビティを定期的に繰り返し、日常的なモニタリングツールを用いて、プロジェクトの期間中に規範の強さや影響力がどのように変化するかを確認する。

表7　社会規範・ジェンダー規範の変革目標を策定のための行動・参加者・抱負（3As）の活用

社会規範・ジェンダー規範の変革目標	私たちが目指すのは...
ACTION（行動）（話し合う、トレーニングする、交渉する、勇気づける　など）	例: ジェンダー平等、有害なCEFMの影響、GBVの防止、女の子と男の子の権利について、活発に議論を重ねる...
AUDIENCE（関係者 ）（保護者、女の子、男の子、教師、宗教指導者　など）	同じグループの中に混合でもそれぞれ別々にでもよいが、母親と父親が含まれるべきである
ASPIRATION（達成したい目標）（女の子の意見や選択を尊重する、人々のアドボカシー能力を強化する、女の子のエンパワメントをサポートする　など）	• 暴力のない和やかで友好的な家族の関係づくりをサポートする • 娘や息子の結婚を遅らせる支援を強化する • 家族が感じている制約や圧力を理解し、CEFMの推進要因に対処するためのプログラミング戦略に反映させる

筆者作成；2022年ベレン市

T 有害な社会規範やジェンダー規範を変革する

アクティビティ 7. 常識を覆す: 有害な社会的ジェンダー規範を変革するにあたって、有効に作用するものを強化しつつ、解決の糸口や標的とすべき障壁を定める。

1.5時間

☑ 質的
☐ 量的

目的: 社会的規範やジェンダー規範を変えるためのジェンダー・トランスフォーマティブな介入を実施するための機会や課題を明らかにする

やりかた:

1. CEFMを根付かせている社会的・ジェンダー的規範を変えるための、ジェンダー・トランスフォーマティブな介入策の選択に関する議論を促進する
2. 参加者に、介入策の実施において最大化できる、あるいは構築できる機会を特定するよう求める。実施の機会を検討する際、コミュニティの中の資源や草の根の活動が広がっていくメカニズム、コミュニティの良い慣習などを考慮させること(フォースフィールド分析の結果を参考にするとよい)
3. 次に参加者に、介入策を実施する際に直面しうる課題を挙げてもらう。全体または小グループで、表8を埋めさせる
4. 最後に、彼らが知っている、あるいは推奨するジェンダー・トランスフォーマティブのための追加的な介入について話し合う

方法とヒント:

- このアクティビティを行う前に、ファシリテーターは、この研究報告書の第6章にある有益な実践例を確認することができる
- 参加者にフリップチャートを渡し、グループごとに記入してもらってもよいし、全体で実施する場合には参加者に付箋などを渡して記入してもらい、全体で一つのフリップチャートに貼り付けていくという方法もある

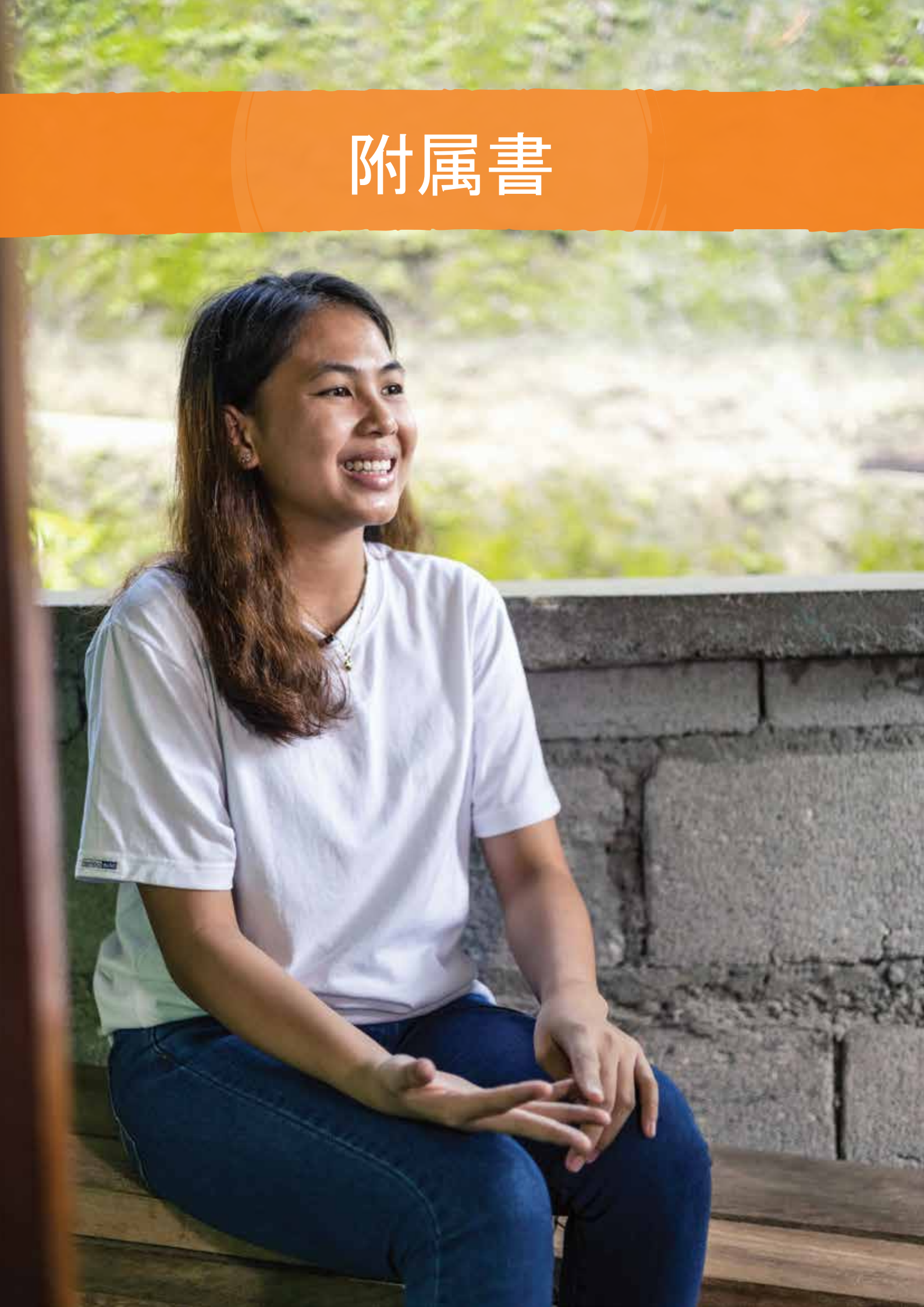


表8 社会規範・ジェンダー規範の変革のに向けたジェンダー・トランスフォーマティブ介入実施における機会と課題を特定のテンプレート

機会 →	社会的およびジェンダー規範の変化のためのジェンダー・トランスフォーマティブ的介入	← 課題
	(1) ユース活動（若者の組織化をサポートし、彼らの声と主体性を強めること）	
	(2) 女の子と女性の社会的エンパワメント（思春期の女の子クラブ、思春期のメンタリング、SRHRとCSE、意図しない妊娠の防止、など）	
	(3) ジェンダー・トランスフォーマティブ教育と結びついた女の子と女性の経済的エンパワメント（ジェンダー、人権、CEFM防止などに関する教育とともに、技能訓練、生計介入、マイクロファイナンス、など）	
	(4) 関係構築および家族関係の問題への介入（子育てプログラム、夫婦および家族の問題解決など）	
	(5) コミュニティ動員（コミュニティレベルでの委員会、防止グループ、タスクフォースの形成）、およびジェンダーとCEFMに関する幅広い教育による支援、およびCEFMに関する幅広い意識向上と一般向け教育）	
	(6)伝統的、宗教的、信仰的指導者の関与	
	(7) 法律のより良い実施、ローカルガバナンス、ジェンダーに対応したサービス提供	
	その他	

出典: 筆者作成；2022年ベレン市

附属書



ANNEX 1: KEY INFORMANT INTERVIEW RESEARCH QUESTIONS AND GUIDE QUESTIONS

Key Research Questions

1) **What are the key social and gender norms that perpetuate CEFM across the Asia Pacific region?**
   - 1.1) Specify negative social norms causing and perpetuating CEFM and their root-causes
   - 1.2) Specify negative gender norms causing and perpetuating CEFM and their root-causes
   - 1.3) Where do negative social and gender norms intersect and how does this interplay further aggravate the incidence and perpetuation of CEFM in Asia-Pacific region?
   - 1.4) To what extent, and how do these social and gender norms further affect and aggravate the situation of married girls in the Asia Pacific region?
   - 1.5) To what extent is CEFM perceived as a protective mechanism for girls and young women?

2) **What are the formal and informal power structures and systems that persist due to the deeply entrenched negative social and gender norms that further exacerbate CEFM in Asia Pacific region?**
   - 2.1) Who are the key power-holders and decision-makers perpetuating CEFM??
   - 2.2) How are the identified social and gender norms that perpetuate CEFM perceived and amplified in different structures, systems and sectors? Particularly:
     - in laws and policies (i.e., identifying which are gender-unequal or gender blind),
     - in education (school curriculum),
     - in employment markets (access to decent jobs for young women),
     - in basic services (including child protection services),
     - in the health sector (with a particular focus on Sexual Reproductive Health and Rights),
     - and in media across the Asia Pacific region.
   - 2.3) Who are the key power-holders who need to be engaged to stop CEFM in Asia Pacific region?
   - 2.4) What are the positive social and gender norms that should be promoted to contribute to preventing and eliminating CEFM across the Asia Pacific region?

3) **How can a gender-transformative approach be applied to increase the effectiveness and sustainability of programmes and interventions to prevent and eliminate CEFM in Asia Pacific?**
   - 3.1) What are the recommended counter-measures and interventions based on the gender-transformative approach that can be implemented to transform identified social and gender norms perpetuating CEFM in formal and informal structures?
   - 3.2) What are the positive social and gender norms that should be promoted to contribute to preventing and eliminating CEFM across the Asia Pacific region?
   - 3.3) What are the key indicators and tools for measuring shifts in social and gender norms that perpetuate CEFM across the Asia Pacific region?

Guide questions for semi-structured interview

Introduction: Understanding both social and gender norms have been critical in addressing child, early and forced marriage (CEFM). Today we will discuss about what you have observed and heard of regarding the social norms and gender norms that perpetuate CEFM in the country/ies you work in.

Social norms are what individuals believe others in their reference group (i.e., the group they identify themselves to be a part of) think and do, or what they believe is typical behaviour or expected from them. So social norms influence one's behaviour either because 'other people do it' or 'because other people expect me to do it'.

Gender norms are a sub-set of social norms which define what are the acceptable and appropriate actions for women and men in a given group or society. CEFM is both caused by, and contributes to deeply rooted gender inequalities and gender norms that are restrictive for girls and young women.

Data Set	Questions	Code
Social norms perpetuating CEFM	**1. What are some practices in the community/ies you work in regarding CEFM?** Probe: 1. a. How do the members view marriage in general, in terms of its role in their communities/society? 1. b. Are there differences across the different communities/ countries/areas you work in (e.g., rural vs. urban, various religious or ethnic communities)? For example, are there some communities where CEFM is more prevalent than in others?	RQ1.1 RQ1.3 RQ1.5
	2. What are some beliefs of the members of the community/ies you work in regarding CEFM? Probe: 2. a. Do members believe that CEFM is related to protecting family reputation and heritage and contributing to the well-being of girls or transition to adulthood? 2. b. How do community members view children's roles and obligations in the family vis-à-vis the parents and other elders in the family? Can you please give examples? 2. c. How do community members view the rights of children vis-à-vis the rights of parents and other elders in the family? Can you please give examples?	

Data Set	Questions	Code
Gender norms perpetuating CEFM	**3. How do the above practices, beliefs and views about the roles and rights of children differ between girl and boy children?** Probe: 3. a. How do these reflect their views about the roles and rights of married women and men? Can you please give examples? 3. b. Why do you think there is an expectation for girls to marry? Is the expectation the same for boys? Please give examples. 3. c. Are these views and beliefs held by both women and men in the families and communities? Please give examples.	RQ1.2 RQ1.3 RQ1.4
	4. What are differences in the way women and men are perceived or treated, or how their experiences differ in the community/ies you work with in terms of: • Roles and responsibilities • Access to and control of resources and the benefits from those resources • Participation in decision making in the household and in the communities • Gender-based violence Probe: 4. a. What are the different types of biases that girls experience that increase their risk for CEFM? Please provide examples. 4. b. Why do you think there is an expectation for girls to marry? 4. c. How do these affect and aggravate the situation of married girls?	
	5. What are some root-causes and factors that increase the risk of girls from CEFM? Probe: 5. a. Are there particular individual characteristics of girls at greater risk for CEFM? Are there particular groups of girls at greater risk? 5. b. What are relational factors that increase risk for CEFM? (e.g. parent-child dynamics, mother-in-law and mother of the child, etc.) 5. c. What are gender biased dynamics and factors (i.e. discriminatory against women and girls) that increase risk for CEFM that exist in the community, in institutions and in the policy environment?	RQ1.1 RQ1.2

Data Set	Questions	Code
Formal and informal power structures and systems Formal and informal power structures and systems	**6. Who are the key power-holders and decision-makers perpetuating CEFM?** Probe: 6. a. Who in the family normally makes the decision about when and to whom a girl marries? 6. b. Are there other family members in the household or in the communities who are influential in deciding about a child's marriage (e.g., mother-in-law, community leaders/elites, religious leaders)?	RQ2.1 RQ2.2 RQ2.3
	7. How are the social and gender norms you mentioned reflected or amplified in the various institutions? Probe: 7. a. In laws and policies (i.e., identifying which are gender-unequal or gender blind), 7. b. education (school curriculum), 7. c. employment markets (access to decent jobs for young women), 7. d. basic services (including child protection services), 7. e. the health sector (with a particular focus on Sexual Reproductive Health and Rights), 7. f. and in media across the Asia Pacific region.	RQ2.1 RQ2.2
	8. Who are the key power-holders who need to be engaged to end CEFM in Asia Pacific region? Probe: 8. a. in the family 8. b. in the community 8. c. in institutions such as the schools 8. d. in the political environment (various levels of government)	RQ2.3
	9. In your opinion and/or experience what are possible counter-measures and interventions that can transform views, beliefs and practices that contribute to gender inequality and unjust treatment of girls, which perpetuate CEFM? Probe: 9. a. in formal structures? 9. b. in informal structures? Please provide examples for a and b	RQ3.1

Data Set	Questions	Code
Formal and informal power structures and systems	**10. What are the positive social and gender norms that should be promoted to contribute to preventing and eliminating CEFM across the Asia Pacific region?** Probe: 10. a. in terms of individual views and attitudes of girls 10. b. in families 10. c. in communities 10. d. in institutions (e.g., schools) 10. e. in political environment (various levels of government) Please provide examples for a-e	RQ3.2
	11. Have you come across or used any tools for measuring shifts in social and gender norms that perpetuate CEFM across the Asia Pacific region? Probe: 11. a. Did you find them useful? Why or why not? 11. b. What type/s of tools do you wish existed which could help in your/your organisation's work? If you have any examples of tools that you think we can use as reference, please send the tools to us	RQ3.3

ANNEX 2: CONSENT FORM

Regional Research on identifying negative social and gender norms and power structures perpetuating Child, Early and Forced Marriage in Asia-Pacific and addressing them through gender transformative approach

We work for ResultsinHealth (RiH), an international development advisory firm, based in the Netherlands. My name is _____ and I will be conducting this interview; and I am accompanied by _____, who will support me in this interview. Plan International Asia-Pacific (APAC) asked RiH to conduct the Regional Research on identifying negative social and gender norms and power structures perpetuating Child, Early and Forced Marriage (CEFM) in Asia-Pacific and addressing them through gender transformative approach.

We would like you to be interviewed as part of this research. You have been invited to participate in this interview because of your knowledge and/or involvement in the projects related to CEFM.

Voluntary Participation

Your participation in this interview today is voluntary. You are free to decide if you want to take part or not. If you do agree to be interviewed, you can still change your mind at any time during the interview, without any issues/implications for your job, access to services, or other consequences. This is a research activity instead of a project delivery so we are only here to gather your insights and sharing, and we have nothing to offer other than listening. This also means there will be no other direct benefits related to this time we spend together today. However, we do want to highlight that your inputs are very valuable for Plan International APAC Regional Hub and country offices in Asia Pacific to strengthen their interventions in ending CEFM in the region.

Procedures

The interview will take 60-75 minutes and will include questions that focus on your opinions about social and gender norms and power structures perpetuating CEFM in Asia-Pacific.

Risks and discomforts

During the interview, you may decide not to answer a question without giving a reason and we will proceed. You can also decline to answer parts of any question. You may experience some discomfort in sharing some information. We will respect your decisions and not pressure you to talk.

Confidentiality and Anonymity

All information discussed during the interview will be kept confidential. With your permission, we would like to record this interview. All the consent forms, recordings, notes, and transcripts will be kept strictly confidential. All records will be stored according to the European General Data Protection Regulation (GDPR) 2018.

This interview will be carried out by RiH and the data will be recorded and stored according to RiH procedures. The consent forms and documentation of interviews conducted will be kept digitally in password-protected computers. The research team will also store the recordings on password-protected phones, tablets, or computers. The research team will upload all electronic files to the RiH internal drive that has encrypted and password-protected files. Only the research team will have access to the data. The recording will only be used to make sure our notes are correct and will be destroyed once the research project is over in May 2022.

We will use your information to make an assessment of the project and include your responses in the end report. Your information will be kept confidential and we will make sure that you cannot be identified in the reports or other documents of the research project.

Your name will not be listed in the research report. In case we use a direct quote of what you said in the report, we will refer to you using an alias or as one of the research respondents, more generally. Should there be anything you have said which you don't want us to use in a report or publication (even anonymously), please let us know.

To provide ResultsinHealth with the authority to use your information for this project we would like to ask you to confirm a few data protection statements:

1. Do you agree that this discussion can be digitally recorded by ResultsinHealth and that these recordings can then be transcribed (written down) for the purpose of making an accurate record of the interview?

   Yes ☐ No ☐

2. Do you agree that ResultsinHealth can store your answers given during the interview securely on password-protected computers and folders on its servers for as long as the research is going on?

   Yes ☐ No ☐

3. Do you understand that ResultsinHealth will destroy the recordings, all notes, and transcripts after the research is finished?

   Yes ☐ No ☐

4. Do you agree that ResultsinHealth can securely use the answers you have provided to write reports of the research?

   Yes ☐ No ☐

5. Your name will not be mentioned when we are writing about the project outcome. Can we share your information (e.g. demographic) in the dissemination workshop (for a limited audience) without your name?

   Yes ☐ No ☐

   If no, please explain what would be acceptable to you for us to do with your words shared in this interview.

   _____

Information from this interview will be written about anonymously.

Contact information

For more information about this review, you can contact the research team: Lingga at TriUtamaL@resultsinhealth.org using the reference "PLAN CEFM"

Written Consent Statement

I have read the preceding information. I have had the chance to ask questions about it and my questions have been answered to my satisfaction. I voluntarily consent to be a participant in this research and understand that I have the right to withdraw from the interview at any time.

☐ I agree to be interviewed *(please tick)* ☐ I do not agree to be interviewed *(please tick)*

Respondent's Signature: _____ **Date:** _____

Printed Name: _____

ANNEX 3: LIST OF KEY INFORMANTS

No.	Name	Organization	Country Rep	Gender
1	Raša Sekulović	Plan International Asia Pacific Regional Hub	Regional	Male
2	Shanti Upadhyaya	Plan International Nepal	Nepal	Female
3	Etha Mota	Plan International Timor Leste	Timor Leste	Female
4	Rara	Plan International Timor Leste	Timor Leste	Female
5	Sawada Chan Krisna	Plan International Cambodia	Cambodia	Female
6	Israt Baki	Plan International Laos	Laos	Female
7	Megawati	Plan International Indonesia	Indonesia	Female
8	Kashfia Feroz	Plan International Bangladesh	Bangladesh	Female
9	Tahmina Huq	UNICEF Bangladesh	Bangladesh	Female
10	Emelita Goddard	World Hope International	Cambodia	Female
11	Chusana Han	ASEAN Secretariat	Regional	Female
12	Kanha Chan	UNICEF Cambodia	Cambodia	Female
13	Madhu Sudhan Dawadi	CWIN Nepal	Nepal	Male
14	Upala Devi	UNFPA Asia and the Pacific Regional Office	Regional	Female
15	Rakibul Bahar	Combatting Early Marriage in Bangladesh (CEMB) Project	Bangladesh	Male
16	Ambika Prasad	Plan International Nepal	Nepal	Male
17	Anand Tamang	CREHPA, Girls not Bride Secretariat	Nepal	Male
18	Nanda Dwinta Sari	Woman Health Foundation (YKP)	Indonesia	Female
19	Jayalaxmi Chaulagain	CAD Nepal	Nepal	Female
20	Dr. Nur Rofiah	Indonesia Women's Ulema Congress	Indonesia	Female

No.	Name	Organization	Country Rep	Gender
21	Rawnak Jahan	CARE Bangladesh	Bangladesh	Female
22	Americo de Araujo	Mane Ho Visuan Foun (Man with New Vision NGO)	Timor Leste	Male
23	Damião da Silva Pereira	Fundasaun Forum Comunicações Juventude (FBO)	Timor Leste	Male
24	Yan Lay	CRC-Cambodia	Cambodia	Male
25	Alberto Pérez Pereiro	Breogán Research and Consulting	Cambodia	Male
26	Octaviana Martins	Fundasaun Patria (NGO)	Timor Leste	Female
27	Risya Kori	UNFPA Indonesia	Indonesia	Female
28	Norcahyo	UNFPA Indonesia	Indonesia	Male
29	Manivanh Suyavong	Gender Development Association	Laos	Female
30	Mike Verawati	KPI (Indonesian Women's Coalition)	Indonesia	Female

参考文献

1 UNICEF. 2021. Towards Ending Child Marriage – Global Trends and Profiles of Progress. https://data.unicef.org

2 Ibid

3 Girls Not Brides. 2021. Child Marriage Atlas. https://Atlas.Girlsnotbrides.Org/Map/ (accessed Mar. 08, 2022).

4 Plan International Asia-Pacific Regional Hub. 2018. Their Time Is Now – Eliminating Child, Early and Forced Marriage in Asia.

5 Plan International Asia-Pacific Regional Hub. 2018. 'Time to Act! Accelerating efforts to eliminate early and forced marriage in Asia: Emerging effective interventions and strategies'. Brief.

6 Plan International Asia-Pacific Regional Hub. 2018. Their Time Is Now – Eliminating Child, Early and Forced Marriage in Asia.

7 Cislaghi, B. and Heise, L. 2020. Gender norms and social norms: differences, similarities and why they matter in prevention science. Sociology of Health and Illness, vol. 42, no. 2, pp. 407–422, 2020, doi: 10.1111/1467-9566.13008.

8 Plan International Asia-Pacific Regional Hub. 2021. 'Time to Act! Gender-Transformative Programme Strategies for Addressing Child, Early and Forced Marriage and Unions in Asia-Pacific: Toolkit for practitioners'.

9 Plan International. 2018. Getting it right: A Guidance Note for Gender Transformative Programming and Influencing.

10 UNICEF. 2016. A social and behaviour change agenda for inclusion and equity in education.

11 Plan International Asia Pacific Regional Hub. 2018. 'Time to Act! Accelerating efforts to eliminate early and forced marriage in Asia: Emerging effective interventions and strategies'. Brief.

12 Greene, M. and Stiefvater, E. 2019. Social and Gender Norms and Child Marriage A Reflection on Issues, Evidence and Areas of Inquiry in the Field, A Reflection on Issues, Evidence and Areas of Inquiry in the Field. https://www.alignplatform.org/resources/2019/04/social

13 Plan International Asia Pacific Regional Hub. 2018. Their Time Is Now – Eliminating Child, Early and Forced Marriage in Asia.

14 Plan International Asia Pacific Regional Hub. 2021. 'Time to Act! Gender-Transformative Programme Strategies for Addressing Child, Early and Forced Marriage and Unions in Asia Pacific: Toolkit for practitioners'.

15 Marcus, R. and Harper, C. 2015. Social Norms, Gender Norms and Adolescent Girls: A Brief Guide', Overseas Development Institute.

16 Institute for Reproductive Health – Georgetown University. 2020. Social Norms Exploration Tool.

17 Cislaghi, B. and Heise, L. 2020. Gender norms and social norms: differences, similarities and why they matter in prevention science. Sociology of Health and Illness, vol. 42, no. 2, pp. 407–422, 2020, doi: 10.1111/1467-9566.13008.

18 Ibid

19 Ibid

20 Ibid

21 Plan International Asia Pacific Regional Hub. 2018. 'Time to Act! Accelerating efforts to eliminate early and forced marriage in Asia: Emerging effective interventions and strategies'. Brief.

22 Learning Collaborative to Advance Normative Change. 2017. Overview of Experiences Diagnosing Social Norms, http://irh.org/wp-content/uploads/Learning_Collaborative_Social_Norms_Diagnosis_Background_Reader.pdf

23 Institute for Reproductive Health – Georgetown University. 2020. Social Norms Exploration Tool

24 Sood, S., Kostizak, K., and Stevens, S. 2020. Participatory Research Toolkit for Social Norms Measurement. UNFPA, Dornsife School of Public Health Drexel University and UNICEF. https://www.unfpa.org/resources/participatory-research-toolkit-social-norms-measurement

25 Plan International Asia Pacific Regional Hub. 2021. 'Time to Act! Gender-Transformative Programme Strategies for Addressing Child, Early and Forced Marriage and Unions in Asia Pacific: Toolkit for practitioners'.

26 Glinski, A., Sexton, M., and Meyers, L. 2015. Child, Early and Forced Marriage Resource Guide. USAID. https://www.usaid.gov/sites/default/files/documents/1865/USAID_CEFM_Resource-Guide.PDF

27 Plan International Asia Pacific Regional Hub. 2021. 'Time to Act! Gender-Transformative Programme Strategies for Addressing Child, Early and Forced Marriage and Unions in Asia Pacific: Toolkit for practitioners'.

28 UNFPA. 2020. How Changing Social Norms Is Crucial in Achieving Gender Equality.

29 Marcus, R. and Harper, C. 2015. Social Norms, Gender Norms and Adolescent Girls: A Brief Guide', Overseas Development Institute.

30 Ibid

31 Marcus, R., Harper, C., Brodbeck, S., et al. 2015. How Do Gender Norms Change?. Overseas Development Institute.

32 Ibid

33 Ibid

34 Ibid

35 Plan International Asia Pacific Regional Hub. 2018. Their Time Is Now – Eliminating Child, Early and Forced Marriage in Asia.

36 Greene, M. and Stiefvater, E. 2019. Social and Gender Norms and Child Marriage A Reflection on Issues, Evidence and Areas of Inquiry in the Field, A Reflection on Issues, Evidence and Areas of Inquiry in the Field. https://www.alignplatform.org/resources/2019/04/social

37 National Child Rights Council of Nepal. 2021. Research Report On The Status of Child Marriage And Impact Upon Girls

38 Greene, M. and Stiefvater, E. 2019. Social and Gender Norms and Child Marriage A Reflection on Issues, Evidence and Areas of Inquiry in the Field, A Reflection on Issues, Evidence and Areas of Inquiry in the Field. https://www.alignplatform.org/resources/2019/04/social

39 CARE. 2017. Applying Theory to Practice: CARE's Journey Piloting Social Norms Measures for Gender Programming. https://prevention-collaborative.org/wp-content/uploads/2018/04/applying_social_norms_theory_to_practice_cares_journey.pdf

40 Plan International Asia Pacific Regional Hub. 2018. Their Time Is Now – Eliminating Child, Early and Forced Marriage in Asia.

41 Glinski, A., Sexton, M., and Meyers, L. 2015. Child, Early and Forced Marriage Resource Guide. USAID. https://www.usaid.gov/sites/default/files/documents/1865/USAID_CEFM_Resource-Guide.PDF

42 Plan International Asia Pacific Regional Hub. 2018. Their Time Is Now – Eliminating Child, Early and Forced Marriage in Asia.

43 CARE. 2020. Tipping Point Baseline – Social Norm Findings.

44 Ibid

45 UNFPA. 2020. How Changing Social Norms Is Crucial in Achieving Gender Equality

46 Ibid

47 CARE. 2020. Tipping Point Baseline – Social Norm Findings.

48 Plan International Asia Pacific Regional Hub. 2018. Their Time Is Now – Eliminating Child, Early and Forced Marriage in Asia.

49 Girls Not Brides. 2022. Girls' Sexuality and Child, Early, and Forced Marriages and Unions: A Conceptual Framework.

50 Plan International Asia Pacific Regional Hub. 2018. Their Time Is Now – Eliminating Child, Early and Forced Marriage in Asia.

51 CARE. 2020. Tipping Point Baseline – Social Norm Findings.

52 Ibid

53 Girls Not Brides. 2022. Girls' Sexuality and Child, Early, and Forced Marriages and Unions: A Conceptual Framework.

54 Marcus, R. and Harper, C. 2015. Social Norms, Gender Norms and Adolescent Girls: A Brief Guide', Overseas Development Institute.

55 Plan International Asia Pacific Regional Hub. 2021. The 2021 Asia-Pacific Girls Report – Voice, Choice and Power.

56 CEFMU and Sexuality Programs Working Group. 2019. Tackling the Taboo: Sexuality and Gender-Transformative Programmes to End Child, Early and Forced Marriage and Unions.

57 Ibid

58 Plan International Asia Pacific Regional Hub. 2018. Their Time Is Now – Eliminating Child, Early and Forced Marriage in Asia.

59 UNICEF. 2021. Towards Ending Child Marriage – Global Trends and Profiles of Progress. https://data.unicef.org

60 Plan International and UNFPA. 2021. A Hidden Reality for Adolescent Girls: CEFMU in Latin America and the Caribbean.

61 National Child Rights Council of Nepal. 2021. Research Report On The Status of Child Marriage And Impact Upon Girls

62 Plan International Asia Pacific Regional Hub. 2021. The 2021 Asia-Pacific Girls Report – Voice, Choice and Power.

63 Plan International Asia Pacific Regional Hub. 2018. Their Time Is Now – Eliminating Child, Early and Forced Marriage in Asia.

64 Plan International Asia Pacific Regional Hub. 2021. 'Time to Act! Production of a Regional Toolkit for Practitioners on Accelerating Efforts to Eliminate Child, Early and Forced Marriage and Unions in Asia Pacific' – Literature Review.

65 Plan International Asia Pacific Regional Hub.2018 Their Time Is Now-Eliminating Child, Early and Forced Marriage in Asia

66 Greene, M. and Stiefvater, E. 2019. Social and Gender Norms and Child Marriage A Reflection on Issues, Evidence and Areas of Inquiry in the Field, A Reflection on Issues, Evidence and Areas of Inquiry in the Field. https://www.alignplatform.org/resources/2019/04/social

67 Marcus, R., Harper, C., Brodbeck, S., et al. 2015. How Do Gender Norms Change?. Overseas Development Institute.

68 Ibid

69 Ibid

70 Ibid

71 Plan International Asia Pacific Regional Hub. 2018. Their Time Is Now – Eliminating Child, Early and Forced Marriage in Asia.

72 Ibid

73 United Nations Office of the Special Adviser on Gender Issues and Advancement of Women and Secretariat of the United Nations Permanent Forum on Indigenous Issues. 2010. Gender and Indigenous Peoples.

74 Narciso, V., Henriques, P., and Tilman, M. 2012. Land and Gender in Matrilineal Timor.

75 Ibid

76 Ibid

77 International Cooperation Cambodia (ICC). 2004. A Livelihood and Gender Study of Three Bunong Kroms.

78 Ibid

79 United Nations Office of the Special Adviser on Gender Issues and Advancement of Women and Secretariat of the United Nations Permanent Forum on Indigenous Issues. 2010. Gender and Indigenous Peoples.

80 Narciso, V., Henriques, P., and Tilman, M. 2012. Land and Gender in Matrilineal Timor.

81 Ibid

82 Ibid

83 da Silva, K. 2017. Women, Gender and Power among Indigenous Peoples of Portuguese Timor. *Anuário Antropológico*, v.42 n.2, 2017, 183–205 https://doi.org/10.4000/aa.2240

84 Ibid

85 Marcus, R. and Harper, C. 2015. Social Norms, Gender Norms and Adolescent Girls: A Brief Guide', Overseas Development Institute.

86 Ibid

87 Ibid

88 UNFPA. 2020. How Changing Social Norms Is Crucial in Achieving Gender Equality

89 Plan International Asia Pacific Regional Hub. 2018. Their Time Is Now – Eliminating Child, Early and Forced Marriage in Asia.

90 Greene, M. and Stiefvater, E. 2019. Social and Gender Norms and Child Marriage A Reflection on Issues, Evidence and Areas of Inquiry in the Field, A Reflection on Issues, Evidence and Areas of Inquiry in the Field. https://www.alignplatform.org/resources/2019/04/social

91 UNFPA. 2020. How Changing Social Norms Is Crucial in Achieving Gender Equality

92 CARE. 2020. Phase 2 – Baseline Executive Summary Understanding the Root Causes of Child Marriage: Baseline Findings from the Tipping Point Evaluation in Bangladesh and Nepal.

93 Belen, K. and Minhas, S. 2021. Addressing the SRHR Issues of Diverse Groups of Women, Men and Youth Gender and Diversity Analysis in SRHR UNFPA Healthy Families "Sihat Mand Khandan" (SMK) Project.

94 Ibid

95 Ibid

96 Ibid

97 Mela-Athanasopoulou, E. 2012. The Kalasha Woman Today. International Journal of Humanities and Social Science, 2.17 (2012), 88–94 http://www.ijhssnet.com/journals/Vol_2_No_17_September_2012/10.pdf

98 Mohyuddin, A., Sheikh, I., and Chaudhry, H. 2015. Bashalini a Place for Biological Gender Impurities: Segregating Women During Menstuation in Kalash. 27.1 (2015), 549–54

99 Mela-Athanasopoulou, E. 2012. The Kalasha Woman Today. International Journal of Humanities and Social Science, 2.17 (2012), 88–94 http://www.ijhssnet.com/journals/Vol_2_No_17_September_2012/10.pdf

100 Plan International Asia Pacific Regional Hub. 2018. Their Time Is Now – Eliminating Child, Early and Forced Marriage in Asia.

101 Ibid

102 Ibid

103 Ibid

104 Marcus, R. and Harper, C. 2015. Social Norms, Gender Norms and Adolescent Girls: A Brief Guide', Overseas Development Institute.

105 Greene, M. and Stiefvater, E. 2019. Social and Gender Norms and Child Marriage A Reflection on Issues, Evidence and Areas of Inquiry in the Field, A Reflection on Issues, Evidence and Areas of Inquiry in the Field. https://www.alignplatform.org/resources/2019/04/social

106 Ibid

107 Ibid

108 Plan International Asia Pacific Regional Hub. 2018. Their Time Is Now – Eliminating Child, Early and Forced Marriage in Asia.

109 Ibid

110 Marcus, R., Harper, C., Brodbeck, S., et al. 2015. How Do Gender Norms Change?. Overseas Development Institute.

111 Greene, M. and Stiefvater, E. 2019. Social and Gender Norms and Child Marriage A Reflection on Issues, Evidence and Areas of Inquiry in the Field, A Reflection on Issues, Evidence and Areas of Inquiry in the Field. https://www.alignplatform.org/resources/2019/04/social

112 CARE. 2017. Applying Theory to Practice: CARE's Journey Piloting Social Norms Measures for Gender Programming. https://prevention-collaborative.org/wp-content/uploads/2018/04/applying_social_norms_theory_to_practice_cares_journey.pdf

113 Greene, M. and Stiefvater, E. 2019. Social and Gender Norms and Child Marriage A Reflection on Issues, Evidence and Areas of Inquiry in the Field, A Reflection on Issues, Evidence and Areas of Inquiry in the Field. https://www.alignplatform.org/resources/2019/04/social

114 Ibid

115 Plan International Asia Pacific Regional Hub. 2018. Their Time Is Now – Eliminating Child, Early and Forced Marriage in Asia.

116 Ibid

117 Ibid

118 Ibid

119 Ibid

120 Ibid

121 Ibid

122 National Child Rights Council of Nepal. 2021. Research Report On The Status of Child Marriage And Impact Upon Girls

123 Plan International Asia Pacific Regional Hub. 2018. Their Time Is Now – Eliminating Child, Early and Forced Marriage in Asia.

124 National Child Rights Council of Nepal. 2021. Research Report On The Status of Child Marriage And Impact Upon Girls

125 Ibid

126 Glinski, A., Sexton, M., and Meyers, L. 2015. Child, Early and Forced Marriage Resource Guide. USAID. https://www.usaid.gov/sites/default/files/documents/1865/USAID_CEFM_Resource-Guide.PDF

127 Plan International Asia Pacific Regional Hub. 2018. Their Time Is Now – Eliminating Child, Early and Forced Marriage in Asia.

128 Plan International Asia Pacific Regional Hub. 2021. The 2021 Asia-Pacific Girls Report – Voice, Choice and Power.

129 UNICEF. 2016. A Social and Behaviour Change Agenda for Inclusion and Equity in Education.

130 Plan International Asia Pacific Regional Hub. 2018. Their Time Is Now – Eliminating Child, Early and Forced Marriage in Asia.

131 Plan International Asia Pacific Regional Hub. 2021. The 2021 Asia-Pacific Girls Report – Voice, Choice and Power.

132 Ibid

133 Ibid

134 Plan International Asia Pacific Regional Hub. 2018. Their Time Is Now – Eliminating Child, Early and Forced Marriage in Asia.

135 Ibid

136 Plan International Asia Pacific Regional Hub. 2021. The 2021 Asia-Pacific Girls Report – Voice, Choice and Power.

137 Ibid

138 Ibid

139 Plan International. 2020. Child, Early, Forced Marriage and Unions Policy Brief. https://plan-international.org/publications/policy-brief-child-early-and-forced-marriages-and-unions

140 Glinski, A., Sexton, M., and Meyers, L. 2015. Child, Early and Forced Marriage Resource Guide. USAID. https://www.usaid.gov/sites/default/files/documents/1865/USAID_CEFM_Resource-Guide.PDF

141 Marcus, R., Harper, C., Brodbeck, S., et al. 2015. How Do Gender Norms Change?. Overseas Development Institute.

142 CEFMU and Sexuality Programs Working Group. 2019. Tackling the Taboo: Sexuality and Gender-Transformative Programmes to End Child, Early and Forced Marriage and Unions.

143 Plan International Asia Pacific Regional Hub. 2018. Their Time Is Now – Eliminating Child, Early and Forced Marriage in Asia.

144 Plan International Asia Pacific Regional Hub. 2021. 'Time to Act! Gender-Transformative Programme Strategies for Addressing Child, Early and Forced Marriage and Unions in Asia Pacific: Toolkit for practitioners'.

145 Plan International Asia Pacific Regional Hub. 2018. Their Time Is Now – Eliminating Child, Early and Forced Marriage in Asia.

146 Glinski, A., Sexton, M., and Meyers, L. 2015. Child, Early and Forced Marriage Resource Guide. USAID. https://www.usaid.gov/sites/default/files/documents/1865/USAID_CEFM_Resource-Guide.PDF

147 Plan International Asia Pacific Regional Hub. 2018. Their Time Is Now – Eliminating Child, Early and Forced Marriage in Asia.

148 Glinski, A., Sexton, M., and Meyers, L. 2015. Child, Early and Forced Marriage Resource Guide. USAID. https://www.usaid.gov/sites/default/files/documents/1865/USAID_CEFM_Resource-Guide.PDF

149 Ibid

150 UNICEF. 2016. A Social and Behaviour Change Agenda for Inclusion and Equity in Education.

151 Plan International Asia Pacific Regional Hub. 2018. Their Time Is Now – Eliminating Child, Early and Forced Marriage in Asia.

152 Marcus, R., Harper, C., Brodbeck, S., et al. 2015. How Do Gender Norms Change?. Overseas Development Institute.

153 UNICEF. 2016. A Social and Behaviour Change Agenda for Inclusion and Equity in Education.

154 CEFMU and Sexuality Programs Working Group. 2019. Tackling the Taboo: Sexuality and Gender-Transformative Programmes to End Child, Early and Forced Marriage and Unions.

155 Plan International. 2020. Child, Early, Forced Marriage and Unions Policy Brief. https://plan-international.org/publications/policy-brief-child-early-and-forced-marriages-and-unions

156 Plan International Asia Pacific Regional Hub. 2021. 'Time to Act! Gender-Transformative Programme Strategies for Addressing Child, Early and Forced Marriage and Unions in Asia Pacific: Toolkit for practitioners'.

157 Plan International Asia Pacific Regional Hub. 2018. Their Time Is Now – Eliminating Child, Early and Forced Marriage in Asia.

158 Marcus, R., Harper, C., Brodbeck, S., et al. 2015. How Do Gender Norms Change?. Overseas Development Institute.

159 Plan International Asia Pacific Regional Hub. 2022. 'Time to Act! Louder than Words – Collection of Testimonies on Preventing and Ending Child, Early and Forced Marriage in Asia Pacific'.

160 Ibid
161 Marcus, R and Harper, C. 2015. The Law as a Tool for Changing Gender Norms Affecting Adolescent Girls. Overseas Development Institute. https://www.odi.org/sites/odi.org.uk/files/odi-assets/publications-opinion-files/9811.pdf
162 Ibid
163 Ibid
164 Ibid
165 Ibid
166 Ibid
167 Ibid
168 Plan International Asia Pacific Regional Hub. 2021. 'Time to Act! Gender-Transformative Programme Strategies for Addressing Child, Early and Forced Marriage and Unions in Asia Pacific: Toolkit for practitioners'.
169 Ibid.
170 CARE. 2017. Applying Theory to Practice: CARE's Journey Piloting Social Norms Measures for Gender Programming. https://prevention-collaborative.org/wp-content/uploads/2018/04/applying_social_norms_theory_to_practice_cares_journey.pdf
171 Plan International Asia Pacific Regional Hub. 2021. 'Time to Act! Production of a Regional Toolkit for Practitioners on Accelerating Efforts to Eliminate Child, Early and Forced Marriage and Unions in Asia Pacific' – Literature Review.
172 Plan International. 2020. Living up to Our Commitment – Gender Transformative Programming and Influencing During COVID-19. https://doi.org/10.1542/neo.17-1-e1
173 Ibid
174 Ibid
175 Plan International Asia Pacific Regional Hub. 2022. 'Time to Act! Louder than Words-Collection of Testimonies on Preventing and Ending Child, Early and Forced Marriage in Asia Pacific'.
176 Plan International, 'Time to Act! Accelerating Efforts to Eliminate Early and Forced Marriage in Asia: Emerging Effective Interventions and Strategies'
177 CARE. 2017. Applying Theory to Practice: CARE's Journey Piloting Social Norms Measures for Gender Programming. https://prevention-collaborative.org/wp-content/uploads/2018/04/applying_social_norms_theory_to_practice_cares_journey.pdf
178 Glinski, A., Sexton, M., and Meyers, L. 2015. Child, Early and Forced Marriage Resource Guide. USAID. https://www.usaid.gov/sites/default/files/documents/1865/USAID_CEFM_Resource-Guide.PDF
179 Ibid
180 Shai, N., Pradhan, G.D., Shrestha, R., Adhikari, A., Chirwa, E., Kerr-Wilson, A., et al. 2020. "I got courage from knowing that even a daughter-in-law can earn her living": Mixed methods evaluation of a family-centred intervention to prevent violence against women and girls in Nepal. PLoS ONE 15(5): e0232256. https://doi.org/10.1371/journal.pone.0232256
181 Glinski, A., Sexton, M., and Meyers, L. 2015. Child, Early and Forced Marriage Resource Guide. USAID. https://www.usaid.gov/sites/default/files/documents/1865/USAID_CEFM_Resource-Guide.PDF
182 Ibid
183 Ibid
184 Cislaghi, B., Denny, E.K., Cissé, M. et al. 2019. Changing Social Norms: the Importance of "Organized Diffusion" for Scaling Up Community Health Promotion and Women Empowerment Interventions. Prev Sci 20, 936–946 (2019). https://doi.org/10.1007/s11121-019-00998-3
185 Ibid
186 Glinski, A., Sexton, M., and Meyers, L. 2015. Child, Early and Forced Marriage Resource Guide. USAID. https://www.usaid.gov/sites/default/files/documents/1865/USAID_CEFM_Resource-Guide.PDF
187 Ibid
188 Ibid
189 Ibid
190 Cislaghi, B., Denny, E.K., Cissé, M. et al. 2019. Changing Social Norms: the Importance of "Organized Diffusion" for Scaling Up Community Health Promotion and Women Empowerment Interventions. Prev Sci 20, 936–946 (2019). https://doi.org/10.1007/s11121-019-00998-3
191 Ibid
192 Ibid

193 Palm S, le Roux E, Bezzolato E, Deepan P, Corboz J, Lele U, O'Sullivan V and Jewkes R. 2019. Rethinking relationships: moving from violence to equality. What works to prevent violence against women and girls in DRC. https://www.whatworks.co.za/documents/publications/361-rethinking-relationships-moving-from-violence-to-equality/file

194 Jewkes R, Stern E, and Ramsoomar L. 2019. Preventing Violence against Women and Girls: Community Activism Approaches to Shift Harmful Gender Attitudes, Roles and Social Norms. https://www.whatworks.co.za/resources/evidence-reviews/item/664-community-activism-approaches-to-shift-harmful-gender-attitudes-roles-and-social-norms

195 Cislaghi, B. and Heise, L. 2020. Gender norms and social norms: differences, similarities and why they matter in prevention science. Sociology of Health and Illness, vol. 42, no. 2, pp. 407–422, 2020, doi: 10.1111/1467-9566.13008.

196 CARE. 2019. Social Norms Data Use Tool.

197 CARE. 2017. Applying Theory to Practice: CARE's Journey Piloting Social Norms Measures for Gender Programming. https://prevention-collaborative.org/wp-content/uploads/2018/04/applying_social_norms_theory_to_practice_cares_journey.pdf

198 Rolleri, L., Fuller, T., Firpo-Triplett, R., Lesesne, C., Moore, C., and Leeks, K. 2014. Adaptation Guidance for Evidence-Based Teen Pregnancy and STI/HIV Prevention Curricula: From Development to Practice, American Journal of Sexuality Education, 9:2, 135-154, DOI: 10.1080/15546128.2014.900467

199 Highfield, L., Hartman, M.A., Mullen, P.D., Rodriguez, S.A., Fernandez, M.E., Bartholomew, L.K. 2015. Intervention Mapping to Adapt Evidence-Based Interventions for Use in Practice: Increasing Mammography among African American Women. Biomed Res Int. 2015;2015:160103. doi: 10.1155/2015/160103. Epub 2015 Oct 26. PMID: 26587531; PMCID: PMC4637430.

200 Jewkes, R., Willan, S., Heise, L., Washington, L., Shai, N., Kerr-Wilson, A, Christofides, N. 2020. Effective design and implementation elements in interventions to prevent violence against women and girls. What Works To Prevent VAWG? Global Programme Synthesis Product Series. South African Medical Research Council, Pretoria. https://www.whatworks.co.za/documents/publications/373-intervention-report19-02-20/file

201 Glinski, A., Sexton, M., and Meyers, L. 2015. Child, Early and Forced Marriage Resource Guide. USAID. https://www.usaid.gov/sites/default/files/documents/1865/USAID_CEFM_Resource-Guide.PDF

202 CARE. 2019. Social Norms Data Use Tool.

203 Plesons, M., Travers, E., Malhotra, A. et al. 2021. Updated research gaps on ending child marriage and supporting married girls for 2020–2030. Reprod Health 18, 152 (2021). https://doi.org/10.1186/s12978-021-01176-x

204 CARE. 2017. Applying Theory to Practice: CARE's Journey Piloting Social Norms Measures for Gender Programming. https://prevention-collaborative.org/wp-content/uploads/2018/04/applying_social_norms_theory_to_practice_cares_journey.pdf

205 Greene, M. and Stiefvater, E. 2019. Social and Gender Norms and Child Marriage A Reflection on Issues, Evidence and Areas of Inquiry in the Field, A Reflection on Issues, Evidence and Areas of Inquiry in the Field. https://www.alignplatform.org/resources/2019/04/social

206 Ibid

207 Plesons, M., Travers, E., Malhotra, A. et al. 2021. Updated research gaps on ending child marriage and supporting married girls for 2020–2030. Reprod Health 18, 152 (2021). https://doi.org/10.1186/s12978-021-01176-x

208 Plan International Asia-Pacific Regional Hub. 2021. 'Time to Act! Gender-Transformative Programme Strategies for Addressing Child, Early and Forced Marriage and Unions in Asia-Pacific: Toolkit for practitioners'.

209 Institute for Reproductive Health – Georgetown University. 2020. Social Norms Exploration Tool

210 Cislaghi, B. and Heise, L. 2020. Gender norms and social norms: differences, similarities and why they matter in prevention science. Sociology of Health and Illness, vol. 42, no. 2, pp. 407–422, 2020, doi: 10.1111/1467-9566.13008.

211 Belen, K. 2019. Effective Appproaches to Preventing Violence against Women: Research on Programmes and Interventions Preventing Gender-Based Violence in Bangladesh

212 Plan International, Using Qualitative Methods in Results Monitoring of Social Norms.

213 Oxfam. 2017. Social Norms Diagnostic Tool-Sexual and Reproductive Health and Rights and Gender-Based Violence. https://doi.org/10.21201/2020.6843

214 Belen, K. 2019. Effective Appproaches to Preventing Violence against Women: Research on Programmes and Interventions Preventing Gender-Based Violence in Bangladesh



プランAPACは、ジェンダー・トランスフォーマティブアプローチを促進しつつ、早すぎる、強制された結婚（CEFM）を根付かせている社会的規範・ジェンダー的規範に関する世界的な知識の蓄積に貢献するために、この調査に着手した。綿密な文献調査や主要な情報提供者へのインタビューに基づき、本調査報告書は、南・東南アジアにおいて CEFM を永続させ、結婚している女の子の状況を悪化させている否定的で有害な社会規範やジェンダー規範を明らかにした。

調査結果は、社会規範やジェンダー規範が思春期の女の子の自由、資源へのアクセス、意思決定への参加を抑制しているという主張を補強する一方で、本報告書は、どの社会的規範やジェンダー規範がCEFMを永続させているかについてより詳細かつ的を絞った情報の必要性に言及している。特に、家父長制社会における女の子の価値を低くみなすジェンダー規範は、結婚した女の子の主体性、自律性、機会へのアクセスを制限し、彼女たちを性的・ジェンダー的暴力のより高いリスクにさらしている。

CEFMを永続させる社会的・ジェンダー的規範に取り組み、変革するための戦略的行動を含む提言は、この重要な分野への投資のさらなる方向性を示している。

この調査はまた、「社会的・ジェンダー的規範の把握、強調、特定、形成、変革（SHIFT）ツールパッケージ」の開発にもつながった。このツールパッケージは、CEFMを継続させる社会的・ジェンダー的規範に関する量的データおよび質的情報を収集・分析し、プロジェクトサイクルの様々な段階におけるこれらの規範の変化を測定するために使用することができる。



PLAN INTERNATIONAL

For more information, please contact:
Quynh Tran Thu (Ms.)
Regional Communications and Campaigns Lead
Quynh.TranThu@plan-international.org

Plan International Asia Regional Hub
14th Floor, 253 Asoke Building
Sukhumvit 21, Klongtoey Nua
Wattana, Bangkok 10110, Thailand

PlaninAsiaPacific
PlanAsiaPacific
PlanAsiaPacific
Plan International in Asia

© Plan International